国立国語研究所学術情報リポジトリ

全国方言談話データベース　日本のふるさとことば集成：第5巻 埼玉・千葉

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-10-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所, The National Institute for Japanese Language メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002245

全国方言談話データベース

日本のふるさとことば集成

第5巻 埼玉・千葉

国立国語研究所資料集 13-5

国立国語研究所
2002

国書刊行会

刊行のことば

昭和52年度から昭和60年度にかけて，「各地方言収集緊急調査」という全国規模での方言談話の収録事業が，文化庁によって実施されました。調査は，各都道府県教育委員会と連携のうえ，各地の方言研究者が全面的に協力して行われました。国立国語研究所は，文化庁の要請により，この調査の計画段階から，指導・助言などにかかわっていました。その後，時を経て，この調査によって収録された膨大な録音テープと文字化原稿は，文化庁から国立国語研究所に移管されました。

これらの資料は，方言の使用実態を解明する貴重なデータであるとともに，急速に失われつつある各地の伝統的方言を，文化財として記録・保存するという意味においても意義のあるものです。そこで，国立国語研究所では，受け継いだ資料を有効に利用するために，方言談話の大規模なデータベースを作成し，公開するという計画を開始しました。平成8～12年度には「方言録音文字化資料に関する研究」で，平成13年度からは「日本語情報資源の形成と共有のための基盤形成」の一環として，全国方言談話データベースの作成と公開に取り組んできました。また，データベース化にあたっては，平成9年度から科学研究費補助金研究成果公開促進費（データベース）の交付を受けています。従来にはあまりなかった，音声と文字化の電子化データを備えていますので，研究や教育に活用いただけることと思います。なお，本資料集の作成については，情報資料部門第一領域の井上文子が担当しました。

「各地方言収集緊急調査」の録音・文字化にあたっては，全国の研究者の方々が献身的に御尽力くださいました。話者として，多くのみなさまから御協力を得ました。また，各都道府県教育委員会の関係者，および，有志の御助力がありました。刊行にあたって，記して深く感謝の意を表します。

平成14年９月

国立国語研究所長　　甲　斐　　睦　朗

利用にあたって

1．内容

この書籍（冊子，CD-ROM，CD）には，以下のものを収録しています。

	冊子	CD-ROM	CD
刊行のことば	○	○	
利用にあたって	○	○	
目次	○	○	

埼玉県児玉郡上里町1981

地図	○	○	
話者・担当者	○	○	
解説	○	○	
凡例	○	○	
談話	○	○	
【地震，雷，農家の生活と経営，船着場と問屋】			
文字化・共通語訳	○		
文字化・共通語訳 pdf+方言音声 wave（ページ単位）		○	
文字化・共通語訳検索 FileMaker		○	
文字化 text（談話全体）		○	
共通語訳 text（談話全体）		○	
方言音声（談話全体）			○
注記	○	○	

千葉県長生郡長生村1977

地図	○	○	
話者・担当者	○	○	
解説	○	○	
凡例	○	○	
談話	○	○	

【地曳網漁，あぐり網漁，魚の行商】			
文字化・共通語訳	○		
文字化・共通語訳 pdf＋方言音声 wave（ページ単位）		○	
文字化・共通語訳検索 FileMaker		○	
文字化 text（談話全体）		○	
共通語訳 text（談話全体）		○	
方言音声（談話全体）			○
注記	○	○	

作成・公開の経緯

「各地方言収集緊急調査」について	○		
「各地方言収集緊急調査」地点一覧	○		
「各地方言収集緊急調査」地点地図	○		
各地方言収集緊急調査補助全体計画	○		
各地方言収集緊急調査費国庫補助要項	○		
各地方言収集緊急調査実施要領	○		
各地方言収集緊急調査の実施について	○		
調査実施上の留意事項について	○		
「全国方言談話データベース」について	○		

Adobe Acrobat Reader		○	

音声データ仕様：サンプリング周波数22.050kHz，量子化ビット数16bit，
waveファイル，ステレオ

CD-ROM は，CD プレイヤーで再生しないでください。CD プレイヤーが壊れることがあります。

本データベース編集にあたっては，個人のプライバシー等に配慮しました。
談話データの中には，現在では，その使用が好ましくないとされるような表現が含まれている場合もあり得ますが，学術的・歴史的資料の保存という観点から，そのまま収録しました。この点にご配慮のうえ，お使いください。

2．著作権

この冊子，CD-ROM，CDに収録されているデータの著作権は，国立国語研究所にあります。

3．利用条件

利用にあたっては，以下の利用条件をすべて守ってください。

（1）国立国語研究所の著作権を侵害するような行為はしないでください。

（2）この冊子，CD-ROM，CD に収録されているデータは，どのような目的においても，また，どのような媒体（紙，電子メディア，インターネットを含む）によっても，他人に再配布しないでください。

（3）この冊子，CD-ROM，CD に収録されているデータは，非営利の教育・研究目的に限り，自由に利用できます。ただし，上記（2）は守ってください。

（4）この冊子，CD-ROM，CD に収録されているデータを利用した成果物を公表する場合は，
「国立国語研究所が作成した『全国方言談話データベース』を利用した。」
などのように，明記してください。
あわせて，成果物を国立国語研究所にご寄贈いただければさいわいです。

（5）以上の利用条件に合致しない場合，あるいは，利用について不明な点がある場合は，国立国語研究所に問い合わせてください。

連絡先：〒115-8620
東京都北区西が丘3-9-14
国立国語研究所 情報資料部門
「全国方言談話データベース」係
FAX：03-3906-3530

4．付記

データの電子化，CD-ROM，CD の作成については，平成 9（1997）～14（2002）年度科学研究費補助金研究成果公開促進費（データベース）の交付を受けています。

国立国語研究所 13－5

全国方言談話データベース

日本のふるさとことば集成

第5巻 埼玉・千葉

目次

刊行のことば …… 3

利用にあたって …… 5

Ⅰ．埼玉県児玉郡上里町1981 …… 11

地図 …… 12

話者・担当者 …… 13

解説 …… 14

凡例 …… 21

談話 …… 26

【地震，雷，農家の生活と経営，船着場と問屋】 …… 27

注記 …… 94

Ⅱ．千葉県長生郡長生村1977 …… 103

地図 …… 104

話者・担当者 …… 105

解説 …… 106

凡例 …… 109

談話 …… 114

【地曳網漁，あぐり網漁，魚の行商】 …… 115

注記 …… 228

作成・公開の経緯 …… 231

「各地方言収集緊急調査」について …… 233

「各地方言収集緊急調査」地点一覧 …… 237

「各地方言収集緊急調査」地点地図……242
各地方言収集緊急調査補助全体計画……243
各地方言収集緊急調査費国庫補助要項……244
各地方言収集緊急調査実施要領……245
各地方言収集緊急調査の実施について……248
調査実施上の留意事項について……250
「全国方言談話データベース」について……256

Ⅰ. 埼玉県児玉郡上里町
1981

埼玉県児玉郡上里町

埼玉県児玉郡上里町1981話者・担当者

「各地方言収集緊急調査」

話者	加川 イセ
	加川 五郎
	加川 良太郎
収録担当者	萩原 吾郎
文字化担当者	萩原 吾郎
共通語訳担当者	萩原 吾郎
解説担当者	萩原 吾郎

（敬称略　項目別50音順）

「全国方言談話データベース」

編集担当者	佐藤 亮一
	江川 清
	田原 広史
	井上 文子
編集協力者	鑓水 兼貴
	鳥谷 善史
	熊谷 康雄

埼玉県児玉郡上里町1981解説

収録地点名　　埼玉県児玉郡上里町黛（こだまぐんかみさとまちまゆずみ）

収録地点の概観

位置

上里町は，都心から85km圏，埼玉県北西部に位置する。黛は上里町の北端にある。

交通

黛は，国鉄高崎線神保原駅から約２km。旧中山道から700m。国道17号線から約１km。関越自動車道本庄インターから約６km。

地勢

上里町は，神流川（かんな）と烏川（からす）の合流点である。南部は，神流川の古い扇状地として形成された。南部から北東にかけて次第に低くなり，緩い傾斜面のあたりには湧清水が多い。古来しばしば洪水に襲われ，特に1783（天明３）年，1846（弘化３）年の洪水では川筋が大きく移動し，村の一部が対岸となるなど地形的な変化も生じている。

また，赤城・榛名・三荷鉾など北・西・南西にある山々から発生する雷の集結地で，雷の名所でもある。

行政区画

律令制下，賀美郡が置かれ，現町名上里はこの名にちなんでいる。

中世，武蔵七党のうち丹党の諸氏が割拠。戦国期には小田原北条氏と鉢形北条氏の勢力下に入り，1582（天正10）年には，滝川一益勢との間に戦われた神流川原合戦の戦場となる。

近世，家康の関東入国の翌年の，1591（天正19）年，黛は，金窪・忍保・毘沙吐とともに，信玄の弟の子である旗本川窪新十郎信俊の知行地となる。

天明年間（1781～1788年）頃から三国街道烏川の藤の木渡しは黛村が渡船役を勤めた。

1868（明治１）年岩鼻県，1871（明治４）年10月群馬県，11月入間県，1873（明治６）年熊谷県，1876（明治９）年埼玉県に所属。

1879(明治12)年賀美郡，1884(明治17)年金久保村に所属。1889(明治22)年賀美村が成立。1896(明治29)年賀美郡を児玉郡に編入。

1954(昭和29)年神保原村・七本木村・長幡村・賀美村が合併して上里村となる。1971(昭和46)年，町制が施行され上里町となる。

戸数・人口

1982(昭和57)年現在，世帯数53戸，人口238人。上里町全体の人口は漸増しているが，黛の人口は横ばいである。

産業

江戸期には，黛村の藤の木に河岸場が置かれ，藤の木に4軒，八町河原に2軒の廻船のための河岸問屋が公認され，武蔵北部と江戸を利根川で結ぶ舟運の利根最上流拠点として栄えた。

明治初期，黛村の総戸数の半数である45戸が舟運漁業に従事し，他に船頭や商人・荷運び人を相手とする宿屋・飲食店・床屋などもあったという。

しかし，1883(明治16)年国鉄高崎線開通，1897(明治30)年神保原駅開設により舟運は消滅。以後，養蚕・野菜づくりが主たる産業となっている。

黛所有の田地は少なく，多くは河川敷内の砂地の畑である。酪農やハウス栽培を試みるものもあるが，農業を離れ，町内や近隣市町の会社・工場・官庁などに勤める若者が年々増加している。

収録地点の方言の特色

音韻

(1) 連母音「アイ」・「アエ」・「オイ」・「オエ」・「イエ」が「エー」になることがある。

[ai]	→	[eː]	デーコン（大根）
			シメー（しまい）
			ツミテー（冷たい）
[ae]	→	[eː]	オメー（お前）
			ケール（代える）
[oi]	→	[eː]	シレー（白い）
			ヌクテー（ぬくとい［＝暖かい］）

[oe] → [eː]　オベール（覚える）

[ie] → [eː]　メール（見える）

(2) 母音の転化には次のようなものがみられる。

ア→ウ　クカル（掛かる）

ア→オ　アグロ（あぐら）

イ→ウ　クタブレル（くたびれる）

サムシー（さみしい）

イ→エ　エレモン（入れ物）

メッケル（見つける）

イセガキ（石垣）

ウ→イ　イゴク（動く）

ウ→オ　モコー（向こう）

ソソ（すそ）

エ→イ　イライ（えらい）

マイデ（前手［＝手前］）

フイル（増える）

オイル（終える）

ツミテー（冷たい）

エ→ウ　ウルシガル（うれしがる）

オ→ア　マット（もっと）

オ→ウ　ムグル（もぐる）

アスブ（遊ぶ）

(3)「アワ」・「エワ」・「オワ」が「アー」になることがある。

カンマース（かきまわす）

ノマーリ（野回り［＝田畑を見回ること］）

コラー（これは）

チッター（ちっとは）

(4)「シュ」が「シ」になることがある。

シッカ（出荷）

シブサ（朱房）

オトコシ（男衆）
オンナシ（女衆）
ワケーシ（若い衆）

(5) 促音「ッ」や撥音「ン」が添加されることが多い。

シッタ（下）
イギッキ（行き来）
ウンマイ（うまい）
マンムキ（真向き［＝ぴったり］）
ドンノ（どの）
アンノ（あの）

(6) マ行がバ行になることがある。

ヌスビ（盗み）
ネブル（眠る）

(7) 清音化するものもある。

オナシ（同じ）
ムツカシー（むずかしい）

(8)「ノ」・「レ」が「ン」になることがある。

チュン（というの）
ツン（というの）
イルンカ（いるのか）
アンデモ（あれでも）
ソンデ（それで）

(9)「レ」が「イ」になることがある。

フライテ（降られて）
ツイテグ（連れていく）

(10)「ワ」が「ヤ」になることがある。

ビヤコ（琵琶湖）
ビヤ（びわ）

(11)「ゾ」が「ド」になることがある。

ジドーサマ（地蔵様）

(12)「行く」はイグとなる。

イグ（行く）

(13) 縮約が多く，結果として撥音や長音が目立つ。

ナンツコターネー（なんということはない）

ナンチューコターネー（なんということはない）

ナッテンカ（なっているのか）

ツーヤネーカネ（というではないかね）

コーイニ（こういうふうに）

アーンニ（ああいうふうに）」

チュン（というの）

ツン（というの）

テン（というの）

ナケラ（なければ）

(14) アクセントは東京アクセントと同じで，差異は「雲」・「卵」など，ごくわずかの語に見られる程度である。

クモ

タマゴ

文法

(1) 動詞「来る」は一段活用化する傾向があり，未然形は「キナイ」，「キヨー」で「コ」の形はない。

「来る」　キない　キて　キル　キル時　キレば　キロ

(2) 動詞「フサゲル」は可能動詞として使うほか，可能の意味をもたない場合もある。同様に，「(鼻緒を) スガル」が「すげる」と「すげられる」(可能)，「ヤマル」が「やめる」と「やめられる」(可能) の2種類の意味を持つ。

ソノアナー　フサゲルカヤ（その穴はふさぐことができるか）

カーラデ　ヤネー　フサゲル（瓦で屋根をふさぐ）

(3) 動詞からの転成名詞に「をやる」をつけて，もとの動詞の意味を強調する表現がある。

サーギオ　ヤル（騒ぐ）

(4) 副詞「メッタ」・「メッター」，「オーク」は肯定的意味と否定的意味の両様

に使われる。

メッター　ヨッテクル（やたらと集まってくる）

メッター　イネー（めったにいない）

オーク　トレタンデ（たくさん取れたので）

オーク　トレネー（あまり取れない）

(5) 感動詞には，「テー」・「へー」などがある。

テー　ホーカネー。（へえ　そうかねえ。）

(6) 大過去表現「タッタ」があり，過去の経験・習慣・継続などを表す。

ヨク　キタッタヨ（よく来たものだったよ）

ミタッタヨ（見たことがあったよ）

(7) 意志・推量・勧誘などの助動詞「ベー」がよく使われる。

オレガ　スベー（おれがしよう）

ユーダチガ　クルベー（夕立ちが来るだろう）

ミンナデ　イグベー（みんなで行こう）

(8) 意志や強意の助動詞「イ」・「ライ」が使われる。五段動詞未然形には「イ」が接続し，他の動詞には「ライ」が接続する。

オレガ　イガイ（おれが行くよ）

オキライ（起きるよ）

オキライ（（事件などが）起きるものだ）

アイツガ　スライ（彼がするよ）

(9) 格助詞「に」に当たるものに「ガニ」・「ガンニ」が見られる。

コドモガニ（子供に）

コドモガンニ（子供に）

(10) 程度や動作直後の状態を表す助詞「ベー」がある。

チットンベー（ちっとばかり）

サッキ　クッタベー（さっき食ったばかり）

(11) 終助詞「イ」は「よ」に対応し，「タ」に続いて経験的な意味あいを強める。また，「ダ」に接続して断定を強めたり，意志・主張の意味あいを強めたりする。動詞の終止形には接続しない。

ハー　ハナシタイ（もう話したよ）

ミズガ　ヨクデタイ（大水がよく出たものだよ）
カワデ　ミタイ（川で見たことがあるよ）
オレガ　ツルンダイ（おれが釣るのだよ）
ソコニ　アルンダイ（そこにあるのだよ）

(12) 念押し・同意・強調などの終助詞には，「ノー」・「ナー」・「ゾ」・「ド」なども使われる。

(13) 強意の接頭語「オッ」・「ボッ」・「オン」・「ヒッ」などが多い。

オッパナス（放す）
オッコロガル（転がる）
オッコロス（殺す）
オッコス（こわす）
ボッコス（こわす）
オッカケル（折れる，欠ける）
オンマケル（空ける）
ヒッツクマル（うずくまる）

語彙

小動物や虫について，次のような特徴的な語彙がある。

デンデンムシ（かたつむり）
カマギッチョ（とかげ）
オコリンババー（かまきり）
オヒキ（ひきがえる）
オマンムシ（おけら）
ヘッコッコ（さなぎ）

（以上の解説は，基本的に，「各地方言収集緊急調査」当時の報告原稿によるものである。）

埼玉県児玉郡上里町1981凡例

談話資料は，方言談話音声，方言談話音声の文字化，方言談話の共通語訳から成る。CD-ROMには，ページ単位で切った方言談話音声を，CDには，方言談話音声全体を収録した。

文字化と共通語訳

方言談話音声の文字化はカタカナで表記し，方言談話の共通語訳は，漢字かなまじりで表記した。方言談話音声の文字化と共通語訳とは，対照ができるように，上下２段を１組として示した。上段が文字化，下段がその共通語訳である。

文字化については，表音的カタカナ表記を用いている。つまり，長音は「ー」で示し，助詞「は」は「ワ」，助詞「を」は「オ」，助詞「へ」は「エ」と表記する。「カ゜」「キ゜」「ク゜」「ケ゜」「コ゜」はガ行鼻濁音を表す。

また，分かち書き，句読点などは，便宜的なもので，厳密なものではない。

「各地方言収集緊急調査」における，方言談話音声の文字化の方法は，後に掲げる「調査実施上の留意事項について」などに詳しく記されている。ただし，今回，「全国方言談話データベース」として公開するにあたり，文字化・共通語訳を整備する際には，当時のマニュアルにはとらわれず，読みやすさ，意味のとりやすさを優先して処理をした部分がある。

また，この文字化は，時間の流れを忠実に反映することを意図していない。したがって，発話の重なりや，複線的な会話の進行の構造が，文字化からは読み取れない。データを使用する際には，文字化・共通語訳を見るだけではなく，実際に，音声を聞いて判断していただきたい。

発話単位

ひとりの話者が続けて話している，話者が交替するまでの連続した発言を1発話とする。途中にあいづちが入る場合もある。

発話番号　　〈半角〉

発話の通し番号を，各発話の話者記号の前に付した。

例：1A

話者記号　　〈全角〉

話者，調査者など，談話の場にいる人物について，A，B，C，D，E，F，……のように，アルファベットで示した。

例：1A

固有名詞

話者および一般の人名については，文字化・共通語訳の該当個所を，A，B，C，X1，X2，X3などのアルファベットに置き換えた。話者，調査者など，談話の場にいる人物については，A，B，C，D，E，F，……のように示し，話題の中の第三者については，X1，X2，X3，……のように示した。ただし，音声は，該当個所に加工をしなかった。

歴史上の人物や，有名人の人名については，記号に置き換えることはせず，個人名を出すことにした。また，会社名，店名，製品名などについても，発言されたとおりに記している。

地名については，そのまま扱うことにした。

記号

。（句点）　　〈全角〉

ポーズがあって，意味的にひとつのまとまりを持つ文と考えられる個所。

共通語訳については，実際の発話でポーズが置かれていないところでも，意味の取りやすさを優先してつけた場合もある。

例：ソーデス　　ソーデス

そうです。　そうです。

、（読点）　　〈全角〉

基本的に息をついた個所，または，ポーズのある個所。

共通語訳については，実際の発話でポーズが置かれていないところでも，意味の取りやすさを優先して読点をつけた場合もある。

また，文字化と対応しなくなっても，読みやすさを優先して，取り去った場合もある。

例：シ、ヤクショ

市役所

？　　〈全角〉

上昇イントネーションと判断した個所。

例：アズケトイテ？

預けておいて？

（　）　　〈全角〉

あいづち。ひとりの人が連続して話している時にさえぎったり，口をはさんだりした個所。

（A　……）のように、開き括弧の次にあるアルファベットは，発言している話者を示す。（　）の閉じ括弧の直前の句読点は省略した。

なお，（　）内のあいづちと，独立した発話扱いされているあいづち的発話との違いは必ずしも明確ではない。

例：（A　アー　ソーデスカ）

｛　｝　　〈全角〉

笑，咳，咳払い，間，などの非言語音。

例：｛笑｝

｛咳｝

｛手を叩く音｝

×××　　〈全角〉

言い間違いや言い淀みなど。

例：ム　ム　ムツカシー

×　×　難しい

＊＊＊　　〈全角〉

聞き取れない部分。

例：オチャズケノ＊

お茶漬けの＊

／／／　　〈全角〉

対応する共通語訳が不明な部分。

例：モーゼーノ　モジナンデスナ、

／／／／／「文字」なんですね。

[　]　　〈全角〉

方言音声には出てこないが，共通語訳の際に補った部分。

例：ミカン　　ノセテ

　　みかん［を］　乗せて

＝　　〈全角〉

［　］内の＝は，意味の説明や，意訳であることを示す。

例：イマ　ユー

　　今　　いう［＝今話題にあがった］

｜　｜　　〈全角〉

注意書きなど。

例：｜Aに対して｜

〔　〕　　〈全角〉

注記。方言形の意味・用法，特徴的音声などについて説明し，文字化・共通語訳の後にまとめてある。〔　〕内の半角数字は，注記の番号を示す。

例：ホシツキサンノオモチ〔1〕

音声

CD-ROMには，冊子のページ単位で区切った方言音声のwaveファイルを収録している。冊子のページをpdfファイルにしたものに，方言音声をリンクさせていて，各ページにある 再生 の部分をクリックすると，そのページの音声を聞くことができる。

CDには，談話全体の音声を収録している。以下にあげるように，適当な個所で，トラックに区切っている。

CDトラック番号

文字化・共通語訳のヘッダは，方言音声を収録したCDのトラック番号を示している。「埼玉01-1」はCDトラック番号が01で，その1ページ目ということである。「埼玉01-1」「埼玉01-2」……「埼玉01-6/02-1」……「埼玉12-6」のように表示される。

また，文字化・共通語訳部分には，CDのトラックの切れ目を表示した。矢印の部分がトラックの切れ目を表し，その両側の数字はトラック番号である。↑01，01↑02，……11↑12，12↑ のように表示される。

第５巻のCD（75分50秒）には，埼玉県児玉郡上里町，【地震，雷，農家の生活と経営,船着場と問屋】の全体の音声を収録している。各トラックの開始ページ・行，終了ページ・行，時間は下記のとおりである。行は，文字化の行を表示した。

トラックNo.	開始ページ・行	終了ページ・行	時間:分:秒
01	p.27・ℓ.1	p.32・ℓ.19	0:03:08
02	p.32・ℓ.19	p.40・ℓ.3	0:03:52
03	p.40・ℓ.5	p.46・ℓ.3	0:02:57
04	p.46・ℓ.5	p.50・ℓ.15	0:03:04
05	p.50・ℓ.17	p.56・ℓ.13	0:03:05
06	p.56・ℓ.15	p.61・ℓ.3	0:03:02
07	p.61・ℓ.5	p.66・ℓ.19	0:03:09
08	p.67・ℓ.1	p.72・ℓ.3	0:03:13
09	p.72・ℓ.5	p.78・ℓ.13	0:03:05
10	p.78・ℓ.15	p.84・ℓ.3	0:03:03
11	p.84・ℓ.3	p.88・ℓ.17	0:03:19
12	p.88・ℓ.19	p.93・ℓ.17	0:03:02
計			0:37:59

埼玉県児玉郡上里町1981談話

収録地点　　埼玉県児玉郡上里町 黛（こだまぐんかみさとまちまゆずみ）

収録日時　　1981(昭和56)年８月18日，24日

収録場所　　埼玉県児玉郡上里町黛　話者Ａ氏・Ｃ氏自宅

話題　　地震，雷，農家の生活と経営，船着場と問屋

話者

A	男	1900(明治33)年生	(収録時81歳)	農業
B	男	1904(明治37)年生	(収録時77歳)	農業
C	女	1902(明治35)年生	(収録時79歳)	農業

調査員

男　　(収録談話中に発話なし)

記録助手　(収録談話中に発話なし)

収録時間（CD）　　37分59秒

この談話には子供の声などの背景音がやや大きく入っている部分があります。

【地震，雷，農家の生活と経営，船着場と問屋】

話し手

A	男	明治33年生	(収録時81歳)
B	男	明治37年生	(収録時77歳)
C	女	明治35年生	(収録時79歳)

1B：コノネー　セ　アノ　マイスミノー　マー
　　このねえ　×　あの　黛の　　まあ
　↑01
　　シンゲンチダッタ　ト　オモー　トキノ　コノジシン〔1〕ネー。
　　震源地だった　　と　思う　　時の　　この地震ねえ。

　　ワシー　　アサー　ナスー　キッテキテ〔2〕
　　私［は］　朝　　ナスを　［畑から］切ってきて

　　ソレオ　コシライテ〔3〕、
　　それを　［出荷するように］こしらえて、

　　リヤカーエ　ツンデ　エー　ヒーテ〔4〕、イッタンデスヨ。
　　リヤカーへ　積んで　えー　引いて行ったのですよ。

　　ホシタラ　　ガッコーノ　ニシノ　イセガキ〔5〕ン　ドコマデ
　　そうしたら　学校の　　西の　　石垣の　　所まで

　　イッタラ　ガクッ　ガクガクーット　ジシンガ　キテネ
　　行ったら　ガクッ　ガクガクーと　　地震が　　来てね

アー　ウーン　モッテタ　　ジテンシャ　　オッパナシテ〔6〕
ああ　うーん　持っていた　自転車［を］　放して

ツクンジャッタ〔7〕。
しゃがんでしまった。

フ　フシテ　シズマッタカラ　アー　シンマチ〔8〕エ
×　そして　鎮まったから　　ああ　新町へ

イチバエ　リ　リヤカー　ヒイテ
市場へ　　×　リヤカー　引いて

フンデ　イチバエ　イッテ　オイテキタラ
それで　市場へ　　行って　［ナスを］置いてきたら

マイスミノ　ジンジャマデ　クルト
黛の　　神社まで　　来ると

ジンジャノ　トリーガ、ネ　タオレテイテ
神社の　　鳥居がね　　倒れていて

トーローワ　オッコチテル。
燈籠は　　落ちている。

ソシテ　ドコノ　ポンプエドデモ　ミズガ　ミンナ　フキダシテ
そして　どこの　ポンプ井戸でも　水が　　みんな　吹き出して

ジャリマデ　フキダシテタ。
砂利まで　　吹き出していた。

埼玉 01-3

アノジシンダケノ　ジシンナ　イママデニ
あの地震ほどの　地震は　今までに

マー　マイスミトスレバ　ハジメテジャネンカネー。
まあ　黛とすれば　初めてではないのかねえ。

2A：ソーダナー　トーキョーノ　シンサイノ　トキノ　ジシンヨリ
そうだなあ　東京の　震災の　時の　地震より

デッカカッタナー。　（B　アー）　タシカニ。
大きかったなあ。　（B　ああ）　たしかに。

3C：アノトキヨリ　コッチガ　オッカナカッタイネ。
あの時［＝関東大震災］より　こっちが　こわかったよね。

（A　ン）　（B　アー）
（A　ん）　（B　ああ）

ニワデモ　ナンデモ　コーンナ　ヒワレテ〔9〕　（B　ア　ソー）
庭でも　なんでも　こんなに　ひび割れて　（B　あ　そう）

コノ　カワン　ナッチャッタンダモノネ。　（B　アー）
この　川に　なってしまったのだものね。　（B　ああ）

ミズガ　フキダシテンダモン　ニワカラデモ　ナンデモ。
水が　吹き出しているのだもの　庭からでも　なんでも。

4B：ホカーワ　オシボアタリワ　ドーダッタカ　シンネーケンド
ほかは　忍保あたりは　どうだったか　しれないけれど

マイスミワ　ヒドカッタヨ。　（A　ン）
黛は　　ひどかったよ。　（A　ん）

アントキノ　ジワレーネ。　{間}
あの時の　　地割れはね。　{間}

5C：ウチノワ　　ボッコヌキイド〔10〕デサ
［私の］家の［井戸］は　打ち抜き井戸でさ

ホリイドノ　ウチワ　ノーメミズ〔11〕ガ　　ノメネーッテ
掘り井戸の　家は　　飲み水が　　飲めないって

バンガタマデ　ウチノ　イドエ　ナニ　ミズクミー　ズーイブン　キタヨ
晩方まで　　家の　　井戸へ　なに　水汲みに　　ずいぶん　　来たよ

キンジョジューデ。
近所中で。

6B：ダッテ　アレカラ　ミンナ　フキダシシャウンデショ
だって　あれから　みんな　吹き出してしまうのでしょう

（C　ソー）　ミズガ。　{笑}　（C　エー）　ネー
（C　そう）　水が。　　{笑}　（C　ええ）　ねえ

アンナコトワ　マー　ハジメテデ。
あんなことは　まあ　初めてで。

7C：ボッコヌキイドダケガ　ノメミズニ　ナッテネ　（B　アー）
打ち抜き井戸だけが　　飲み水に　　なってね　（B　ああ）

ホリイドノワ　ダメダッタナー。
掘り井戸のは　だめだったなあ。

8A：アノトキノ　ジシンワ　ソダカラー、　ジガ　ソックリ
あの時の　地震は　そうだから　地が　そっくり

コー　サガッタンダイナ、　キット。
こう　下がったのだよな、　きっと。

（B　ソーカモ　シンネーネー　アー）　ホエデ　シタノ
（B　そうかも　しれないねえ　ああ）　それで　下の

チカスイガ　コー　ウキアガッテキタンダ。
地下水が　こう　浮き上がってきたのだ。

9B：マー　ソーゾースルニネ　（A　ン）　{笑}
まあ　想像するにね　（A　ん）　{笑}

ガクシャ　ワゾーザ　ソンナコト　キータラ　{間}
学者［は］　わざわざ　そんなことを　聞いたら　{間}

10C：タンボデモ　ナンデモネー　（B　アー）　コーンナ　デッケー
田んぼでも　なんでもねえ　（B　ああ）　こんな　大きい

イシガ　デテルンダモノナ　（B　ンー）　タンボー。
石が　出ているのだものな　（B　んー）　田んぼ。

ミンナ　ヒワレテ　シタカラ　コーニ　デチャッテ。
みんな　ひび割れて　下から　こうに　出てしまって。

11B：ソダヨネー。　マー　イマー　トーキョーデ　サーギ
そうだよねえ。　まあ　今は　東京で　騒ぎ［を］

ヤッテルケンドサー　アー　ジシンガ　キタラ　ドコエ
やっているけれどさあ　ああ　地震が　来たら　どこへ

ニ　ヒナンスル　ニゲル　ナンツエ　ユッタッテサー、
×　避難する　逃げる　なんて　言ったってさあ、

アーユー　ニゲル　マモ　アーニモ　アリャー　シネーガネ。
ああいう　逃げる　間も　なにも　ありは　しないじゃない。

（C　ソーダヨネー）　アー。
（C　そうだよねえ）　ああ。

12C：ソーンナ　ヨユーワ　ネーヤイネー。　（B　アー）　{間}
そんな　余裕は　ないよねえ。　（B　ああ）　{間}

13B：センソーノ　トキニサー　クーシューケーホーナンテー　ユッテー
戦争の　時にさあ　空襲警報なんて　いって

トンデクルッケド　ヒコーキガ　クルンノ　アイダガ　アレバ
飛んでくるけど　飛行機が　来るまでの　間が　あれば

（A　ン）　ドーニデモ　ニゲラレッケド
（A　ん）　どうにでも　逃げられるけど

ジシンナ　ダマッテクルカラ　オッカネーヨネー。
地震は　黙ってくるから　こわいよねえ。

01↑02

14C：ソーダヨ　バーカニ　デッケー　カゼガ　フイテキタナー
そうだよ　ひどく　強い　風が　吹いてきたなあ

トモッタラ　（B　アー）　ホーノウチニ
と思ったら　（B　ああ）　そのうちに

グラッグラッ　グラッグラッ　ユレスレンダモノ〔12〕。
グラグラ　グラグラ　揺れるんだもの。

アノトキワ　ナンダモノネ
あの時は　なんだものね

イチーンチ　ヤスマズ　ジシンガ　シテタモノネー。
一日　休みなく　地震が　していたものねえ。

15B：ソーダイネー　アー　ヨシンテンガ　アルカラ。
そうだよねえ　ああ　余震というのが　あるから。

ホニ　ジシンモ　オッカネーヨ。　{間}
ほんとうに　地震も　こわいよ。　{間}

16B：ンデ　ホコントコノ　トチワ　カミナリサマガ
それで　ここの所の　土地は　雷様が

オッカネージャネー。
こわいではないかねえ。

17C：ネー。　オ　コトシワ　オッカナカッタヨー。　{笑}
ねえ。　お　今年は　こわかったよう。　{笑}

18B：{笑}　シンタク〔13〕ンチノ　アノー　ソコントコノ
　　{笑}　分家の家の　　あのー　そこの所の

　　ハシラエ　オッコッタンダッテー？　{笑}　（A　ン）
　　柱へ　　落ちたのだって？　　{笑}　（A　ん）

19C：{笑}　ネー。　デ　ホコニベー
　　{笑}　ねえ。　で　ここにばかり

　　ゴロゴロシテルンミテーナンダ　アタマノ　ウエニベー。
　　ゴロゴロしているみたいなのだ　頭の　　上にばかり。

　　マーッタク　オッカナカッタネー。
　　まったく　こわかったねえ。

20B：オラチノ　　ウラッカタノ　バラックエ　オッコッタトキヤ
　　おれの家の　裏のほうの　　バラックへ　［雷が］落ちた時は

　　（A　ウーン）　アーントキワー　カミナリモ　ヒデーシ
　　（A　うーん）　あの時は　　雷も　　ひどいし

　　アメモ　ヒデーシ、　アー　ミンナニ　タノンデーテ　タノムヨ
　　雨も　　ひどいし、　ああ　みんなに　頼んでって　　頼むよ

　　タノムヨ　ツッテ〔14〕。　（C　アー　ソーダイネー）
　　頼むよ　　と言って。　　（C　ああ　そうだよねえ）

　　オッカネーカラ　ダレモ　キテクンネンダガネー。　{笑}
　　こわいから　　誰も　　来てくれないんだよ。　　{笑}

21C：ナンダモノ　X1チャンチノ　X2チャンナンカ
なんだもの　X1さんの家の　X2さんなどは

ホンケガ　カジダヨ　カミナリガ　オッタンダヨ　ッテ
本家が　火事だよ　雷が　落ちたのだよ　って

サタ〔15〕ニ　キテ　ソンデ　コンダー　イグトキャー　イゲネンダ
知らせに　来て　それで　今度は　行く時は　行けないのだ

X2チャン。　{笑}
X2さん［は］。　{笑}

22B：イゲネーモーネー。　{笑}
行けないものねえ。　{笑}

23A：ッタク　ジシン　カミナリ　ジューケンド
まったく　地震　雷　というけれど

カミナリモ　コエデ、　(B　アー)
雷も　これで、　(B　ああ)

オッカナガッタッテ　ショガネーンダケドナー　カミナリワ。
こわがったって　しかたがないのだけどなあ　雷は。

(B　ア)　カンガエテミレバ。
(B　あ)　考えてみれば。

24C：テーンデ〔16〕　オッカナカッタネー　コトシャー。
とても　こわかったねえ　今年は。

（B　ソー）
（B　そう）

25A：ヨク　カンゲーテミルト　カミナリワ
よく　考えてみると　　雷は

オッカナガッタッテ　ショーガネンダイ。
こわがったって　　しかたがないのだ。

ドコエ　オチルガナ　ワカンネンダン。
どこへ　落ちるか　　わからないのだもの。

（B　ア　ワカンネンダイネー　　アー）　ン。
（B　あ　わからないのだよねえ　ああ）　ん。

26B：デ　カミナリサマワサ　ハレ　イギマスヨ　ッテンデ　　サ
で　雷様はさ　　ほら　行きますよ　というので　さ

アノー　シンゴーワ　シテクレンダイネー。　　（A　ン　ン）
あのう　信号は　　出してくれるのだよねえ。（A　ん　ん）

ダケンド　ソノ、　アトガ　オーク　　ハエーンデ。
だけれど　その、　後が　　あまりにも　早いので。

27C：ソーナンダヨ　ツギツギニ　メッタン〔17〕　クルンダモノ。
そうなんだよ　次々に　　やたらと　　来るのだもの。

アーンマリ　コッチノホーガ　ゴゾゴゾスルカラ
あんまり　　こっちのほうが　ごそごそするから

ヨル　オキテサ、　デテミタラ
夜　　起きてさ、　出てみたら

コッチノホーワ　テンノアカリ〔18〕ナンダヨネー。
こっちのほうは　太陽の明るさなんだよねえ［＝非常に明るい］。

（B　アー）　ホンデ　コノトブグチ　　アケテミタラ、
（B　ああ）　それで　この玄関［を］　あけてみたら、

ソノスイドーン　トコニ　ダレカ　ヘルメット　　カブッタンガ
その水道の　　所に　　誰か　　ヘルメット［を］　かぶった人が

ヒッツクマッテルンダヨネ。　（B　アー）　カラ　　ダレタイ
しゃがんでいるのだよね。　（B　ああ）　だから　誰だい

ドシタンダイ　　ツッタラ　　デンキヤダッタン。　{笑}
どうしたのだい　と言ったら　電気屋だったの。　{笑}

（A　ン）　（B　アー）
（A　ん）　（B　ああ）

デンキヤガ　スグ　ナオシー　キタンダッタケンド。
電気屋が　　すぐ　直しに　　来たのだったけれど。

28B：ホーダカラサー　ウチデサー
そうだからさあ　家でさあ

ウチノ　マエノ　カマ〔19〕エ　オッコッタンダンベヤ
家の　　前の　　変圧器へ　　落ちたのだろうよ

ハヤク　デンワシロー　ナンテ　　デンワシテ。
早く　電話しろ　なんて［言って］　電話して。

29C：ダカラダーニネ。（B　アー）
だからだね。（B　ああ）

ソーデ　イチバン　サキー　X3チャンガ　キタンダヨ。
それで　いちばん　先に　X3さんが　来たのだよ。

（B　アー）　チチガ　クサッチマーカラ〔20〕。
（B　ああ）　牛乳が　腐ってしまうから。

ドコンチモ　ミンナ　テーデンカネー　ナンテ。（B　アー　アー）
どこの家も　みんな　停電かねえ　なんて。（B　あー　あー）

30B：ダカラーネー　ウチノ　ニシンチノワ　ツイテテ
だからねえ　家の　西の家の［電気は］　ついていて

オラーチノ　オラーチノワ　ソノー　ナンダイ
おれの家の　おれの家のは　そのう　なんだ

シンドーデ　アレガ　オチタンミテァ　アンゼンキガ。
震動で　あれが　落ちたのみたい　安全器が。

31C：アー　アー　ソッカイ。｛間｝
ああ　ああ　そうかい。｛間｝

マーズ　コトシワ　オッカナカッタヨー　カミナリジャー。
まず　今年は　こわかったよう　雷では。

ヤースマズ　ナッテンダモノ　　ドーコエモ　イガネーデ
休みなく　　鳴っているのだもの　どこへも　　行かないで

コノアタマノ　ウエデベー　ナッテンミテー
この頭の　　上でばかり　鳴っているみたい

ナンテ　ユッタケンド。　{笑}　（A　{笑}）
なんて　言ったけれど。　{笑}　（A　{笑}）

ツズケザマナンダモンネー。
続けざまなのだものねえ。

ゴロゴロ　ツンダラ　　イーンダケンド
ゴロゴロ　というのなら　いいのだけれど

ビリビリーッ　ツンベー　　ナンダモノ。
ビリビリーッ　というのばかり　鳴るのだもの。

32B：デネー　カミナリワ　ダイタイネー　アノー　マー　ニシカラ
でねえ　雷は　　だいたいねえ　あのう　まあ　西から

クルカ　キタカラ　キテモ　ン　アリャー　トーッチメーバ
来るか　北から　　来ても　×　あれは　　通ってしまえば

インダケンド　　コトシノワ　メンゴマッテタン〔21〕。
いいのだけれど　今年のは　　ぐるぐる回ってたのだ。

33C：ソー　ソー　メンゴマッテルン　　（B　アー）
そう　そう　ぐるぐる回ってるのだ　（B　ああ）

ココニベー。　　{間}
ここにばかり。　{間}

34A：カミナリサマカ。
雷様か。

02↑

――― 中　略 ―――

35B：ホレデネー　アノー　ノーソンデ　ヤサイガ　イーテンデ
それでねえ　あのう　農村で　　野菜が　　いいというので

↑03

マー　ヤサイオ　ツクッテ　シッカスル。
まあ　野菜を　　作って　　出荷する。

フンデー　ヤサイオー　シッカシテ
それで　　野菜を　　出荷して

ハコダイニ　ウンチンニ　ヒヨーガ　クカル。
箱代に　　運賃に　　費用が　　かかる。

ソレオ　コンダ　イチバエ　イッテ、　デ
それを　今度は　市場へ　　行って、　で

タカイ　ソーバデ　ウレレバ　イーケンド
高い　　相場で　　売れれば　いいけれど

イチバエ　ニガ　ツケバ　ヤスイ　ソーバデ　ウル。
市場へ　　荷が　着けば　安い　　相場で　　売る。

ソーストーネー　ジブンノ　フトコロエワ
そうするとねえ　自分の　ふところへは

ホトンド　カネガ　ヘーッテキナインダヨ。　{笑}
ほとんど　金が　入って来ないのだよ。　{笑}

ホダカラ　ヒリョーダイモ　テマダイモ
そうだから　肥料代も　手間代も

ネーッツーコトガ　デキルンデ、
ないということが　できるので、

イー　トキワ　イーンダケドー　ワリー　トキオ　カンガエルト
いい　時は　いいのだけど　悪い　時を　考えると

ヒャクショーワ　フントニ　ヤンナッチマイネー。　(A　ン)
百姓は　ほんとに　嫌になってしまうねえ。　(A　ん)

36C：ンダカラ　カンガエヨーデ　ナンダガネー、
そうだから　考えようで　なんだがねえ、

イマノ　ヒトタチヤ　ハー　ムギ　コメー　ツクッテルホーガ
今の　人たちは　もう　麦［や］　米を　作っているほうが

ヨッポド　イー　ナンツー　ヒトガー　デキテキタガネ。
よほど　いい　などという　人が　できてきたじゃない。

(B　ア　アー　ソーナンダイネー)　(A　ン)
(B　あ　ああ　そうなのだよねえ)　(A　ん)

ヤサイワ　コズケードリダーナンデ。
野菜は　　小遣い取りだなんて。

37B：ホダカラネー　　ツトメニン　　シテル　　ヒトガ
そうだからねえ　勤め人［を］　している　人が

ヒャクショーワ　バカダト　ワラッテルツケンド
百姓は　　馬鹿だと　笑っているというけれど

ツトメテル　ヒトワサー　イチンチ　イクラデネー
勤めている　人はさあ　　一日　　いくらでねえ

（C　ソーダイネー）
（C　そうだよねえ）

ツキ　イクラデ　アー　キマッタ　カネガ　モラエンダケンド
月　　いくらで　あー　決まった　金が　　もらえるのだけれど

ヒャクショーノワ　イチバエ　イッテ　ウレナケラー
百姓のは　　市場へ　　行って　売れなければ

（C　マッタク　ソーナン）　ゼネン　ナンネンデ
（C　まったく　そうなの）　銭に　　ならないので

ニー　オクッタンダケンド
荷を　送ったのだけれど

ニガ　トーキョーシジョーデ　ウレマセンヨ　ッテ　ユエバ、　{間}
荷が　東京市場で　　売れませんよ　と　　言えば、　{間}

38C：ナスー　ヒトハコ　ウッタラ　ウンチンダ　ハコダイ　ヒータラ
ナスを　1箱　売ったら　運賃や　箱代［を］　引いたら

トーフガ　イッチョーダケ　モーカッタトー
豆腐が　1丁だけ　儲かったよ

ナンツッテクンジャー。　{笑}　（A　{笑}）
などと言ってくるのでは。　{笑}　（A　{笑}）

39B：{笑}　ワシガネー　バレーショオ
{笑}　私がねえ　馬鈴薯を

（C　フンデ　テマダケ　ネンジャネー。　{笑}）
（C　それで　手間だけ　ないのではねえ。　{笑}）

バレーショオ　オクッタンダヨ。　（C　ン）
馬鈴薯を　送ったのだよ。　（C　ん）

エル　エルガネー　エー　イツハコ　（C　ン）　ウー　エ
L　Lがねえ　ええ　5箱　（C　ん）　うう　×

エムガ　イツハコ　エスガ　イツハコ　エルエルガ　イツハコ
Mが　5箱　Sが　5箱　LLが　5箱

ミンナデ　ニジッパコ　オクッタンダヨ。　（C　ン）
みんなで　20箱　送ったのだよ。　（C　ん）

ソーシタラネー　ハコダイト　ウンチント　ブアイ　ヒータラーネー
そうしたらねえ　箱代と　運賃と　歩合［を］　引いたらねえ

（C　ン）　ニジッパコデ　センヒャ　センヒャクニジューゴエンカ。
（C　ん）　20箱で　　×××× 1,125円か。

（C　{笑}　ン）　（A　ン）　ネー。
（C　{笑}　ん）　（A　ん）　ねえ。

カーラデ　　ホッテ　サンドイモ〔22〕
河原［の畑］で　掘って　三度薯

ウチー　モッテキテ　（C　ネー）
家へ　　持ってきて　（C　ねえ）

ハコエ　ツメテ　オクリダシテ　ネー。
箱へ　　詰めて　送り出して　　ねえ。

（C　ヘン）　ソーユー　ヒャクショージャー
（C　へん）　そういう　百姓では

オマンマン　ナンネーヤネ〔23〕。　（C　ソレジャーネー）
生活に　　ならないやね。　　（C　それではねえ）

ヒドイヨ。　（C　マーッタクサー）
ひどいよ。　（C　まったくさあ）

ホンデ　トーキョーノ　ヒトタチャー
それで　東京の　　人たちは

ヤサイガ　タカスギル　ッテ　ユーンダ。　ネー。　（C　ネー）
野菜が　　高すぎる　　と　　言うのだ。　ねえ。　（C　ねえ）

アー。　マー、　ネギワ　タカカッタヨネー　タシカニネー。
ああ。　まあ　ネギは　高かったよねえ　たしかにねえ。

（C　キョネンノ　ネギワネー）　ン。　タカカッタンダケンドネー
（C　去年の　ネギはねえ）　ん。　高かったのだけれどねえ

ヒリョーダイニ　テマーエ　カンゲールトネー。
肥料代に　手間に　考えるとねえ。

（C　ンデ　イチネンダモノネー　ネギワ〔24〕）
（C　それで　1年だものねえ　ネギは）

アー。　フンデネー　アノー　クサダッテ　ハエルノー
ああ。　それでねえ　あのう　草だって　生えるのを

ソレオ　テイレスルンデショー。　ソ　ン。
それを　手入れするのでしょう。　×　ん。

40C：ソーダヨ。　フンデ　ジョソーザイダッテ
そうだよ。　それで　除草剤だって

サンドグレー　スレバ　ソノクスリダッテネー
3度くらい　［散布］すれば　その薬だってねえ

（B　アー）　イチマンエングレー　カッテクンナ
（B　ああ）　1万円くらい　買ってくるのは

ワーキャー　アラー　シネーガネー〔25〕。
わけは　ありは　しないじゃない［＝簡単だよ］。

41B：ソー　ヒリョーガミーモ　アガッタカラネー。
そう　肥料代も　あがったからねえ。

（C　ソー）　アー。
（C　そう）　ああ。

03↑04

42C：フンダカラ　チットモ　アイヤ　シネンダヨ
そうだから　ちっとも　［勘定が］あいは　しないのだよ

ネギダッテ　ネガ　イー　ナンツッタッテ。
ネギだって　値が　いい　などと言っても。

43B：マー　ハウス　ツクッテル　ヒトワネ
まあ　［ビニール］ハウスを　作っている　人はね

（C　ソーダイネ）　ソートーノ　リジュンガ　アルラシーケド。
（C　そうだよね）　相当の　利潤が　あるらしいけど。

44C：ダケンド　ハー　トシー　トッタリ　ナンダリ　スリャー　アノ
だけれど　もう　年を　とったり　なんか　すれば　あの

ハウスモ　デキネーガネ　ネー。（B　アー）
ハウスも　できないじゃない　ねえ。（B　ああ）

ワカイモンノ　シゴトダモノ〔26〕　アレワ。
若い者の　仕事だもの　あれは。

45B：ハウスモ　イママデワ　ヨカッタケンド　イマー　ダイブ　フイテ、
ハウスも　今までは　よかったけれど　今は　だいぶ　増えて、

ヒリョーダイ　ショードクノ　クスリ　ヨク　{間}
肥料代、　消毒の　薬、　よく　{間}

46C：ヨク　X4チャンガ　ユーガネ
よく　X4さんが　言うじゃない

ダメダヨ　オーガネー　トッテミテ
「だめだよ　大金を　取ってみて

オーガネー　ダスダケノ　モンダヨ　ナンテ。
大金を　出すだけの　ものだよ。」　なんて。

47B：マー　ソーダイネー　アー。
まあ　そうだよねえ。　ああ。

48C：マー　ニシキン〔27〕ノ　X5サンガ　アーユン
まあ　西金久保の　X5さんの　ああいう

ヤリテガ　イーガネー。
やりかたが　いいじゃない。

メッタ　カリテキテー
手当たり次第に　[畑を] 借りてきて

ムギモ　ロッピャップクロ　ダシタト。
麦も　600袋　出荷したと [いうことだ]。

49B：ロッピャク？　（C　アー）　ソンナニカイ。　（C　アー）
600 [袋] ？　（C　ああ）　そんなにかい。　（C　ああ）

（A　ン）　テー〔28〕　ホーカネー。　ウーン。
（A　ん）　へえ　　そうかねえ。　うーん。

50C：デ　コトシャー　ホラ　ヒョーガ　フッタカラ
で　今年は　　ほら　雹が　　降ったから

ミンナ　タネムギデ　ダスワケノガ
全部　　種麦として　出すはずのが

ヒトーツモ　ウカラネーデサー
ひとつも　　［種麦の検査に］合格しないでさあ

ミンナ　アノ　タベルホーエ　ダシタツーケンド。
全部　　あの　食べるほうへ　出したというけれど。

51B：アー　ショクリョーノホーエカイ。　（C　エー）
ああ　食料のほうへかい。　　（C　ええ）

ソーカネー、　ロッピャク。　（C　エー）　へー。
そうかねえ。　600［袋］。　（C　ええ）　へえ。

52C：デッカイコター　デッカイヤイネー。
大きいことは　　大きいよねえ。

53B：ロッピャクー。　ロッピャクー。　へー。
600［袋］。　　600［袋］。　　へええ。

54C：ダカラ　サンビャッピョー〔29〕ダガネ　ネー。　（B　アー）
だから　300俵じゃない、　　ねえ。　（B　ああ）

55B：サブ　　ロク　　ジューハチ〔30〕カ。
三［＝300俵］　六［＝6,000円］　十八［＝1,800,000円］か。

へー。　{間}
へえ。　{間}

56C：イマ　ロクチョー　ツクッテル　ツーヨ。　（B　フーン）
今　6町［歩］　作っている　というよ。　（B　ふうん）

57B：ヨク　ア、　ソレガ、　ヒトーモ　タノマネーデ。
よく　×、　それが、　人も　頼まないで。

58A：フン　アンマリ　イソガシゲーモ　ナクナー。　（B　アー）
ふん　あまり　忙しそうでも　なくなあ。　（B　ああ）

ン　タマゲチマウ。
ん　驚いてしまう。

59C：ソノカシニャー　ウーント　クサニ　ナッテッチャウ。
そのかわりには　ひどく　雑草畑に　なっていってしまう。

トラクターデ　カンマーシチャー〔31〕　イルガネー　ネー。
トラクターで　掻き回しては　いるがねえ、　ねえ。

（A　ン）　ドキョーモ　イーンダイネー　アーユー　ヒトワ。
（A　ん）　度胸も　いいのだよねえ　ああいう　人は。

60B：フーン。　コトシワ　Bサンー　アメニ　フライテ
ふうん。　「今年は　Bさん　雨に　降られて

チャッ　チッター　オーゴトシタケド　セワーネーヤネー
×××　少しは　　苦労したけど　　問題ないやねえ」

ナンツッテ。　　{笑}
などと言って。　{笑}

シンデンノ　アノ　クサマタケ〔32〕ネー、　（A　ン）
新田の　　あの　雑草の茂った畑ねえ、　（A　ん）

エー　ネギー　ウエタン。
ええ　ネギを　植えたの。

ショーガネーナー　ト　オモッタラ　テイレー　シテ　マタ
しかたがないなあ　と　思ったら　手入れを　して　また

（C　イー　ネギン　ナッタガネ　　ネー）
（C　いい　ネギに　なったじゃない　ねえ）

マタ　マタ　ハイテキタイネー。　　（A　ン）
また　また　［雑草が］生えて来たよねえ。（A　ん）

（C　アー　ソーカイ）　アー　コンナニ　ナッタイ。　ハー。
（C　ああ　そうかい）　ああ　こんなに　なったよ。　もう。

04↑05

61C：へー。　ヒマゲニ　　クサムシリダナンカ　シテンダヨ。
へえ。　ひまそうに　草むしりなんか　　しているのだよ。

62B：アー　ソーサ、　アレー　オレガ　ナンダイ　アスビー　イッテ
ああ　そうさ、　あれは　おれが　なんだ　遊びに　行って

キテミタラ　ミンナ　クサー　ムシリコンダ〔33〕ンダイネー。
来てみたら　全部　　草を　　むしり込んだのだよねえ。

アー。　（C　フーン）
ああ。　（C　ふうん）

63C：アノ　セガレガ　ウント　スキナンダ　ツーガネ
あの　せがれが　とても　好きなのだ　というじゃない

アーユー　ヒャクショーガ。　（B　アー）
ああいう　百姓が。　　（B　ああ）

グレタヨーナ〔34〕　ツトメー　イグンダラ
いいかげんな　　勤めに　　行くのなら

ヒャクショーノホーガ　オーガネガ　トレッカラ　イー　ッテ
百姓のほうが　　大金が　　とれるから　いい　って

ツトメー　デロ　ッテ　ユンダ　　ツケンド
勤めに　　出ろ　って　言うのだ　というけれど

デネンダ　　ツガネ。　　（B　アー）
出ないのだ　というじゃない。　（B　ああ）

64B：デ　アスコンチワ　ヨメワ　ヒャクショーエ　ツカーネンカイ。
で　あそこの家は　嫁は　　百姓に　　使わないのかい。

ミネーネー。　（C　ツカーネンネー）
見ないねえ。　（C　使わないのねえ）

バーサント　サンニンデネー。
ばあさんと　３人でねえ。

65C：サンニンデ　ヤッテルダケ。
３人で　　やっているだけ。

ヨメゴワ　ホンダッテ、　ヒャ　アノー　ヒャクショー　シネー
嫁御は　だって　　××　あのう　百姓を　　しない

ツー　ワケデ　キタンダ　ツカラ。　（B　アー）
という　わけで　来たのだ　というから。（B　ああ）

ダカラ　ウチニ　モリッコー　シタリ
だから　家で　子守を　　したり

センタクデモ　シタリシテルダゲナンダヨ。
洗濯でも　　したりしているだけなのだよ。

66B：オラ　イクドカ　イッタケンド　ミタコトネー　ヨメー。
おれは　幾度か　行ったけれど　見たことない　嫁を。

67C：トショーリノ　オバーサンガ　ホラ　ミマチ〔35〕カラ　キタンダケンド
年寄りの　おばあさんが　ほら　三町から　　来たのだけれど

アノ　オバーサンダナンカ　スキナンダヨ　ヒャクショーガ。
あの　おばあさんなんか　好きなのだよ　百姓が。

（B　アー）　ノマーリ〔36〕シチャー
（B　ああ）　野回りしては

アノ　ミラレチャ　ヤダッテ〔37〕
あの　見られては　いやだと

タノ　クロガリー〔38〕ダナンカ　シテンダト。
田の　畔刈りなんか　しているのだと［いうことだ］。

68B：ア　アノ　オバーサンガカイ。　（C　アー）　{笑}　へー。
あ　あの　おばあさんがかい。　（C　ああ）　{笑}　へえ。

X6サンナ　ハー　イゴカネーネー。　（C　ソーカイネ）
X6さんは　もう　動かないねえ。　（C　そうかいね）

69A：ン　イゴカナゲ。
ん　動かないようだ。

70B：ア　X6サンナ　ナンダヨ。
あ　X6さんは　なんだよ。

71C：へー　オジーサンナ
へえ　おじいさんは

バーカババー〔39〕ガ　アンナコトベ　ヤル
「［うちの］馬鹿ばばあが　あんなことばかり　やる」

ッテ　ユッテル　ツッタヨ。
って　言っている　といったよ。

72B：ン　X6サンナ　コンドコエ　ネテーテ
ん　X6さんは　ここの所［＝座敷］へ　寝ていて

フンデ　アノ　センプーキガ　ウシロデ　マーッテテ
それで　あの　扇風機が　　後ろで　　回っていて

（A　フーン）　（C　へー）　オラ　　コナイダ　イッタ。
（A　ふうん）　（C　へえ）　おれは　この間　　行った。

ハー　シッカリシテルネー。　　（A　フン）
ああ　しっかりしているねえ。　（A　ふん）

タマゲタ。　（C　へー）
驚いた。　　（C　へえ）

73A：X6サンガ　ヤッパリ　ハチジューゴロクダンベナー。
X6さんが　やっぱり　85，6［歳］だろうなあ。

74B：アー　ソーダンベネー。　（A　ン）
ああ　そうだろうねえ。　（A　ん）

＊＊＊　サンネン　ヨネングレー　ハー　タツカナー
＊＊＊　3年　　4年くらい　　もう　経つかなあ、

ホシー　　ツ　ハタケガ　ツクリテー　ツンデ
［X6の息子が畑が］欲しい　と　畑が　　作りたい　　というので

オレガ　ハナシー　イッタラ　X6サンガ
おれが　話しに　　行ったら　X6さんが

Bサン　　カサネーデクンナイヨ　（A　ウ）
「Bさん　貸さないでくださいよ　（A　う）

オーク　　ツクッチャー　ショーガネーカラー。　{笑}
[あまり] 多く　作っては　　しかたがないから。」　{笑}

75C：{笑}　オバーサント　オジーサンナ
{笑}　おばあさんと　おじいさんは

ソーニ　ユーンダ　ツッタガネー。　　{笑}
そう　　言うのだ　と言ったじゃない。　{笑}

オバーサンガホーワ　ミマチッカラ　キタンダカラ
おばあさんのほうは　三町から　　来たのだから

オジーサンガナ　コモリッシュ〔40〕ナンダケンドサー
おじいさんは　　子守り衆なのだけれどさあ

(B　アー)　カーリ　　クルト　　スーグ　カーリチモンデ
(B　ああ)　「借りに　来ると　　すぐ　　借りてしまうので

ドーショモ　　ネーンダヨー　　ナンテ　ユッタガネー。
どうしようも　ないのだよ。」　　なんて　言ったじゃない。

(B　アー)　マー　タテヤキ〔41〕ノホーダノ
(B　ああ)　まあ　帯刀のほうだの

テシガーラノホー　カリテンダ　　ツーモノ。
勅使河原のほう　　借りているのだ　というもの。

76B：アッチーエカイ
あっちへかい [＝あんな遠くへかい]。

（A　ン）　（C　アー）　アー。
（A　ん）　（C　ああ）　ああ。

77C：ホラ　ヨメゴガ　タチヤキカラ　キテルカラ。　（B　アー）
ほら　嫁御が　帯刀から　来ているから。（B　ああ）

ヨーク　ヤルンネー　ンダケンド。
よく　やるのねえ［＝働くのねえ］　そうだけれど。

アノ　オヤジヤ　ホラ　ニーサンガ　センシシタンデ
あの　おやじは　ほら　兄さんが　戦死したので

ウチー　ヘッタンダイネー。　（B　アー　ソーカイ）
家へ　はいったのだよねえ。（B　ああ　そうかい）

オラ　トーキョーカラ　モコニ　キタンダヨ　ッテ
「おれは　東京から　婿に　来たのだよ」　って

ユーガネ　トーキョーエ　イッテタンダカラ。
［冗談で］言うじゃない　東京へ　行っていたのだから。

05↑

―― 中　略 ――

78C：ヨーク　アシガ　オカーサン〔42〕ガ　ユッタヨー。
よく　私の　お母さんが　言ったよ。

↑06

ナンダト　オダイミョーミテーナ　センドーモ　アッタンダ
なんだと　お大名みたいな　船頭も　あったのだ

ツーヤネー。　（A　ン）　カミシモー　キテ。　{間}
というではないかね。　（A　ん）　裃を　着て。　{間}

79B：フーン。　センドーニモ　ソンダケノ　シカクノ　ヒトガ　イタンダ。
ふうん。　船頭にも　それだけの　資格の　人が　いたのだ。

（A　ン）　ソーカネー。　{笑}
（A　ん）　そうかねえ。　{笑}

80C：カッシノ　ナンダトー　チューザエモンセンドートカ
河岸の　なんだと　忠左衛門船頭とか

ナントカッテ　ヨク　ユッタガネ。　（B　アー　ソーカネー）
なんとかって　よく　言ったじゃない。　（B　ああ　そうかねえ）

ソーノヒトガ　カミシモー　キテタンダナンテ。
その人が　裃を　着ていたのだなんて。

（B　へー）
（B　へえ）

81A：カシワ　{咳払い}　ジューエモンセンドー。
河岸は　{咳払い}　重右衛門船頭。

（C　ジューエモンカ）　（B　ウーン）　カシンチ〔43〕ダ。
（C　重右衛門か）　（B　うーん）　河岸の家だ。

82C：ア　ソッカイ。　（A　ン）　カシンチワ
あ　そうかい。　（A　ん）　河岸の家は

オリセンドーツンジャー　ネンカイ。
伊織船頭というのでは　ないのかい。

83A：オリセンドーノ　（B　マエ〔44〕ダ）　マエダイ。
伊織船頭の　（B　前だ）　前だよ。

（B　{笑}）
（B　{笑}）

84C：アー　ソッカイ。
ああ　そうかい。

85B：ジューエモンカイ。　アー。　{間}　フーン。
重右衛門かい。　ああ。　{間}　ふうん。

86C：ソノジブンカイ　カシノホーガ　エバッテタツンナ
その頃かい？　河岸のほうが　威張っていたというのは

（A　ン　ン　ン）　コッチヨリ。
（A　ん　ん　ん）　こっちより。

87A：ン。　ソノジブンサ。　{間}　カシンチノ　メーノ　センゼー〔45〕ガ
ん。　その頃さ。　{間}　河岸の家の　前の　前栽が

アレガ　ウーン　ヘーベー、　ヤジマヘーベーツンダナ。
あれが　うーん　平兵衛、　矢島平兵衛というのだな。

（B　アー）　ヘーベーセンドー。　コイツ〔46〕
（B　ああ）　平兵衛船頭。　こいつ

コイツノホーガ　エラカッタンダ　ジューエモンヨリ。
こいつのほうが　偉かったのだ　　重右衛門より。

（B　アー　ソーカネー）　ン。　（B　へー）
（B　ああ　そうかねえ）　ん。　（B　へえ）

88C：ツノブチ〔47〕ー　イッタ　（B　ン）　ナンタッケ
角渕へ　　行った　（B　ん）　何と言ったっけ

（A　X7ヤン）　（B　オリ　オリ　ア）　アノヒトノ
（A　X7さん）　（B　おり　おり　あ）　あの人の

ウチダツーヤネーカイネ。　（A　ン）
家だというではないかね。　（A　ん）

89B：ン　ソーカ。　X8チャンガ　フンジャ　ヒガシンチカイ。
ん、　そうか。　X8さんの　それでは　東の家かい。

90A：ン。　X8チャンガ　ヒガシ。　（B　アー）　ン。
ん。　X8さんの　東。　（B　ああ）　ん。

（B　ソーカネー）　{間}
（B　そうかねえ）　{間}

91B：ヒトッキリャ〔48〕　イギッキ〔49〕シタケンド　イマー
一頃は　　行き来したけれど　　今は

イギッキシナクナッタ。
行き来しなくなった。

92A：ン。　イギッキシネン。　（B　アー）　ダレダッタンベナー
ん。　行き来しないのだ。　（B　ああ）　誰だったのだろうなあ

ソーシキニ　イッタコトガ　アライナー〔50〕。　（B　アー）
葬式に　行ったことが　あるよなあ。　（B　ああ）

93C：アノ　オX7サン　ツンナ　ヨーク　ツノブチカラ
あの　おX7さん　という人は　よく　角渕から

ヨッタ〔51〕ガネ。　（A　ン）　（B　アー　ヨッタ）
寄ったじゃない。　（A　ん）　（B　ああ　寄った）

コッチー　クルター〔52〕　ヨッタンネ。
こっちへ　来るたびに　寄ったのね。

94B：アー　アー。　{間}　ソーネワ　ヨッタッタ〔53〕ネー
ああ　ああ。　{間}　そうねえ　寄っていったものだったねえ。

ウーン。　{間}
うーん。　{間}

95A：マー　アレガー　{咳払い}　ヤジマヘーベーデ
まあ　あれが　{咳払い}　矢島平兵衛で

ヤジマヘーベーセンドーッテ　コノヒトガ　シブサ〔54〕ノ
矢島平兵衛船頭って　この人が　朱房の

シュブサノ　ジッテー　モッテ　フネノ　カシラヘ　イッテ
朱房の　十手を　持って　船の　頭へ　行って

コーヤッテ　メーレーシテタンツヤネ。　（B　ホー）　ン。
こうやって　命令していたのだというよね。（B　ほう）　ん。

（B　ソーカネー）　カミシモオ　キテ。（B　へー）
（B　そうかねえ）　裃を　　着て。（B　へえ）

06↑07

96C：タベルー〔55〕　ソレ。（B　マメ〔56〕カイ）　ハイガ
食べる？　　それ。（B　豆かい？）　　蠅が

ツッツクカラ。
つっつくから。

97B：ソーカネー　フーン。　ソノジブンノ　フネワ
そうかねえ　ふうん。　その時分の　　船は

デカカッタ〔57〕ンダンベネー。（A　ウン？　ン）
大きかったのだろうねえ。　　（A　うん？　うん）

ソノ　フネワ　ドンノ〔58〕クレー。
その　船は　　どのくらい。

98A：ソーネー　ソノジブンノ　フネガ　ウーン
そうねえ　その時分の　　船が　　うーん

イマノ　ワタシバ、ブネ〔59〕、ヨリ　チイット　デカカッタナー。
今の　　渡し場舟より　　少し　　大きかったなあ。

（B　チットグレーカイ）　ン。　チイット。
（B　少しくらいかい）　　ん。　少し。

ソレデ　コブネチュンダイナ。　（B　アー　ア　ソーカイ）
それで　小舟というのだよな。　（B　ああ　あ　そうかい）

ホレデ　トネガワワ　オヤフネチュンガ　イッタリキタリ
それで　利根川は　親船というのが　行ったり来たり

デキタンダケンド　コッチワ　カラスガワノ　ホーワ
できたのだけれど　こっちは　烏川の　ほうは

（B　ミズガ　スクネーカラ）　ミズガ　スクネーンデ
（B　水が　少ないから）　水が　少ないので

オヤフネチューナー　キランナカッタ〔60〕ン。
親船というのは　来られなかったのだ。

（B　アー　ハー）　コブネチューンデ。
（B　ああ　はあ）　小舟というので。

（B　アー　アー　アー　ソーカイ）
（B　ああ　ああ　ああ　そうかい）

99B：ジャー　モ　アノー、　ンー　ジッコクブネナンツー　ソンナ
では　×　あのう、　×　十石船などという　そんな

ワケジャー　ネンダ。　（A　ウー　ン）　ハー　ジャ
わけでは　ないのだ。　（A　うう　ん）　はあ　では

トセンバニ　ツカッタンヨリ　ス　イクラカ　デッケーグレー。
渡船場に　使ったのより　×　いくらか　大きいくらい。

100A：ン　ン　ン。　アレヨリ　デッカカッタナー。
　　ん　ん　ん。　あれより　大きかったなあ。

101B：ソーデショーネー。　ン。　{間}　ジャ　アンノクレーノ
　　そうでしょうねえ。　ん。　{間}　では　あのくらいの

　　フネジャー　フンナニ　タクサン　ニモ　ツメネーネー。
　　舟では　そんなに　たくさん　荷も　積めないねえ。

102A：イヤー　ソレデモ　ツメルンダヨー。　(B　アー　ソーカネー)
　　いやあ　それでも　積めるのだよ。　(B　ああ　そうかねえ)

　　フネッテー　ヤツワー。
　　舟という　やつは。

103C：ソーノーヒトワ　ナニカイ　カミシモデ　キテンダツカラ
　　その人は　なにかい　裃で　来ているのだというから

　　アノ　ジッテモチダッタンカイ。
　　あの　十手持ちだったのかい。

104A：ン　ジッテモチ。
　　ん　十手持ち。

105C：フネノネ。　(B　ウーン)　ナンダ　アラー
　　舟のね。　(B　うーん)　なんだか　あれは

　　エラインダッテー　エー　ヨク　アッシガ　オッカサンガ
　　偉いのだって　ええ　よく　私の　お母さんが

イッタモノ。　（A　ン）　{間}
言ったもの。　（A　ん）　{間}

106A：ソノジブンダー　カシノホーノ　レンチューニ
その頃だ。　河岸のほうの　連中に

カミノホーノ　ヤツラー〔61〕　ッテ　イワレタンガ。
上のほうの　やつら　と　言われたのが。

（B　アー　ア　ソーカイ）　{笑}　{間}
（B　ああ　あ　そうかい）　{笑}　{間}

107B：フンジャ　ソ　{間}
それでは　そ　{間}

108A：フンデ　{間}
それで　{間}

109C：ダカラ　ホコカラ　ナニカネー　トーキョーマデッツー　フネガ
だから　ここから　なにかねえ　東京までという　舟が

コーニ　イッタリキタリ　シテタンカネー。
こう　行ったり来たり　していたのかねえ。

（A　ン　ン。　ソー　ソー　ソー　ソー）
（A　ん　ん。　そう　そう　そう　そう）

110B：ンジャ　ソノ　ジッテ　モッテル　ウー　エライヒトワ
それでは　その　十手［を］　持っている　うー　偉い人は

エー　フネオ　イクソーモ　マー　シド
えー　舟を　幾艘も　まあ　指導

(A　ン　ン　ン、　ン)　ツイテッタ〔62〕　イッタワケダ。
(A　ん　ん　ん、　ん)　連れていった　いったわけだ

(A　ン。　ソーナンダイナ)　アー。　{間}　フンジャー　マー
(A　ん。　そうなのだよな)　ああ。　{間}　それでは　まあ

ハヤク　ユート　ソノ　フネノ　ブタイチョーダ。　(A　ン)
早く　言うと　その　舟の　部隊長だ。　(A　ん)

ネー。　イマ　イエバ　ブタイチョーダ。　{笑}
ねえ。　今　言えば　部隊長だ。　{笑}

111A：フネノ　ブタイチョー。　ソイツオ　ソイツオ　アレダガナ、
舟の　部隊長。　そいつを　そいつを　あれだよ、

マーリノ　センドーガ　カリテ、　ニー　ハコンダンダ〔63〕。
まわりの　船頭が　借りて　荷を　運んだのだ。

(B　アー)
(B　ああ)

112C：フンダカラ　マー　ン、　キシャノ　ネー　トキダカラ〔64〕
そうだから　まあ　ん、　汽車の　ない　時だから

フネガ　ナンデー　(A　ン)　ソンデ
舟が　なんだ　(A　ん)　それで

トンヤツッタンダンネー。
問屋といったのだねえ。

（A　ン　ン）　（B　ソーダイネー）　ウンソ、
（A　ん　ん）　（B　そうだよねえ）　×××

ウンソーテンミテーナンダ。　（A　ン）　（B　アー）
運送店みたいなのだ。　（A　ん）　（B　ああ）

ムカシノネー　トンヤツンナ。
昔のねえ　問屋というのは。

113A：チチブカラー　アレガー　シミ〔65〕ガ　ウント
秩父から　あれが　炭が　たくさん

キタンダ　ツッタイナー。
来たのだ　といったよなあ。

114B：スミガネー。　（A　ン）　アー。　{間}
炭がねえ。　（A　ん）　ああ。　{間}

115A：スミワ　クル　シオ　シオ〔66〕ワ　クル。
炭は　来る　塩　塩は　来る。

116C：ダカラ　ムカシワ　ホコントコワ　イートコダッタンダネー。
だから　昔は　ここの所は　いい所だったのだねえ。

117A：ン。　ムカシャ　イートコダッタンダヨ。
ん。　昔は　いい所だったのだよ。

07↑08

118C：フネ　フネツキバーガ　アルンダカラ。
　　舟　　舟着場が　　あるのだから。

119B：ジャ　サケモ　ヨホド　キタンカネー。
　　では　酒も　　よほど　来たのかねえ。

　　（A　ウーン　キタラシーナ）　マー　ヒトノ　ハナシーニ
　　（A　うーん　来たらしいな）　まあ　人の　　話に［よると］、

　　シトダルノ　ウー　ホソイ　ホーエ　エー　コモッカブリ〔67〕デ
　　４斗樽の　　××　細い　　ほうへ　ええ　こもかぶりで

　　クルンデ　ソノ、ナカエ　カーラ　　ニマイトカ　サンマイ　イレテ
　　来るので　その中へ　　瓦［を］　２枚とか　　３枚　　入れて

　　トンヤノ　ヤネワ　アー　（C　アー）　モコーカラ
　　問屋の　　屋根は　ああ　（C　ああ）　向こう［＝関西方面］から

　　モッテキタ　カーラデ　フイタンダッテ。　（A　ウーン）
　　持って来た　瓦で　　葺いたのだって。　（A　うーん）

　　マー　ヨースルニ　（C　ジャー　サカダルノ　ナニデ）　アー
　　まあ　要するに　　（C　では　　酒樽の　　なにで）　ああ

　　アー　（C　へー）　クボイ　トコガ　アルデショ
　　ああ　（C　へえ）　窪んだ　所が　　あるでしょう。

　　（C　エー　エー）　アスコエ　イレテ　ソレー　コモオ
　　（C　ええ　ええ）　あそこへ　入れて　それへ　こもを

カブシテ　シバッテ　（C　へー）　ダカラ　タダ
かぶせて　しばって　（C　へえ）　だから　ただ［で］

カーラーオ　ハコンダンダツー。　（A　フーン）
瓦を　　運んだのだという。　（A　ふうん）

ヒトノ　ハナシナンデネー　（A　ン）　ジッサイ
人の　　話なのでねえ。　　（A　ん）　実際

ソンナクレーダヨ。
そんなくらいだよ。

120C：フンジャ　ソノクライ　マー　サケガ　キタツー
それでは　そのくらい　まあ　酒が　　来たという

ワケナンダンベネ。　（A　ン）
わけなのでしょうね。　（A　ん）

121B：ダケンド　ソンナクレージャ　トテモ　ヤネワ
だけれど　そんなくらいでは　とても　屋根は

フサゲランネー〔68〕カンネー。　（A　ン）　ン
ふさげられないからねえ。　　（A　ん）　ん

ソレシテミルト　ヨホド　コモッカブリガ　ソノクライ
そうしてみると　よほど　こもかぶりが　　そのくらい

キタンダ、　ト　（A　ン）　マー　ソーゾースルンダケドサー。
来たのだ　　と　（A　ん）　まあ　想像するのだけどさあ。

ハナシ　ハナシ　ッツヨーナ〔69〕　サキカラ　サキー
話　　話　　っていうのは　　先から　　先に

オーキクナッテクカラ　マー　フントーノ、コトワ
大きくなっていくから　まあ　ほんとうのことは

イクラカ　キタンデショー　ホヤッテネー。　（A　ン）
いくらか　来たのでしょう　そうやってねえ。　（A　ん）

122A：トニカク　トンヤノ　X9サンチュー　ヒトワ
とにかく　問屋の　　X9さんという　人は

エライ　ヒトダッタンダナー。　（B　アー　ソーナンダネー）
偉い　　人だったのだなあ。　　（B　ああ　そうなのだねえ）

（C　ソーダイネー）　アンナ　ムカシノ　フルイ　ヒトデ
（C　そうだよねえ）　あんな　昔の　　古い　　人で

ケンカイギイン、ワ　シタンダンベカラ。　（B　アー）
県会議員は　　したのだろうから。　（B　ああ）

チョーソンセーノ　ギインガ　ハジマッテ、
町村制の　　議員が　　始まって

サイショノ　ケンカイギインダチューカラ。　（B　ソーダイネー）
最初の　　県会議員だというから。　　（B　そうだよねえ）

123C：コーチョーサンツンノ　ヤッタンダンベ？　アノヒトワ。
戸長さんというのを　　やったのでしょう？　あの人は。

124A：コチョー？　コチョーワ　ホカニモ　イックラモ　アルヨ。
戸長？　戸長は　ほかにも　いくらも　あるよ。

コチョー　ナンチューンナ　イマノ　クチョーダカラ。
戸長　などというのは　今の　区長だから。

ホンナモナー　イックラモ　イルンダー。　{間}
そんなものは　いくらでも　いるのだ。　{間}

125B：ソーシテミルト　アノ　カッパ〔70〕ノ　キミチヨ〔71〕ナンカー
そうしてみると　あの　勝場の　「君千代」などは

ン　サイキン　デキタ　サカヤカイ。
×　最近　できた　酒屋かい？

126A：ウーン。　キミチヨワ　サイキンダ。
うーん。　「君千代」は　最近だ。

（B　ソーダンベネー）　ン。
（B　そうだろうねえ）　ん。

ソノマエニ　ハツメー　チューノー　（B　アー）　ウッテタ。
その前に　「発明」　というのを　（B　ああ）　売っていた。

127B：ハツメー　（A　ン）　アスコデ　ツクッタンカイ。
「発明」？　（A　ん）　あそこで　作ったのかい？

128A：ウー　ウン　ン。　アスコデ　ツクッタン。
うー　うん　ん。　あそこで　作ったの。

129B：アー　アスコデネー。
　　ああ　あそこでねえ。

130A：キミチヨ　チューナ　サイキンダヨ　（B　アー）　マダ。
　　「君千代」　というのは　最近だよ　（B　ああ）　まだ。

　　（B　アー　ソーカイ）　{間}
　　（B　ああ　そうかい）　{間}

131B：ホダカラ　アスコニ　サカヤガ　アレバ　シモカラ　フンナニ
　　そうだから　あそこに　酒屋が　あれば　下から　そんなに

　　アゲテ　キナクモネー。　サケノ　バーイニワ。
　　上げて　来なくてもねえ。　酒の　場合には。

132A：ウーン。　ヤッパリ　ナダノ　サケデ。　イマン　ナッタッテ
　　うーん。　やっぱり　灘の　酒だよ。　今に　なったって

　　ホレ。
　　ほら。

133B：ン。　ソラ　ソーサー。　（A　ン）
　　ん。　それは　そうさ。　（A　ん）

134A：トニカク　X9サンチュー　ヒトワ　アレデ、
　　とにかく　X9さんという　人は　あれで、

　　グン　ケンカイギインワ　ヤル　グンカイギインワ　ヤル。
　　××　県会議員は　やる　郡会議員は　やる。

トニカク　ランジュホーショーオ　モラッタンダカンナー。
とにかく　藍授褒章を　もらったのだからなあ。

アンナ　フルイ　ヒトデ。　（B　アー）
あんな　古い　人で。　（B　ああ）

08↑09

135C：フンダッテー　ジンジャノ　オースギサマ〔72〕ガ　アレガ
それだって　神社の　大杉様が　あれが

オジガミサマダツヤナイカイネー　トンヤノ。　（A　ン）
氏神様だというではないかねえ　問屋の。　（A　ん）

136A：イズレニシテモ　トンヤノ　ヤシキノ　イヌイノ　スミニ
いずれにしても　問屋の　屋敷の　乾の　隅に

アッタンダカラ　ジンジャニ　アル　オースギサマト
あったのだから　神社に　ある　大杉様と

オスワサマワ。
お諏訪様は。

137B：スミニ　アッタンカイ。　（A　ン）　アー。
隅に　あったのかい？　（A　ん）　ああ。

138A：イマノー、　X10チャンガ　ホレー、（B　アー）　ヒキー　トコー
今の　X10ちゃんが　ほら　、（B　ああ）　低い　所を

ツクッテタ〔73〕ガ。　（B　アー　ソーサー　アー）
作っていたよ。　（B　ああ　そうさあ　ああ）

アスコガ　ソーダ。　（B　アー）　アレガ
あそこが　そうだ。　（B　ああ）　あれが

スワサマノ　ヤシキダ。
諏訪様の　　屋敷だ。

139B：アノー　ヤシキワ　（A　ン）　ソーダンネー。　（A　ン）
あの　　屋敷は　　（A　ん）　そうだよねえ。　（A　ん）

デ　アレー。　{間}
で　あれを。　{間}

140A：ソノ　スワサマモ　トンヤノ　X9サンチュー　ヒトガ
その　諏訪様も　　問屋の　　X9さんという　人が

X11　X11　チュー　ヒトガ　（B　ン）
X11　X11　という　人が　　（B　ん）

シンシューカラ　モッテキタンダツッタナ。
信州から　　持ってきたのだといったな。

（B　アー　ソーカネー）　ン　シンシューノ
（B　ああ　そうかねえ）　ん　信州の

（B　アー　シンシューノ　オスワサマ）　ン　シンシューノ
（B　ああ　信州の　　お諏訪様）　　ん　信州の

オスワサマダト。
お諏訪様だと。

141B：アー　ソーカイ。
　　ああ　そうかい。

142C：ス　スワコノ　トコノカイ。
　　×　諏訪湖の　所のかい？

　　（A　ン　ン　ン）　（B　アー　アー　アー）　へー。
　　（A　ん　ん　ん）　（B　ああ　ああ　ああ）　へえ。

143B：スワダイミョージン。　（A　ン）
　　諏訪大明神。　（A　ん）

144C：アー　ソーカイ。
　　ああ　そうかい。

145B：X11サンガ　アスコワ　マー　キズイタワケダ。
　　X11さんが　あそこは　まあ　築いたわけだ。

　　（A　ン）　ネー。
　　（A　ん）　ねえ。

146A：X11　チュー　ヒトガ。
　　X11　という　人が。

147B：エライ　ヒトダッタンダネー。
　　偉い　人だったのだねえ。

148A：エライ　ヒトダッタンダ。　（B　アー）　（C　フーン）
　　偉い　人だったのだ。　（B　ああ）　（C　ふうん）

トニカク　X11　チュー　ヒトワ　シンシューカラ　キタ　ヒトナンデ。
とにかく　X11　という　人は　信州から　来た　人なので。

ホレデー、　ライゼンタメエモン〔74〕ト、
それで、　雷電為右衛門と

トモダチダトカ　ツッタナー。
友だちだとか　と言ったなあ。

149B：ウーン。　サンニンデ　キタトカ　ツッタネー。
うーん。　３人で　来たとか　と言ったねえ。

150A：ン。　ライゼンタメエモント　（B　X11ト）
ん。　雷電為右衛門と　（B　X11と）

X11ト　ホレカラ　ダレダ、　イワハナ〔75〕ノ
X11と、　それから　誰だ、　岩鼻の

ダイカンサマ。　ナニ　チュンダ。
代官様。　何　というのだ？

151B：ダイカンサマガ　ソーダッタンカイ。　（A　ン）　ナンデモ
代官様が　そうだったのかい。　（A　ん）　なんでも

サンニンデ　キテ　マー　イチバン　コーミョー　タテッコ
３人で　来て　まあ　一番　功名［を］　立てくらべ

（A　ン）　スベーッテ　ワカレタンダソーダ。
（A　ん）　しようと　別れたのだそうだ。

（A　ン）
（A　ん）

152A：ホレデネー、　エー　オレラガ　ホントノ　コドモノ　チーサイ
それでねえ、　ええ　おれ等が　ほんとの　子供の　小さい

ジブンニネー　トンヤニワネー、　アー　イマ　アレバ
時分にねえ　問屋にはねえ、　ああ　今　あれば

タイシタ　モンダンベケンド、　ライゼンタメエモンガ
たいした　ものだろうけれど、　雷電為右衛門が

ハイテキタチュー　ゲタガ　アッタンダヨ。
履いてきたという　下駄が　あったのだよ。

（C　{笑}）　（B　アー　ソーカネー）　ン　ゲタガ
（C　{笑}）　（B　ああ　そうかねえ）　ん　下駄が

アッタン。
あったのだ。

153B：アー。　コンノクレー〔76〕　アッタンベ。　（A　ン？）
ああ。　このくらい　あったろう。　（A　ん？）

コンノクレー。　{笑}　（C　{笑}）
このくらい。　{笑}　（C　{笑}）

154A：コノ　コレホドモ　ナカッタケンド。　（B　{笑}）
この　これほども　なかったけれど。　（B　{笑}）

コレ　ハンブングレー　アッタナー。　（B　アー）
この　半分くらい　　あったなあ。　（B　ああ）

コノクレー　アッタナー。　（B　アー）　（C　{笑}）
このくらい　あったなあ。　（B　ああ）　（C　{笑}）

155B：ゲタガ　アッタンカイ。
下駄が　あったのかい。

156A：ン　アッタン。　（B　ハー）　ソレオネー。
ん　あったの。　（B　はあ）　それをねえ。

（C　{笑}　フントカイネー　ツーヨーダ）　アノー
（C　{笑}　ほんとかねえ　というようだ）　あのう

ン　ヒムシバ〔77〕ノネー　ヘッツイ〔78〕ノ　マエノ　ホーノ
ん　火燃し場のねえ　かまどの　前の　ほうの

コシカケン　ナッテタンヨー。　（B　アー　ソーカイネー）
腰掛けに　なっていたのよう。　（B　ああ　そうかねえ）

ソーユンノ　ミタンダカラ。
そういうのを　見たのだから。

157B：ハナオガ　スガ　スガッテ〔79〕　{間}
鼻緒が　××　すげられて　{間}

158A：ハナオ　スガッテナクッテ　（B　アー）　ハー。
鼻緒［が］　すげられてなくて　（B　ああ）　もう。

ソノジブンダカラ　コショカケ〔80〕ニ　スンダカラ
その頃だから　腰掛けに　するのだから

ハナオガ　ナクモ　インダ　ホレ。（B　ン　ソーカネー）
鼻緒が　なくても　いいのだ　ほら。（B　ん　そうかねえ）

ン。（B　アー）｛間｝　ホシタラ
ん。（B　ああ）｛間｝　そうしたら

ライゼンタメエモンガ　ハイテキタ　ゲタダチュンダ。（B　アー）
雷電為右衛門が　はいてきた　下駄だというのだ。（B　ああ）

｛笑｝（C　｛笑｝）　オーモシレーコトガ　アルモンダイナ。
｛笑｝（C　｛笑｝）　おもしろいことが　あるものだよな。

（B　｛笑｝）　ソノトンヤガ。　｛間｝
（B　｛笑｝）　その問屋が。　｛間｝

159C：アレー　イクダイメグレーデ　オイチャッタ〔81〕ンダンベネー。
あれは　幾代目くらいで　終わってしまったのだろうねえ。

09↑10

160A：X11　チュー　ヒトガ　イテ　（B　ん　アー）
X11　という　人が　いて　（B　ん　ああ）

ソノアト　X9サンガ　イテ　（B　アー）
そのあと　X9さんが　いて　（B　ああ）

ソノアトガ　ンー　ナンツッタッケナー、　X9サンノ
そのあとが　うーん　なんといったっけなあ、　X9さんの

オトートワ　アノ　ジ　X12サンノ　ア　アニキ。
弟は　あの　×　X12さんの　あ　兄貴。

161B：オレ　X12サン　シッテッケンド　アニキー
おれ［は］　X12さん［は］　知っているけれど　兄貴［は］

シ　ヨク　シラネー。（A　ン）
×　よく　知らない。（A　ん）

162C：アシモ　シラネー。（B　アー）　オカミサンナ
私も　知らない。（B　ああ）　おかみさんは

シッテルケンド　ナクナッチャッテタッタケンド。
知っているけれど　亡くなってしまっていたけれど。

163A：ソレデー　イマノ、　アラー　センシシタンカ
それで　今の　あれは　戦死したのか

X13チャン　チュー　ヒトワ。
X13さん　という　人は。

164C：アノヒトワ　センシシタンミテーネー。（B　アー　ソーダイネー）
あの人は　戦死したのみたいねえ。（B　ああ　そうだよねえ）

ソノ　オトートガ　セーコーシタツーヤネー。
その　弟が　成功したというよねえ。

ホラ　X14ナンツト　オンナシックレーノ
ほら　X14［＝C氏の長男］なんかと　同じくらいの

コガ　イタガネー　　ヨーワゲーナ　コガ。
子が　いたじゃない　弱そうな　　子が。

165A：X15カ。
X15か。

166C：アー　X15チャン　ツー　　ヒトガ。
ああ　X15ちゃん　という　人が。

ウントー　シュッセシタ　ツッタイネ。　　（A　ン）
とっても　出世した　　といったよね。　（A　ん）

トーキョーエ　イッテ。
東京へ　　行って。

167B：アー　ソーダイネー。　ソレデ　アノ　ヨーオンジ〔82〕ノ
ああ　そうだよねえ。　それで　あの　陽雲寺の

ジドーサマー　ナオシテクレタンダイネー。　（A　ン）
地蔵様を　　直してくれたのだよねえ。　（A　ん）

168C：アレー　オハカモ　ヨクシタ〔83〕シネー。
あれ　　お墓も　　よくしたしねえ。

169A：ン。　ヨーオンジノ　ジドーサマオ　ナオシテクレタシ
ん。　陽雲寺の　　地蔵様を　　直してくれたし

ヨーオンジノ　アスコノ　アノ、　ナンダ　イ　イマノ
陽雲寺の　　あそこの　あの　　なんだ　×　今の

ブロックノ　ヘー、　アレモ　コセータンダ。
ブロックの　塀、　あれも　こしらえたのだ。

170B：ア　ソーカイ。　（A　ン）　ア　ソー　ソーダイネ。
あ　そうかい。　（A　ん）　あ　そう　そうだよね。

171A：ン。　アレモ　コセータン。
ん。　あれも　こしらえたの。

172C：アノ　シンゲンコー〔84〕ノカイ？
あの　信玄公のかい？

173A：ン　ウウン。　シンゲンコーデナク　ヨーオンジノ
ん　ううん。　信玄公でなく　陽雲寺の

スグ　アレニ、　（B　ア　ウ　ウチン　ドコエネ）　ン。
すぐ　あれに　（B　あ　×　家の　所へね）　ん。

ウチンドコニ　コーニ　ブロックノ　ヘーガ　デキテサ。
家の所に　こう　ブロックの　塀が　できてさ。

174B：ン　マ　ソー。　ア　アマンダレ〔85〕ノネー。　（A　ン）
ん　ま　そう。　×　雨だれのねえ。　（A　ん）

チョト　ワキーネー。　（A　ン）
ちょっと　脇にねえ。　（A　ん）

175C：フーン。　ウント　アノ　ホラ　ガ　コチラギ〔86〕
ふーん。　とても　あの　ほら　×　////

ヨーワゲナ　コダッタガネ。
弱そうな　子だったじゃない。

176A：ウ　ウン。　ヨワゲノ　コダッタン。
う　うん。　弱そうな　子だったのだ。

177C：ソノヒトガ　シュッセシタンダトカ　ツッタヨ。
その人が　出世したのだとか　といったよ。

（A　ン）　（B　アー）
（A　ん）　（B　ああ）

178A：アラー　ジ　X12サン　ツー　ヒトノ　コダー。
あれは　×　X12さん　という　人の　子だ。

179B：フーン。　アノヒトガ。　{間}
ふうん。　あの人が。　{間}

180A：ンデ　サンダイ　ヨダイ　ヨダイデ　オワッチャッタンカナ
それで　3代　4代　4代で　終わってしまったのかな

ソダカラ。　{間}　イマー　カゲモ　カタチモ　ネーカラ。
そうだから。　{間}　今は　影も　形も　ないから。

ナンニモ　ネー。　{間}
何にも　ない。　{間}

トンヤノー　タテモンデ　ノコッテルノア　アー
問屋の　建物で　残っているのは　ああ

シンタクノ　モノオキダケダンベヤ　ハー。
分家の　　物置だけだろうや　　もう。

181B：アー　ソーダイネ。　（A　ン）　アー　ウジガメサ、ント
ああ　そうだよね。　（A　ん）　ああ　氏神様と

ウデ　ウジガミサマト、ネ　ウジガミサマー
××　氏神様とね　　氏神様

アスコエ　イッテルガネ。　　（A　ン　ン）
あそこへ　行っているじゃない。　（A　ん　ん）

ジンジャ。　{笑}　（A　ン）
神社。　　{笑}　（A　ん）

ジンジャエ　ウジガミサマガ　ノコッテル。　ンー。
神社に　　氏神様が　　残っている。　ん。

182C：オースギサマガネー。　（A　ン）
大杉様がねえ。　　（A　ん）

183B：アー　オスワサマガネー。　ン。
ああ　お諏訪様がねえ。　ん。

184C：オースギサマト　オスワサマカー。
大杉様と　　お諏訪様かあ。

185A：{咳払い}　ソデカラー　グンマケンエ　イッテ
{咳払い}　それから　群馬県へ　行って

イカワイノ　シガキデージン〔87〕ノ　モンガ
川井の　　石垣大尽の　　門が

トンヤノ　モンダ　ツッタナー。　（B　アー　ソーカネー）
問屋の　　門だ　　といったなあ。（B　ああ　そうかねえ）

10↑11

ン　シモガワイノ。
ん　下川井の。

186B：アー　アスコノ　イシガキデージン　（A　ン　ン）
ああ　あそこの　石垣大尽　　（A　ん　ん）

イライ〔88〕　デージンダケンド
たいそうな　　大尽だけれど

モン　　カッテッタンカイ？　（A　ン）
門［を］　買っていったのかい？　（A　ん）

へー　ドンナ　モンダガンネー。
へえ　どんな　門だかねえ。

187A：ン　アレガ　トンヤノ　モンダツッタヨー。
ん　あれが　問屋の　　門だといったよ。

188B：ハー　ソーカネー。　へー。　{間}
はあ　そうかねえ。　へえ。　{間}

189A：ソレッキリデ　アトワ　ナーニモ　ネーンダンベナー。
それっきりで　あとは　何も　　ないのだろうなあ。

ソレデモ　ソレダケノ　デッケー　トンヤダカラ、
それでも　それだけの　大きな　問屋だから、

ヤシキカラ　ヤシキニ　ホレ
屋敷から　屋敷に　ほら

オーゴンノ　ハイッテル　カメガ　アルダンベ　チュンデ
黄金の　入っている　かめが　あるだろう　というので

ズーイブン　サガネタ〔89〕ラシーケンド　ナカッタラシーナー。
ずいぶん　探したらしいけれど　なかったらしいなあ。

190B：ソーデショーネー。　（A　ン）　ナカッタンデショーネー。
そうでしょうねえ。　（A　ん）　なかったのでしょうねえ。

アノ　アッタツー　ハナシー　キカネーモノー。　（A　ン）
あの　あったという　話を　聞かないもの。　（A　ん）

{間}　イケタ〔90〕　ズメンガ　アレバ　（A　ン）
{間}　埋めた　図面が　あれば　（A　ん）

ワカッタンダローケド。
わかったのだろうけど。

191A：{咳払い}　ズイブン　サガネタラシーンダイナー
{咳払い}　ずいぶん　探したらしいのだよなあ

アノー　X12サンガ　ジダイニ。　（B　アー）　ン。
あの　X12さんの　時代に。　（B　ああ）　ん。

（B　アー　ソーカイ）
（B　ああ　そうかい）

192B：デージンコ〔91〕ワ　シゴトー　シネーカラ　（A　ン）
大尽さんは　仕事を　しないから　（A　ん）

ツブレチモーンダイネー。
つぶれてしまうのだよねえ。

アノヒトワ　ホトンド、　ヒャクショー　シナカッタンベ。
あの人は　ほとんど、　百姓　しなかったろう。

193A：ン　ン。　ナーニモ　シネー。
ん　ん。　何も　しない。

ソレデモ、　カイコノ、　タネヤー〔92〕　シテタンダイナー。
それでも　蚕の　種屋を　していたのだよなあ。

194B：ハンバイオ　カイ？
販売を　かい？

195A：ン　ハンバイジャー　ネーヨ。　セーゾーオ　シテタンダヨ。
ん　販売では　ないよ。　製造を　していたのだよ。

196B：セーゾーオカイ？　（A　ン）　ソーカネー。　へー　へー。
製造をかい？　（A　ん）　そうかねえ。　へえ　へえ。

ジャー　オソクマデ　アッタ　ウチ〔93〕デ　ヤッタンダ。
では　遅くまで　あった　家で　やったのだ？

197A：ン。　X12サン　チュー　ヒトノ　アニキガ
ん。　X12さん　という　人の　兄貴が

ヤッテタンダイナー。　（B　アー）
やっていたのだよなあ。　（B　ああ）

198C：フンジャー　ウント〔94〕　ムカシダンベ。
それでは　ずっと　昔でしょう。

（B　アー）　（A　ン）　アッシガ　キテッカラー
（B　ああ）　（A　ん）　私が　［嫁に］来てからは

ソンナコター　ネンダモノ。　{間}
そんなことは　ないのだもの。　{間}

199B：ワシナンカ　オボエテン　マダ、　アッタイネー　（A　ン）
私などは　覚えてる。　まだ　あったよねえ。　（A　ん）

ウチガ。
家が。

200A：ン。　ホデー　X9サンガ　アー
ん。　それで　X9さんが　ああ

コッチノ　ソンチョーモ　シタンダヨ。　（B　アー）
こちらの　村長も　したのだよ。　（B　ああ）

カミソンチョー。
賀美村長。

201C：X16サンノ　マエカイ？　（A　ン）　（B　X9）　{間}
X16さんの　前かい？　（A　ん）　（B　X9）　{間}

202A：アノ　X9サンチュー　ヒトガ　ケンカイギインニ　ナッタトキニワ、
あの　X9さんという　人が　県会議員に　なった時には

{咳払い}　イマトワ　アベコベナンダ　チューナー。　{笑}
{咳払い}　今とは　あべこべなのだ　というなあ。　{笑}

（B　アー　ソーカネー）　コノ　コノフキンノ　カクメーシガ
（B　ああ　そうかねえ）　××　この付近の　各名士が

オネガイモーシテ　ナッテモラッタンダ。
お願い申して　なってもらったのだ。

アベコベナンダナー　イマトワ。
あべこべなんだなあ　今とは。

イマー　ナル　ヒトガ　オネガイモースンダケンド
今は　なる　人が　お願い申すのだけれど

ソージャー　ネーンダチュー。　（B　{笑}）
そうでは　ないのだという。　（B　{笑}）

オネガイモーシテ　ナッテモラ　ッツー。　{間}
お願い申して　なってもらう　という。　{間}

11↑12

203B：フンデ　ソノジブンナー　ゼンブノ　ヒトニ
それで　その時分には　全部の　人に

センキョ、ケンガ　アッテ　シタンデ　ナクッテ　（A　ン　ウン）
選挙権が　あって　したので　なくて　（A　ん　うん）

デ　ヨースルニ　ユーリョクシャデナケラー　（A　ン　ウン）
で　要するに　有力者でなければ　（A　ん　うん）

センキョケンガ　ナカッタンダカラ。　{間}
選挙権が　なかったのだから。　{間}

204A：アレガ　ノーゼーガクニヨッテ　ゼーキンガ　アッタンダイナー
あれが　納税額によって　税金が　あったのだよなあ

センキョケンガ。
選挙権が。

205B：アー　ソーダイネー。　（A　ン）　ダカラ
ああ　そうだよねえ。　（A　ん）　だから

アノ　ムラニ　エー　イクニンモ　イナインダカラ。
あの　村に　ええ　幾人も　いないのだから。

（A　ン　ウン。　イクニンモ　イネン）
（A　ん　うん。　幾人も　いないの）

ソカラ　ソーユー　ヒトタチ。　{間}
それから　そういう　人たち。　{間}

206A：ドーシテ　ケンカイギインノ　センキョケンガ　アルナンチューナー
どうして　県会議員の　選挙権が　あるなどというのは

エライ　　オダイジンノ　クチ〔95〕ダッタンダ。
たいそうな　財産家の　　類だったのだ。

207B：アー。　ソダカラ　　ソノヒトタチガ、　ヨースルニ
ああ。　そうだから　その人たちが　　要するに

アノヒトダラ　リッパナ　ヒトダカラ　（A　ン）
あの人なら　　りっぱな　人だから　　（A　ん）

アノヒトダラ　イーッテ　ハナシアイデ　デキルンダイネー。
あの人なら　　いいと　　話し合いで　　できるのだよねえ。

（A　ン）　イマー　コノヒトワ　ドーダイ　　ツッタラ
（A　ん）　今は　　この人は　　どうだいと　言ったら

オラーホーノワ　　コーユーンガ　イルッテ
おれたちのほうのは　こういう人が　いるって

オッペシッコー〔96〕　スルカラ。　{笑}
押し合いを　　するから。　{笑}

208C：ヤッパリー　ムカシモ　イマモ　オナシダネー
やっぱり　　昔も　　今も　　同じだねえ

カネノ　チカラダイネー。　（B　ン　アー　ソー　ン）
金の　　力だよねえ。　　（B　ん　ああ　そう　ん）

ダカラ　カネガ　アレバ　エラクナレルンダイネー。
だから　金が　　あれば　偉くなれるのだよねえ。

209B：ソダカラ　ソノジブンナ　センキョッテンガ　ハジメテ
そうだから　その時分は　選挙というのが　初めて

X9サン　トキガ　ハジメテ　デキタンダカラダー　ウー
X9さんの　時が　初めて　できたのだからさあ。　うー

ダケンド　アーユー　エライ　シトニ　ナルト　ダイタイ
だけれど　ああいう　偉い　人に　なると　だいたい

ウチワ　ツカッチモン〔97〕カネー　ザ　ザイサンオ。
家は　使ってしまうのかねえ　×　財産を。

210A：アー　アー　ミンナ　ツカッチモーンダヨ。
ああ　ああ　全部　使ってしまうのだよ。

ムカーシノ　エライ　ヒトワ　ホレ
昔の　偉い　人は　ほら

オキューキンジャ　ネーンダカラ
お給金では　ないのだから

ソーニ　ナッタッテ　メーヨショクダカラ
そう［＝議員に］　なっても　名誉職だから

（C　ダイタイ　エライ　ヒトノ　ウチワ　オイチモーモノネー
（C　だいたい　偉い　人の　家は　絶えてしまうものねえ

ムカシノ　ダイジンナ）
昔の　財産家は）

コズカイ　ツカイツカイ　アスンデンダ〔98〕カラ　ホラ。
小遣い［を］　使い使い　遊んでいるのだから　ほら。

211B：ヒトニ　ノマレテ〔99〕。
他人に　［酒を］飲まれて［＝寄食されて］。

（A　ウーン　ン）
（A　うーん　ん）

212A：オレナンカガ　クチョーダ　クチョーダイリダッテ
おれなどが　区長だ　区長代理だと

ヤッテル　ジブンダッテ　タダナンダ。
やっている　時分だって　無給なのだ。

イッセンモ　モラーネーンダモノ。　（B　{笑}　スラ　スーダ）
一銭も　もらわないのだもの。　（B　{笑}　そら　そうだ）

213C：{笑}　イマー　ミンナ
{笑}　今は　［どの役職も］みんな

キューキントリダカラネー。　（B　アー）
給金取りだからねえ。　（B　ああ）

214A：{咳払い}　ソレガ　イマー　キューキントリダカラ　ホレ。
{咳払い}　それが　今は　給金取りだから　ほら。

ダカラ　ムカシワ　ホントーノ　エライ　リコーノ　ヒトガ
だから　昔は　ほんとうの　偉い　りこうな　人が

デタンダイナ。　（B　アー）　マーリジューデ
出たのだよな。　（B　ああ）　周り中で

アノヒトダラチューノア　オネガイモーシー
あの人ならというのは　お願い申しに

イッタンダチューカラ。
行ったのだというから。

215B：ソーナンダイネー　アー。　{間}　イマー　ナンダイネー　{間}
そうなのだよねえ　ああ。　{間}　今は　なんだよねえ　{間}

216C：イマー　カネガ　アレバネー。　（A　ン）　ヨシ　オレガ
今は　金が　あればねえ。　（A　ん）　よし　おれが

ヤッテンベーナンテ　（A　ダカラ）　カネー　チットンベー
やってみようなんて　（A　だから）　金を　少しばかり

ツカエヤ　ヤレルダンベー　ナンツッテ。　{笑}
使えば　やれるだろう　などといって。　{笑}

217A：ランジュホーショーダ　ナンツーノー　モラッタンナー、
藍授褒章だ　などというのを　もらったのは

X9サングレーノ　モンダンベガナ。　（B　アー）
X9さんくらいの　ものだろうがね。　（B　ああ）

12↑

埼玉県児玉郡上里町1981注記

〔1〕コノジシン

1931年9月21日に発生した西埼玉地震だと思われる。

〔2〕キッテキテ

ナスは鋏で切り取るので，「切る」と言う。

〔3〕コシライテ

出荷するように軸を切り揃え，選別し，荷造りして。

〔4〕ヒーテ

リヤカーを自転車につけて引いて。

〔5〕イセガキ

石垣。小学校の西は田地なので，道路との境は石垣になっている。

〔6〕オッパナシテ

放して。手放して。オッは接頭語。

〔7〕ツクンジャッタ

ツクムは，しゃがむ，うずくまる。

〔8〕シンマチ

群馬県多野郡新町。神流川を間に上里町と隣接。黛から約3km。青果市場があって，近隣の農家は個々に出荷した。

〔9〕ヒワレテ

干割れて。ひび割れて。亀裂が生じて。

〔10〕ボッコヌキイド

先端部に弁をつけた鉄パイプを地下水の流れまで打ち込み，地上にポンプをつけた井戸。ボッコヌクは打ち抜く。ブッコミイドとも言う。

〔11〕ノーメミズ，ノメミズ

飲み水。飲める水。

〔12〕ユレスレンダモノ

レは言い間違いか。ユスレルは，揺れる。

〔13〕シンタク

本家に対する分家。この場合は，A氏の家。

〔14〕タノムヨ　ツッテ

落雷で火災が起きたので消火してくれるよう頼むよ，と言って。

〔15〕サタ

沙汰。知らせ。

〔16〕テーンデ，テンデ

とても。

〔17〕メッタン

やたらに。むやみに。むちゃくちゃに。

〔18〕テンノアカリ

天道様［＝太陽］の明るさ。この時は、照明がつけられていたため。

〔19〕カマ

柱上変圧器。

〔20〕チチガ　クサッチマーカラ

しぼった牛乳は，翌朝出荷するまで保冷庫で冷やしておかないと腐ってしまう。停電ではその保冷庫が動かないので，牛乳が腐ることをおそれている。

〔21〕メンゴマッテタン

メンゴマールは，一か所でぐるぐる回る。自転する。

〔22〕サンドイモ

じゃがいも。馬鈴薯。ジャガタラ，ジャガタライモとも。

〔23〕オマンマン　ナンネーヤネ

生活していけない。オマンマは，ご飯。

〔24〕イチネンダモノネー　ネギワ

ネギは，1年がかりで1回の収穫である，という意味。

〔25〕ワーキャー　アラー　シネーガネー

わけはありはしない。簡単だ。容易だ。ワキャーネーの強意。

〔26〕ワカイモンノ　シゴトダモノ

ビニールハウス栽培は，高温，多湿，狭隘の場での重労働で，若い頑健な人でなければできない，という意味。

〔27〕ニシキン

埼玉県児玉郡上里村大字金久保の西金久保。以前は西金と呼ばれた。黛の西にある字。

〔28〕テー

感動詞。

〔29〕サンビャッピョー

２袋で１俵なので，600袋は300俵に相当する。

〔30〕サブ　ロク　ジューハチ

１俵6,000円×300俵＝1,800,000円，という計算。

〔31〕カンマーシチャー

カンマースは，かきまわす。かきまぜる。雑草ごと表土をかきまぜて雑草を枯らす除草法がある。

〔32〕クサマタケ

雑草の茂った畑のことと思われる。

〔33〕ムシリコンダ

むしった雑草の根の部分を，前に置いた雑草の茎の部分の上に次々に重ねていく草むしりのしかた。

〔34〕グレタヨーナ

きちんとしていない。いいかげんな。

〔35〕ミマチ

埼玉県児玉郡上里町大字三町。

〔36〕ノマーリ

野回り。自分の家の田畑のようすを見て歩くこと。

〔37〕ミラレチャ　ヤダッテ

老齢の者が畑仕事をしているところを他人に見られてははずかしい，という意味。

〔38〕タノ　クロガリー

田の畔刈り。田の畔に伸びた雑草を草刈鎌で刈りとる作業。成長した稲田の間にしゃがみこんでする作業なので，他人の目につきにくいし，誰であるかわかりにくい。比較的軽作業でもある。

〔39〕バーカババー

馬鹿婆。X６氏が自分の妻のことを言った卑称。

〔40〕コモリッシュ

子守り衆。孫の子守りくらいの仕事しかしたがらない人，というくらいの意味。

〔41〕タテヤキ，タチヤキ

埼玉県児玉郡上里町大字帯刀。黛から南西に約３km。

〔42〕アシガ　オカーサン

私の姑。姑なので，ていねいな言い方。

〔43〕カシンチ

河岸にある親戚。

〔44〕マエ

前。先代。

〔45〕センゼー

前栽。家敷近くの自家用菜園。この場合，そこが矢島平兵衛の屋敷跡である。

〔46〕コイツ

この場合，親しみと自慢の気持ちから卑称を用いていると思われる。

〔47〕ツノブチ

群馬県佐波郡玉村町角渕。

〔48〕ヒトッキリャ

一頃は。一時は。しばらくの間は。

〔49〕イギッキ

行き来。つきあい。イグ（行く）はガ行の活用。

〔50〕アライナー

あるよなあ。～イは五段動詞未然形に付いて，強意，念押し，などの意を添える。他の活用の動詞には～ライが付く。

〔51〕ヨッタ

ヨルは，寄る，立ち寄る。実家に来るときにC氏の家へ立ち寄った。

〔52〕クルター

～ターは，～のたびに。

〔53〕ヨッタッタ

寄っていったものだった。大過去。

〔54〕シブサ

朱房。シューシの例は，男衆ーオトコシ，など。

〔55〕タベルー

このC氏の発言は話題と無関係。茶受けに出したとうもろこしにハエがとまるので，さげようとして，B氏に「まだ食べるか」とたずねた。

〔56〕マメ

この場合，とうもろこしのこと。

〔57〕デカカッタ

デカイは，大きい。デッカイ，デッケー，とも。

〔58〕ドンノ

どの。「あの」をアンノ，「その」をソンノ，とも。

〔59〕イマノ　ワタシバ、ブネ

藤の木の渡しに使っていた舟。「今の」と言っているが，藤の木の渡しはすでに収録時の20年以上も前に廃止になっている。

〔60〕キランナカッタ

来られなかった。「来る」の未然形は，キ。

〔61〕カミノホーノ　ヤツラー

上の方は河岸に対する称。ヤツラは蔑称。「河岸のほうが威張ってた」に対応する。

〔62〕ツイテッタ

ツイテクは，連れていく。引き連れていく。

〔63〕ソイツオ　アレダガナ、　マーリノ　センドーガ　カリテ、

ニー　ハコンダンダ

藤の木に4軒の河岸問屋があり，文久元年には，20数艘の大小の舟を備え，荷物が大量の時は他河岸から荷役人夫を集めるほど盛り，明治期，黛の総戸数の半数45戸が舟運漁業に従事していた。ソイツは，小舟。マーリノセ

ンドーは，舟運従事者。

〔64〕キシャノ　ネー　トキダカラ

高崎線の開通は1883(明治16)年。神保原駅開設は1897(明治30)年。

〔65〕シミ，スミ

木炭。江戸へ運ぶための秩父方面で焼いた木炭。

〔66〕シオ

食塩。北武蔵の需要を満たす食塩が舟で運ばれて来た。

〔67〕コモッカブリ

粗く織ったむしろで包んだ4斗入りの酒樽。

〔68〕フサゲランネー

フサゲルは，ふさぐ。覆う。

〔69〕ハナシ　ッツヨーナ

話っていうのは。ハナシツンナ，ハナシチューナー，ハナシッテンナ，などのほうが多く見かけられる。

〔70〕カッパ

埼玉県児玉郡上里町大字勅使河原小字勝場。

〔71〕キミチヨ

「君千代」は酒の銘柄。

〔72〕オースギサマ

黛の神社の中にある大杉様と通称されている祠。以前河岸にあった。

〔73〕ヒキー　トコー　ツクッテタ

低い土地を耕作していた。

〔74〕ライゼンタメエモン

雷電為右衛門(らいでんためえもん)。江戸時代中期の大関で，最強の名力士と言われている。1967(明和4)年，信州生まれ。身長197cm，体重168.7kgであったらしい。

なお，148A，150A，152A，158AでA氏がライゼンと発音しているのは，飴をなめているためだと思われる。

〔75〕イワハナ

群馬県高崎市岩鼻町。代官所があった。黛から烏川に沿って上流に約6.5km。

〔76〕コンノクレー

Ｂ氏がからかって，小さなちゃぶ台を示す。

〔77〕ヒムシバ

火燃し場。かまどが置かれている土間の一角。

〔78〕ヘッツイ

粘土で築いたかまど。

〔79〕スガッテ

スガルは，すげられる。

〔80〕コショカケ

腰掛け。

〔81〕オイチャッタ

オイルは，終える。尽きる。絶える。

〔82〕ヨーオンジ

陽雲寺。黛から南に約１kmにある名刹。話者たちはその檀徒である。

〔83〕ヨクシタ

ヨクスルは，立派に改築する。

〔84〕シンゲンコー

陽雲寺境内に信玄公室陽雲院殿を始め武田家縁の廟所があり，周囲が石柵で囲まれている。これを指したものと勘違いして不審を持った。

〔85〕アマンダレ

雨だれ。屋根の雨水が落ちるところ。

〔86〕コチラギ

Ｃ氏自身にたずねても意味不明である。

〔87〕イシガキデージン

群馬県佐波郡玉村町川井に立派な石垣の屋敷を持つ金持ち。通称，石垣大尽。

〔88〕イライ

たいそうな。エライ，エレー，とも。

〔89〕サガネタ

サガネルは，探す。

〔90〕イケタ

イケルは，埋める。

〔91〕デージンコ

金持ち。財産家。

〔92〕タネヤー

タネヤは，蚕の蛾に産卵させたり（種の製造），またそれを売ったりする仕事。

〔93〕オソクマデ　アッタ　ウチ

近年まで壊されずに残っていた家屋。

〔94〕ウント

数量程度などが大なること。この場合は，ずっと。

〔95〕クチ

～ノクチは，～の類。

〔96〕オッペシッコー

押し合いを。オッペスは，押す。圧す。

〔97〕ウチオ　ツカッチモン

財産を費やし尽くしてしまう。

〔98〕アスンデタ

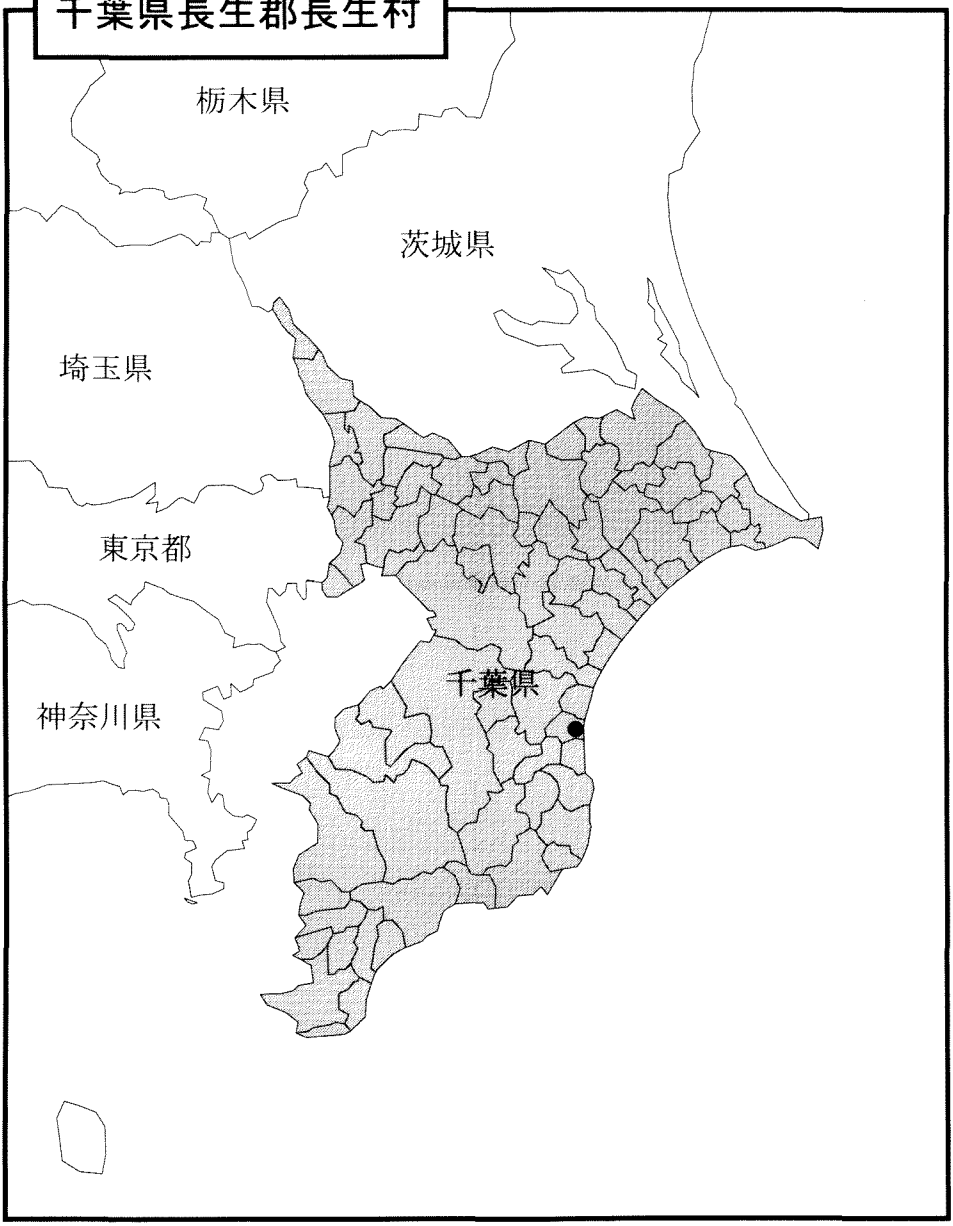
アスブは，あそぶ。働かない。

〔99〕ヒトニ　ノマレテ

他人に酒を飲まれて。寄食されて。

Ⅱ. 千葉県長生郡長生村
1977

千葉県長生郡長生村



千葉県長生郡長生村1977話者・担当者

「各地方言収集緊急調査」

話者	大橋 あき
	大橋 政治
収録担当者	井桁 一夫
	加藤 信昭
文字化担当者	井桁 一夫
	加藤 信昭
共通語訳担当者	井桁 一夫
	加藤 信昭
解説担当者	井桁 一夫
	加藤 信昭

（敬称略　項目別50音順）

「全国方言談話データベース」

編集担当者	佐藤 亮一
	江川 清
	田原 広史
	井上 文子
編集協力者	合津 美穂
	鳥谷 善史
	熊谷 康雄

千葉県長生郡長生村1977解説

収録地点名　　千葉県長生郡長生村一つ松

収録地点の概観

位置

千葉県，房総半島の東部，九十九里浜平野の南部に位置する。

交通

国鉄千葉駅から外房線で南へ下り約1時間，八積駅下車，自転車で15分程度。

地勢

九十九里海岸に接しているため，夏は涼しく，冬は温暖であり，最近では積雪はほとんどみられない。

行政区画

1953(昭和28)年11月３日に町村合併が行われ，旧・一松村，旧・八積村，旧・高根村の三村が合併，長生村となって現在に至っている。

戸数・人口

1977(昭和52)年11月現在，世帯数2,285戸，人口10,272人。人口は減少の傾向を示している。

産業

江戸時代から昭和の初期までは，半農半漁で生計をたてている家庭が多かった。

特に，海岸地帯は，地曳網漁，あぐり網漁がさかんであったが，終戦後は漁業に頼る生活は姿を消してしまった。

米作りと，温暖な気候を生かしての野菜作りがさかんであるが，農家１戸あたりの耕地面積が少ないため，副業として，農業のかたわら，近くの工場や作業場へ働きに出ている人が多い。

収録地点の方言の特色

千葉県の方言を概観したとき，上総と下総の境で，南北に分けられる。北部は，県東北部方言と県西北部方言とに分かれる。

南部でも，上総の方言と安房の方言とでは差異が認められる。長生村は，上総の方言に属している。

音韻

(1) 連母音の長音化が認められる。

[ai] → [eː]　カテー（固い）
　　テーラ（平ら）
　　ミテー（見たい）
[ie] → [eː]　メール（見える）
[ae] → [eː]　メー（前）
[ui] → [iː]　フリー（古い）

(2)「イ」と「エ」との混同がみられる。

エマ（今）
エッタ（行った）
へ（火）
へルマ（昼間）

(3) 語中，語尾のガ行音の子音は［g］である。

(4) 語中，語尾のカ行音の子音がしばしば脱落する。

ナイゴエ（泣き声）
ヤウ（焼く）
コー（ここ）

(5) 語中，語尾のカ行音，タ行音の子音を有声化させる場合もあるが，それほど強いものではない。

サガ（坂）
ミジ（道）

(6) ナ行音が「ン」となることが多い。

ムカシンヒト（昔の人）
アンヒト（あの人）

(7) ダ行やラ行の子音の前に促音が立つ。

オッダ（自分）
オッラ（自分）

文法

(1) カ変動詞「来る」とサ変動詞「する」が一段化する傾向にあり，特に，サ変動詞の一段化は目立つ。

「来る」	キない	キて	キル	キル時	キレば	キロ
「する」	シない	シて	シル	シル時	シレば	シロ

(2) 推量・意志の助動詞として，「ベー」・「ッペー」を用いる。

(3) 打消の助動詞として，「ネ」が用いられる。

シラネ（知らない）

(4) 仮定表現の「なら」にあたる言い方として，「ダッバ」を用いる。

ソッダッバ（それなら）

フネダッバ（船なら）

(5) 方向を表す格助詞として，「サ」を用いる。

(6) 疑問の助詞の「かい」にあたる言い方として，「ケー」を用いる。

(7) 丁寧な表現では，文末に終助詞の「ネー」を用いることが多い。女性が比較的多用する。

ソーダッペネー（そうだろうね）

(8) 接頭辞を多用する。

カッパズレル（はずれる）

コバヤク（早く）

（以上の解説は，基本的に，「各地方言収集緊急調査」当時の報告原稿，および，『千葉県方言の自然談話』（千葉県教育委員会，1981年）によるものである。）

千葉県長生郡長生村1977凡例

談話資料は，方言談話音声，方言談話音声の文字化，方言談話の共通語訳から成る。CD-ROMには，ページ単位で切った方言談話音声を，CDには，方言談話音声全体を収録した。

文字化と共通語訳

方言談話音声の文字化はカタカナで表記し，方言談話の共通語訳は，漢字かなまじりで表記した。方言談話音声の文字化と共通語訳とは，対照ができるように，上下２段を１組として示した。上段が文字化，下段がその共通語訳である。

文字化については，表音的カタカナ表記を用いている。つまり，長音は「ー」で示し，助詞「は」は「ワ」，助詞「を」は「オ」，助詞「へ」は「エ」と表記する。「カ゜」「キ゜」「ク゜」「ケ゜」「コ゜」はガ行鼻濁音を表す。

また，分かち書き，句読点などは，便宜的なもので，厳密なものではない。

「各地方言収集緊急調査」における，方言談話音声の文字化の方法は，後に掲げる「調査実施上の留意事項について」などに詳しく記されている。ただし，今回，「全国方言談話データベース」として公開するにあたり，文字化・共通語訳を整備する際には，当時のマニュアルにはとらわれず，読みやすさ，意味のとりやすさを優先して処理をした部分がある。

また，この文字化は，時間の流れを忠実に反映することを意図していない。したがって，発話の重なりや，複線的な会話の進行の構造が，文字化からは読み取れない。データを使用する際には，文字化・共通語訳を見るだけではなく，実際に，音声を聞いて判断していただきたい。

発話単位

ひとりの話者が続けて話している，話者が交替するまでの連続した発言を1発話とする。途中にあいづちが入る場合もある。

発話番号　　〈半角〉

発話の通し番号を，各発話の話者記号の前に付した。

例：1A

話者記号　　〈全角〉

話者，調査者など，談話の場にいる人物について，A，B，C，D，E，F，……のように，アルファベットで示した。

例：1A

固有名詞

話者および一般の人名については，文字化・共通語訳の該当個所を，A，B，C，X1，X2，X3などのアルファベットに置き換えた。話者，調査者など，談話の場にいる人物については，A，B，C，D，E，F，……のように示し，話題の中の第三者については，X1，X2，X3，……のように示した。ただし，音声は，該当個所に加工をしなかった。

歴史上の人物や，有名人の人名については，記号に置き換えることはせず，個人名を出すことにした。また，会社名，店名，製品名などについても，発言されたとおりに記している。

地名については，そのまま扱うことにした。

記号

。（句点）　　〈全角〉

ポーズがあって，意味的にひとつのまとまりを持つ文と考えられる個所。

共通語訳については，実際の発話でポーズが置かれていないところでも，意味の取りやすさを優先して句点をつけた場合もある。

例：ソーデス　　ソーデス

そうです。　そうです。

、（読点）　　〈全角〉

基本的に息をついた個所，または，ポーズのある個所。

共通語訳については，実際の発話でポーズが置かれていないところでも，意味の取りやすさを優先して読点をつけた場合もある。

また，文字化と対応しなくなっても，読みやすさを優先して，取り去った場合もある。

例：シ、ヤクショ

市役所

？　　〈全角〉

上昇イントネーションと判断した個所。

例：アズケトイテ？

預けておいて？

（　）　　〈全角〉

あいづち。ひとりの人が連続して話している時にさえぎったり，口をはさんだりした個所。

（A　……）のように、開き括弧の次にあるアルファベットは，発言している話者を示す。（　）の閉じ括弧の直前の句読点は省略した。

なお，（　）内のあいづちと，独立した発話扱いされているあいづち的発話との違いは必ずしも明確ではない。

例：（A　アー　ソーデスカ）

｛　｝　　〈全角〉

笑，咳，咳払い，間，などの非言語音。

例：｛笑｝

｛咳｝

｛手を叩く音｝

×××　　〈全角〉

言い間違いや言い淀みなど。

例：ム　ム　ムツカシー

×　×　難しい

＊＊＊　　〈全角〉

聞き取れない部分。

例：オチャズケノ＊

お茶漬けの＊

／／／　　〈全角〉

対応する共通語訳が不明な部分。

例：モーゼーノ　モジナンデスナ、

／／／／／「文字」なんですね。

[　]　　〈全角〉

方言音声には出てこないが，共通語訳の際に補った部分。

例：ミカン　　ノセテ

　　みかん［を］　乗せて

＝　　〈全角〉

［　］内の＝は，意味の説明や，意訳であることを示す。

例：イマ　ユー

　　今　　いう［＝今話題にあがった］

｜　｜　　〈全角〉

注意書きなど。

例：｜Aに対して｜

〔　〕　　〈全角〉

注記。方言形の意味・用法，特徴的音声などについて説明し，文字化・共通語訳の後にまとめてある。〔　〕内の半角数字は，注記の番号を示す。

例：ホシツキサンノオモチ〔1〕

音声

CD-ROMには，冊子のページ単位で区切った方言音声のwaveファイルを収録している。冊子のページをpdfファイルにしたものに，方言音声をリンクさせていて，各ページにある 再生 の部分をクリックすると，そのページの音声を聞くことができる。

CDには，談話全体の音声を収録している。以下にあげるように，適当な個所で，トラックに区切っている。

CDトラック番号

文字化・共通語訳のヘッダは，方言音声を収録したCDのトラック番号を示している。「千葉13-1」はCDトラック番号が00で，その1ページ目ということである。「千葉13-1」「千葉13-2」……「千葉13-9/14-1」……「千葉24-12」のように表示される。

また，文字化・共通語訳部分には，CDのトラックの切れ目を表示した。矢印の部分がトラックの切れ目を表し，その両側の数字はトラック番号である。

↑13，13↑14，……23↑24，24↑ のように表示される。

第５巻のCD（75分50秒）には，千葉県長生郡長生村の談話，【地曳網漁，あぐり網漁，魚の行商】の全体の音声を収録している。各トラックの開始ページ・行，終了ページ・行，時間は下記のとおりである。行は，文字化の行を表示した。

トラックNo.	開始ページ・行	終了ページ・行	時間:分:秒
13	p.115・ℓ.1	p.123・ℓ.19	0:03:15
14	p.124・ℓ.1	p.132・ℓ.3	0:03:05
15	p.132・ℓ.3	p.140・ℓ.19	0:03:02
16	p.141・ℓ.1	p.149・ℓ.15	0:03:02
17	p.149・ℓ.15	p.158・ℓ.5	0:03:01
18	p.158・ℓ.5	p.167・ℓ.5	0:03:00
19	p.167・ℓ.7	p.177・ℓ.1	0:03:00
20	p.177・ℓ.3	p.185・ℓ.17	0:03:02
21	p.185・ℓ.17	p.196・ℓ.17	0:03:10
22	p.196・ℓ.19	p.206・ℓ.3	0:02:52
23	p.206・ℓ.5	p.216・ℓ.1	0:03:07
24	p.216・ℓ.3	p.227・ℓ.11	0:04:15
計			0:37:51

千葉県長生郡長生村1977談話

収録地点　　千葉県長生郡長生村一つ松（ちょうせいぐんちょうせいむらひとつまつ）

収録日時　　1977（昭和52）年８月５日

収録場所　　千葉県長生郡長生村一松丙　話者Ａ氏・Ｂ氏自宅

話題　　地曳網漁，あぐり網漁，魚の行商

話者

A	男	1907（明治40）年生	（収録時70歳）	農業
B	女	1908（明治41）年生	（収録時69歳）	農業

調査員

C	男	1933（昭和８）年生	（収録時44歳）	大学教員

収録時間（CD）　　37分51秒

この談話にはヘリコプターの音などの背景音がやや大きく入っている部分があります。

【地曳網漁，あぐり網漁，魚の行商】

話し手

A	男	明治40年生	(収録時70歳)
B	女	明治41年生	(収録時69歳)
C	男		(調査員)

1A：アー　(B　チガイマスヨネー)　チガウマンモ。
　　あー　(B　違いますよねえ)　違うも違うも。
　↑13
　　アンダヨ　オレタチミテ　ミンナ　キモンデ　ハオリダッペー？
　　何だよ　俺たちみたい　みんな　着物で　羽織だろう？

　　(C　ンー)　ハオリデ　ハオリデ　カクシヤ　イレテサー。
　　(C　んー)　羽織で　羽織で　／／／／　入れてさあ。

　　(C　ソー　ソー　ソー　ソー　ソー)　ネ？
　　(C　そう　そう　そう　そう　そう)　ね？

2B：ンー　ソレデ　(A　ン　ン)　カバンガ　ネーデショー。
　　んー　それで　(A　ん　ん)　かばんが　ないでしょう。

　　(C　ソーダヨ)　フルシキー　コッテ　ツツンデ
　　(C　そうだよ)　ふろしき［に］　こうやって　包んで

　　コッテ　イチゴジョイン　ショッテ。
　　こうやって　越後背負いに　背負って。

3C：ア　ガッコーエ　イグンネ。
　　あ　学校へ　　行くのね。

4A：ア　ガッコー　　イグン。
　　あ　学校［へ］　行くのに。

5B：アー　ガッコーエ　イグン。　　（C　ン）
　　あー　学校へ　　行くのに。　（C　ん）

　　デ　コントコロエ　ベントバコーサ　（C　ン）
　　で　このところへ　弁当箱を　　（C　ん）

　　チンチャッケ　コー　ハンカチミテナモンデ
　　小さい　　こう　ハンカチみたいなもので

　　（C　ン）　シバッテ　コントコエ　　サゲテ　アルクノ。
　　（C　ん）　縛って、　このところへ　さげて　歩くの。

　　（C　アー）　アタッシャネー　イッペン　ワスレランネー。
　　（C　あー）　私はねえ　　一度　　忘れられない。

　　コノ　オニギリ　　（C　ン）　モッテ　イッタダイネー。
　　この　おにぎり［を］　（C　ん）　持って　行ったんだよねえ。

　　（C　ンー　ンー）　コッテ　　ショッタダッペカー
　　（C　んー　んー）　こうやって　背負ったんだよ。

　　デ　　ソンジブンワ　ヒダリガワツーコーダッタデショ。
　　で、　その頃は　　左側通行だったでしょ。

（C　ン）　デ　　コチガワ　　アルッテテネー
（C　ん）　で、　こちら側［を］　歩いていてねえ、

（C　アー　ヒダリガワネ）　ソン　アンネー　アイガ
（C　あー　左側ね）　　その　あのねえ　あれが

ツツンデアッタ　イレモンガ　チーセーモンダカンネー
包んであった　　入れ物が　　小さいものだからねえ

ココ　ン　オニギリガ　ポロント　オットッテ
ここ　ん　おにぎりが　ポロンと　落ちて

タンナカエ　コロン　コロン　｛笑｝　コロガッチャッテ
田の中へ　　コロン　コロン　｛笑｝　転がってしまって

ソン　ゴハンガ　コーナン　フエテテネー
その　ご飯が　　こんなに　増えていてね

ソン　アノー　ソン　ミチョ　トーッタビン
その　あの　　その　道を　　通るたびに、

コントコエ　　（A　ハー）　ゴハンオ　オトシタナー　ト。
このところへ　（A　はあ）　ご飯を　　落としたなあ　と。

｛笑｝　（A　アー　アー）
｛笑｝　（A　あー　あー）

6C：タンナカエ　オッチャッテ。
　　田の中へ　　落としちゃって。

7B：オッコッチャッタノー。　（A　ハー）
　　落ちてしまったの。　（A　はあ）

　　ダカ　ハ　タベランネー。　（C　アー　ア　ナルホドネー）
　　だから　もう　食べられない。　（C　あー　あ　なるほどねえ）

8A：アンジブンニャ　ミンナ　ナンダヨネー。
　　あの頃には　みんな　何だよねえ。

9B：アタシラ　ホラ　（A　ン？）　トーイッタデショー。
　　あたしら　ほら　（A　ん？）　遠かったでしょう。

　　センドッキョ〔1〕ダカンネ。　（A　センドッキョネ）
　　船頭給だからね。　（A　船頭給ね）

　　（C　アー）　（A　アー　＊＊＊）
　　（C　あー）　（A　あー　＊＊＊）

10C：オバーサン　センドッキョダッタダネ。
　　おばあさん［は］　船頭給だったんだね。

11B：ソー　ヨーイナモンジャ　ナカッタノ。
　　そう　楽なものでは　なかったの。

12C：ソーデスカー。
　　そうですか。

13B：ンー。
　　んー。

14A：オメラ　オバサンガ　エッタホーダエ。（C　アー　ソー）
おまえの　おばさんが　行ったほうだよ。（C　あー　そう）

（B　{笑}）　ンー　X1ドン
（B　{笑}）　んー　X1さん。

15C：アー　ア　ソーデスカ。
あー　あ　そうですか。

16B：アー　ウーン　モット　シタンホー。
あー　うーん　もっと　下のほう。

17A：アー　モット　シタダエ。
あー　もっと　下だよ。

18C：モット　シタンホーデ　（A　モット　シタダ）
もっと　下のほうで　（A　もっと　下だ）

アー　ソーデスカ。（A　ンー）
あー　そうですか。（A　んー）

アッデー　オジーサン　オバーサンガネー　（A・B　ンー）
それで　おじいさん　おばあさんがねえ　（A・B　んー）

アノー　チーセコロワ　アレカシラ
あのう　小さい頃は　あれかしら

タトエバ　ハルダン　アキダンッテサー（A　ン）
たとえば　春だの　秋だのといってさ（A　ん）

ソーユー　キセツンヨッテ　イロイロトー
そういう　季節によって　いろいろと

アソビカタガ　チガッタト　オモウダケンネー。
遊び方が　違ったと　思うのだけれどねえ。

19A：アー　（C　ンー）　ソラ　（C　ンー）　チガウネー。
あー　（C　んー）　それは　（C　んー）　違うねえ。

20C：ンー　タトエバ　ハルワ　ダイタイ　オトコワ　ドンナ
んー　たとえば　春は　だいたい　男は　どんな

アソビガ　アッタトカサー　（A　ンー）　オモイダシテ
遊びが　あったとかさあ　（A　んー）　思い出して

モラエマセンカネー。　{笑}
もらえませんかねえ。　{笑}

21A：ハルワー　ソーダネー。　ンー。
春は　そうだねえ。　んー。

22B：ケンガグモ〔2〕デン　オセタリネー。
けんか蜘蛛でも　つかまえたりねえ。

23A：ケンカグモダナー。　（B　{笑}）　（C　アー　ケンカグモ）
けんか蜘蛛だなあ。　（B　{笑}）　（C　あー　けんか蜘蛛）

ケンカグモ　オセタリ　{息を吸う音}
けんか蜘蛛　つかまえたり　{息を吸う音}

エート　アー　フユトワ　マッデ　チガウカンナー。
えーと　あー　冬とは　　まるで　違うからなあ。

（C　ンー）　フユワ　メンコヤ　コマデ　ヤッテテ
（C　んー）　冬は　　メンコや　コマで　やっていて

タケウンマヤナンカモ　（C　ンー）　マッデ　フユダナー。
竹馬やなんかも　　（C　んー）　まるで　冬だなあ。

ナデ　ア　ナニ　ハルンナット
××　×　××　春になると、

ナン　マ　ソレコソ　ナンダナー　アレ。
なん　ま　それこそ　何だなあ　　あれ。

24C：クダモノ　　トリン　イッタリナンカ　シタノカナー？
果物［を］　とりに　行ったりなんか　したのかなあ？

25A：ウーン。
うーん。

26C：グ　グミ　　トリン　イッタリ　ナンカー　（A　ソー）
×　グミ［を］　とりに　行ったり　なんか　　（A　そう）

ソンナモンカシラー。
そんなものかしら。

27A：グミ　グミナンカ　モジキン　（C　ン）　イッタリナンカネー。
グミ　グミなんか　とりに　　（C　ん）　行ったりなんかねえ。

28C：ウン　ウン　ビアダリネ。
　　うん　うん　枇杷だったりね。

29A：ウン　　ビアナンカ　ヨソンガノ　　（C　ンー　ンー）
　　うん。　枇杷なんか　よその家のを　（C　んー　んー）

　　ヌスミン　イッタリ。　（C　{笑}）　ネー？
　　盗みに　　行ったり。　（C　{笑}）　ねえ？

　　オメラガノー　アソコニ　ビワヤラ　カキノ　キガ　アッテ
　　おまえの家の　あそこに　枇杷やら　柿の　　木が　あって、

　　（C　ンー）　カキノ　キサー　アガッテネ
　　（C　んー）　柿の　　木に　　上がってね、

　　メッカサッチャッテー。　（C　アー　ソーデスカ　{笑}）
　　見つかってしまって。　　（C　あー　そうですか　{笑}）

　　モー　コンナシタデ　ニラメテテ　オリランネデー　（C　{笑}）
　　もう　こんな下で　　睨まれて　　降りられなくて　（C　{笑}）

　　＊＊＊　　カンニシテクンメサロヨー。
　　「＊＊＊　勘弁してくださいよ。

　　カンニンシテクンメサロヨー。　（B・C　{笑}）
　　勘弁してくださいよ。　　（B・C　{笑}）

　　コンドカエ　ヤラネカエ　　カンニシテクンメサロヨ。
　　今度から　　やらないから　勘弁してくださいよ。」

オリテミロー　ケツマンモ　ツンヌグシチマウ。
「降りてみろ　尻も　　突き刺してしまう。」

（B・C　{笑}）
（B・C　{笑}）

30C：ソラ　　アンデスカ。　アノー　カキー。
それは　何ですか。　　あの　　柿。

31A：アー　オメー　＊＊＊　オメー　＊＊＊　チマッタ　　＊＊＊
あー　おまえ　＊＊＊　おまえ　＊＊＊　てしまった　＊＊＊

（D　アー　ソーケ　ア　アノ　オッキナ　カキー）
（D　あー　そうか　あ　あの　大きな　　柿［の木］）

アン　ウエー　アガッチャッタダッペ　　（C　アー）
あの　上に　　上がってしまっただろう。（C　あー）

ウエン　アガッタノ　メッカサッチャッタダカエ
上に　　上がったの　見つかってしまったから

ハー　ダメダヨ。　（C　{笑}）
もう　だめだよ。　（C　{笑}）

オリベート　オモエバ　オセラエチャウシ。
降りようと　思えば　　つかまってしまうし。

（B　{笑}）　＊＊＊　（全員　{笑}）
（B　{笑}）　＊＊＊　（全員　{笑}）

13↑14

マ　クダモノ　モ　モジキダネー。
ま　果物　　×　とりだねえ。

（C　アー　ソンナモンカナ　ハルワネー）
（C　あー　そんなもんかな　春はねえ）

アー　ヌスミン　アルッタ。　（C　ンー）　ンー。
あー　盗みに　　歩いた。　　（C　んー）　んー。

32C：ナツナンカワ　アッデショー　イロンナノガ。
夏などは　　あるでしょう　いろいろなのが。

33A：アッ　ナツワ　ヤッパエー　ハマエ　オヨギン　イグネー。
あ　　夏は　　やっぱり　　浜へ　　泳ぎに　　行くねえ。

（C　ンー）　アー　オヨギ　　イッタリ
（C　んー）　あー　泳ぎ［に］　行ったり、

エー　カワエ　（B　サカナ　＊＊＊）　ン
えー　川へ　　（B　魚　　＊＊＊）　ん

シ　シ　シジミ　　トリン　イッタリネー。
×　×　シジミ［を］　とりに　行ったりねえ。

（C　アー）　アントキ　シジミガ　シッカリ　アッテヨー。
（C　あー）　あの時　　シジミが　いっぱい　あってよ。

クロッケ　　トッタリ　　シジミ　　トッタリ。
黒貝［を］　とったり、　シジミ［を］　とったり。

（C　ンー）　ンー。
（C　んー）　んー。

34C：ソーダヨネー。　（A　ウン）
そうだよねえ。　（A　うん）

ワタシラ　チーセトキダッテー　ハマエ　イグンニャ
私たち［の］　小さい時だって　浜へ　行くのには

カナラズ　ナンカ　フルシキ　モッタリサー
必ず　何か　ふろしき［を］　持ったりさ

（A　アー　フルシキ　モッテ）
（A　あー　ふろしき［を］　持って）

アミ　モッタリナンカシテネー。
網［を］　持ったりなんかしてね。

（A　アミ　モッタリシテ　イガネートネ）
（A　網［を］　持ったりして　行かないとね）

ナンカシラ　（A　ウーン）　モッテキタネー。
何かしら　（A　うーん）　持って来たねえ。

35A：アンカシラ　アッダッペー。
何かしら　あるだろう。

アンモ　ネッキャ　ケッコガラデン　アンデン
何も　なければ　貝殻でも　何でも

ヘロッテクッダカエサー　（C　ンー　ソーダヨネー）
拾って来るのだからさあ。（C　んー　そうだよねえ）

アー　オモチャン。
あー　おもちゃに。

36C：ウン。　トマトオ　テヌグイノ　ハジッコ　（A　アー）
うん。　トマトを　手ぬぐいの　端のほう［に］（A　あー）

シバッテ　モッテイッタリネー　ナンカシテー。
縛って　持って行ったりねえ　などして。

（A　ソー）　＊＊＊　（C　ヤッパシ　＊＊＊カナー）
（A　そう）　＊＊＊　（C　やっぱり　＊＊＊かなー）

37A：アー　ナツワー　オッダ　ジブンニャ　イタズラシタネー。
あー　夏は　俺たちの　頃には　いたずらしたねえ。

（C　ンー　{笑}）
（C　んー　{笑}）

ウエタ　ナス　ソッビテミチャッタリ。（C　{笑}）
植えた　ナス［を］　引っぱってみてしまったり。（C　{笑}）

{笑}　イマワ　ソンナモノ　シル　ガイドンワ　ネーノー。
{笑}　今は　そんなこと［を］　する　子どもたちは　いないな。

（B　ネーネー）　マズ　（C　ソダネー）　ヤサ
（B　ないねえ）　××　（C　そうだね）　××

38B：ヨソン　ウチデネー　スイカガ　マダ　デキネーッチバ
よその　うちでね　スイカが　まだ　できないのに

（C　ン）　ソレネー　（C　ン）　モッジインイッテ
（C　ん）　それ［を］ね　（C　ん）　とりに行って、

（C　ン　ン）　オンマサレタリネー　（C　＊＊＊ダヨネー）
（C　ん　ん）　追いまわされたりねえ。（C　＊＊＊だよねえ）

（A　ン）　イロンナ　マネ　シテー。（C　ン　ン）
（A　ん）　いろいろな　まね［を］　して。（C　ん　ん）

アンジブンワ　コドモガ　オーイデネー　（C　アー）
あの頃は　子どもが　多くてね、　（C　あー）

ソッチモ　ゴロゴロ　コッチモ　ゴロゴロ　（C　アー）
そっちも　ゴロゴロ　こっちも　ゴロゴロ。（C　あー）

イマ　コドモガ　ヨケー　イネーダモノ。
今、　子どもが　大勢　いないんだもの。

39A：デー　アンジブンニャ　ヤッパイ　イマンヨント
で、　あの頃には　やっぱり　今のように

アンカラ　ホーフン　ネッタヨ。　（B　ソーネー）
何もかも　豊富に　なかったよ。（B　そうねえ）

ウルモンガナー。　ウッテル　ソバワ　（C　アー）
売っているものがな。　売っている　所は　（C　あー）

アメンタマングレー　モンダモン　　ウッテンノワー。
飴玉ぐらいの　　ものだもの、　売っているのは。

（C　ソーダヨネー）　ンー。
（C　そうだよねえ）　んー。

バナナダナンテ　アーユーモンガ　ネーダモン
バナナだなんて　ああいうものが　ないのだもの、

ダイチサー。
第一さ。

40C：アー　バナナナンカ　アー　ダッテ　（A　アー）
あー　バナナなんか　あー　だって　（A　あー）

アッダッペー　アノー　ビョーニンデン　アンデン
何だろう、　あの　病人でも　　何でも

（A　アー　ソーダ）　ネーッキャネー　（A　ンー）
（A　あー　そうだ）　なければねえ　（A　んー）

バナナダン　リンゴダン　クーモンジャ　ネッタ。
バナナだの　リンゴだの　食べるものでは　なかった。

41A：クーモンジャ　ネーッタ。　アー。
食べるものでは　なかった。　あー。

42C：マズ　ミセエ　イッタッテ　アンマン　ネッタモンネー。
まず　店へ　行っても　あまり　なかったものねえ。

（A　アンモンデン）　アー。　（A　{鼻をすする音}）
（A　あるものか）　あー。　（A　{鼻をすする音}）

オンナタチモ　アッデスカネー　ヤッパシ
女たちも　何ですかねえ　やっぱり

ナツナンカワ　（B　ン）　ウミ　イッテ　イッション
夏なんかは　（B　ん）　海［に］　行って　一緒に

ナッテ　アソンダンデスカネー。
なって　遊んだんですかねえ。

43B：ヨク　ウミン　イッタネー。　アタシラ　（A　ンー）
よく　海に　行ったねえ。　私たち［は］　（A　んー）

チーセジブンニ。　ダケン　オヨガネーダケンガネー。　（C　ンー）
小さい頃に。　しかし　泳がないのだけどもね。　（C　んー）

ヤッパエ　エッタネー。
やっぱり　行ったねえ。

44C：マタ　ジビキ〔3〕ガ　ソントージワ　アッタダッペ。
また　地曳［網漁］が　その当時は　あっただろう。

45B：＊＊＊　アッタネー。
＊＊＊　あったねえ。

46A：ンー　ジビキワネー　（C　ンー）
んー　地曳［網漁］はねえ　（C　んー）

千葉 14-8

オレ　　ジューロクノ　トキー
俺［が］　16［歳］の　　時［に］

ガッコー　　サガッテサー　　（C　ンー）　ネ？　（C　ン）
学校［を］　卒業してさ　　（C　んー）　ね？　（C　ん）

ジューロクノ　トシン　ガッコー　　ソツ　ソツギョーシテ
16［歳］の　　歳に　　学校［を］　××　卒業して、

ジューロクノ　サンガツ　　ソツギョー　ナッテ、
16［歳］の　　3月［に］　卒業［に］　なって、

シガツン　ナッタ　トキカ　ハー
4月に　　なった　時か、　もう

ムコーデ　ハ　　タノミン　キタダ　　アミヌシガネー
向こうで　もう　頼みに　　来たんだ　網主がねえ。

（C　ン）　アミヌシガ　タノミンキテ　｛息を吸う音｝　ソレデ
（C　ん）　網主が　　頼みにきて　　｛息を吸う音｝　それで

ジビキ　　（C　ン）　マ　フナカタン　ナッテ
地曳［網漁の］　（C　ん）　ま　漁師に　　なって。

（C　ン）　アサ　ハエーナー。
（C　ん）　朝　　早いなあ。

アサワ　サンジッチタラ　ハー　エグダネー。
朝は　　3時といったら　もう　行くんだねえ。

47C：ソーダヨネー。　（A　ンー）　アラ　　ハエーダヨネー。
　　そうだよねえ。　（A　んー）　あれは　早いよねえ。

48A：サンジ　ッチタッケ　イッテネー　（C　ン）
　　3時　　というと　　行ってねえ　（C　ん）

　　オロシテネ
　　[網を] 下ろしてね。

　　デ　　アンジブンニャ　アミガ　エケダカンネー　　（C　ンー）
　　で、　あの頃には　　網が　　大きいからねえ。　（C　んー）

　　ハリクロダカンネー。
　　張り競争だからねえ。

49C：ハー　（A　アー）　アッ　ナントーモ　アッタダネ？
　　もう　（A　あー）　あっ　何統も　　あったんだね？

50A：アー　ジビキ　　シッカイ　アッタダモン。
　　あー　地曳 [網]　いっぱい　あったもの。

51C：アー　ソーカ　バショトリッコカー。
　　あー　そうか　場所とり競争か。

52A：ン　バショトリクロダエ　（C　ンー）
　　ん　場所とり競争だから　（C　んー）

　　ハエシネッキャ　ハリバガ　ネー
　　早くしないと、　張り場が　ない。

ヒトン　ハッタアト　ハ　　マタ　ハッテ　キネッキャオイネー。
人の　　張った後、　もう　また　張って　来ないといけない。

（C　アー　ナ）　ンー　ダカラ　ハエー　シコロデネー。
（C　あー　×）　んー　だから　早い　　競争でねえ。

14↑15

（C　ン）　アレー　アレ　フネニ　バン〔4〕　テソー
（C　ん）　あれ　　あれ　船に　　「バン」　ていう

（C　ン　ン）　エマ　シラ　　ッツーネ
（C　ん　ん）　今　　「シラ」　っていうね

アー　スイテ　　フネ　　ハシラセンノガ
あー　敷いて、　船［を］　走らせるのが

（C　ア　ウン）　アッデンカ。
（C　あ　うん）　あるでしょう。

53C：アノ　バ　バン。　　バン　　ッテユー。
あの　×　「バン」。　「バン」　という。

54A：アレ　ヤルンニ　ガ　カイチューデンキオ　モッテッテネ
あれ　やるのに　×　懐中電灯を　　持っていってね

（C　ン）　カイチューデンキ　カッテキテ
（C　ん）　懐中電灯［を］　　買ってきて、

カイチューデンキデヨ　（C　ハー）
懐中電灯でよ、　　（C　はあ）

ダンナン　カワセテサー　（C　ンー）
船主に　　買わせてさ、　（C　んー）

ソッデ　コッテ　　ハ　　ヤラネバネ　　（C　ハー）
それで　こうして　もう　やらなければね　（C　はー）

カッパズレタッケ　オーサワイダカエヨ　（C　アー　ナールホド）
はずれてしまうと　大騒ぎだからよ。　（C　あー　なるほど）

ン　　フネガ　ナビイタッケ　　ハー　（C　ンー）　ネー
ん。　船が　　なびいてしまうと　もう　（C　んー）　ねえ。

＊＊＊　ナッダケ　コエオ　シネデ　　デチャウダヨネー。
＊＊＊　なるだけ　声を　　出さないで　出てしまうんだよねえ。

ソッデ　トナンナ　アミン　ワカラネー。
それで　隣の　　網に　　わからない。

55C：アー　ナルホド。　（A　{笑}）　コエ　　ダサネデ
あー　なるほど。　（A　{笑}）　声［を］　出さないで。

（A　コエ　　ダサネー）　{笑}
（A　声［を］　出さない）　{笑}

56A：リョーホーデ　ハエ　ダスベダ　ハエ　ダスベダ。
両方で　　早く　出そう、　早く　出そう。

57C：ハー　（A　ン）　ア　ナルホドネー。　（A　ンー　ンー）
はあ　（A　ん）　あ　なるほどねえ。　（A　んー　んー）

ジビキー　　ジャ　ジビキン　　ハナシ　　チョット
地曳［網漁］、　じゃ　地曳［網漁］の　話［を］　ちょっと

オセテ　モラウカナー　　（A　ンー）
教えて　もらうかなあ。　（A　んー）

アノー　ジビキニモサ　　イロンナ　　アッダッペ
あの　　地曳［網漁］にもさ　いろいろな　あるだろう

アノ　ヤクガー　アッタヨネー。　（A　アル）
あの　役が　　あったよねえ。　（A　ある）

ア　チーセトキ　イッテ　（A　ソー）　アー　ナンダー
あ　小さい時、　行って　（A　そう）　あー　なんだ

ワスレチャッタケンガネー。
忘れてしまったけどねえ。

58A：「センドー」　（C　「センドー」ガ　アッダネ）　アー
「船頭」、　　（C　「船頭」が　　あったね）　あー

「センドー」　ッチノガネー　　（C　ン）　イチバン　シタダエ。
「船頭」　　というのがねえ　（C　ん）　一番　　下なんだ。

（C　ホー）　オラ　ハ　　ジューロクノトキ　（C　ン）
（C　ほう）　俺は　もう　16［歳］の時、　　（C　ん）

オット　X2トンノ　X3ワ　センドーノ　ヤクン
俺と　　X2さんの　X3は　船頭の　　役に

ナッタカエー。
なったから。

59C：ア　ソコガ　イチバン　シター　センドーガ。
あ　そこが　一番　下、　船頭が。

60A：アッ　センドーガ　イチバン　シタ。　（C　へー）
あ　船頭が　一番　下。　（C　へー）

ソンツギン　（C　ン）　オーエンキョ。
その次に　（C　ん）　「大隠居」。

61C：オーエンキョ。
「大隠居」。

62A：アー　（C　{笑}）　ソンツギン　ナカノリ。
あー　（C　{笑}）　その次に　「中乗り」。

（C　アー　ナカノリ）　アー　オッケ。
（C　あー　「中乗り」）　あー　「オッケ」。

（C　オッケ）　アー　ソラ　ミシロ〔5〕。
（C　「オッケ」）　あー　それは　「三代」。

63C：エッ　アッ　オッケノ　ウエガ　アミシロ。
えっ　あっ　「オッケ」の　上が　「網代」？

64A：アンガ　（C　ン？）　オッケ　ッチノワネー
何か　（C　ん？）　「オッケ」　というのはねえ

（C　ン？）　サンニンブン　モラウンダエ。
（C　ん？）　３人分　　もらうのだよ。

65C：アー　ダカエ　（A　ミシロ）　ミシロ　ッテ　ユー。
あー　だから　（A　「三代」）　「三代」　って　いう。

66A：ミシロネー。　（C　アー　アー　ソーカー　サカ）
「三代」ねえ。　（C　あー　あー　そうか　そうか）

ソデ　ヒトーシロ　フターシロ
それで　一代、　二代

（C　アッ　ソッカ　ソッカ　ミシロ）
（C　あっ　そうか　そうか　「三代」）

ミシロ　ッテ　ユーベ。
「三代」　って　いうだろう。

イワシ　（C　ン　ン）　イワシン　ボッチョ　（C　ン　ン）
イワシ　（C　ん　ん）　イワシの　山［を］　（C　ん　ん）

ミイツ　（C　ン　ン）　コセベー。
三つ　（C　ん　ん）　作るだろう。

ソレオ　オッケワ　オッケデ　（C　サンニンブンダ）
それを　「オッケ」は　「オッケ」で　（C　３人分だ）

ミッツ　モラウダエ。　アー　サンニンブン　（C　アー　へー）
三つ　もらうから。　あー　３人分　（C　あー　へー）

ナカノリワネ　アレ　ヒトツハン　（C　アー）
「中乗り」はね　あれ　一つ半、　（C　あー）

オッケガ　フターツ
「オッケ」が　二つ、

オラホーワ　オメー　ニブゴリンダヨー。
俺たちのほうは　おまえ　２分５厘だよ。

67C：ニブゴリン。
２分５厘。

68A：ン　ンー　（C　ア　イチバン　アノ　シタノノワ）
ん　んー　（C　あ　一番　あの　下ののは）

シッ　シッペタナ　ヤクワ　（C　ア　シ　ハ　ハー）
××　下の　役は、　（C　×　×　は　はあ）

デ　ソレ　フナカタワネー　（C　ン）　＊　＊
で　それ　漁師はねえ　（C　ん）　＊　＊

センドワネー　（C　ア　センドーワ　ン）　アラ
船頭はねえ　（C　あ　船頭は　ん）　あれは

ロヤサー　（C　ン）　ナンカ　フックジューダッペ
櫓やさ、　（C　ん）　何か　折ってしまうだろう

（C　エー）　ソシタッケ　ソレ　カッズテー
（C　えー）　そうすると　それ　担いで

フナバンジョン〔6〕　ソバエ　ナオシン　エガネッキャ　オイネー。
船大工の　　所へ　直しに　行かなければ　いけない。

（C　アー）　ソーユー　ヤクダエ。
（C　あー）　そういう　役だよ。

69C：アー　センドガ　（A　センドーガ）　ナールホド。
あー　船頭が　（A　船頭が）　なるほど。

ニブゴリン　チノワ　　アニ、
２分５厘　というのは　何、

アッテモ　ナクテモ　ニブゴリン。
あっても　なくても　２分５厘。

70A：アンガ　アッテネ。
何が　あってね。

71C：アッテテー。
あって。

72B：ネッバ　カラッポ。
なければ　空っぽ。

73A：ネッバ　ヒャクニモナラネ。
なければ　100にもならない。

74C：ネッバ　カラッポ。
なければ　空っぽ。

75B：ソー　ソー　ハマ　ッテ　ネー。
　　そう　そう　浜　　って　ねえ。

76C：ハー　アー　ソーケー。
　　はあ　あー　そうか。

77A：ニブゴリン。
　　２分５厘。

78B：ダカエ　（C　アー）　イマ　ハマエ　イグ　テガ　ネーデスヨー。
　　だから　（C　あー）　今　　浜へ　　行く　人が　いないですよ。

　　（A　ンー）　（C　アー）
　　（A　んー）　（C　あー）

79A：＊＊＊　{鼻をすする音}　（C　ンー）　デン　アッダヨ？
　　＊＊＊　{鼻をすする音}　（C　んー）　でも　あれだよ。

　　アレ　マー　イチエンニ　ナッダッペ？　（C　ン）
　　あれ　まあ　１円に　　なるだろう。　（C　ん）

　　イチエンニ　ナレバヨー　ネ？　（C　ン）
　　１円に　　なればよ　　ね。　（C　ん）

　　エー　イクラン　ナッダ
　　えー　いくらに　なるんだ。

　　ニ　ニブゴリン　タッケ　　ニセン　ニセンゴリンダネ
　　×　２分５厘　　といえば、　２銭　　２銭５厘じゃない

イクラン　ナッダ。　（C　ハ　ハー）　ニ
いくらに　なるんだ。（C　は　はあ）　×

（C　アッ　ソレデ　ニブゴリンダ）
（C　あっ　それで　２分５厘だ）

80B：ダカエ　ヒトシロト　ニブゴリン　チ　　コッデショー。
だから　一代と　　２分５厘　　という　ことでしょう。

（C　ソー）　オジーサンガ　コトバガ　タラネー。
（C　そう）　おじいさんが　ことばが　足らない。

（C　アー　アー）
（C　あー　あー）

81A：ダカエヨネー　（C　アッ　ソーカ　ソーカ）
だからねえ　　（C　あっ　そうか　そうか）

イチニンメーワ　イチニンメーワ　（C　ミンナ　モラエンダ）
一人前は　　一人前は　　（C　みんな　もらえるんだ）

ミンナ　モラエンダカラネ。　（C　ンー　ンー）
みんな　もらえるんだからね。（C　んー　んー）

ソレイガイニ　ニブゴリン　モラエッダカラ。
それ以外に　　２分５厘　　もらえるんだから。

82C：アー　アー　ア　ナールホド。
あー　あー　あ　なるほど。

15↑16

83A：アー　ハンブンデ　イチエンニ　シレバ　イクラダ。
あー　半分で　　1円に　　すれば　いくらだ。

84B：ニジューゴセン　（A　ニジューゴセンカ）　（C　ン）
25銭　　（A　25銭か）　　（C　ん）

（A　ナ）　＊＊　イチエンニ　シレバ　　ニジュー
（A　な）　＊＊　1円に　　すれば、　××××

ハンブンデ　ゴジュッセンダネ？
半分で　　50銭だね？

85A：ゴジュッセンダカラ　ニブゴリンダカラ　（B　ニジュ　ニジュ）
50銭だから　　2分5厘だから　（B　×××　×××）

ニジューゴセン　モラエルコトニ　ナッダヨナー。
25銭　　もらえることに　なるんだよな。

ソーユー　コトンナッダエ。
そういう　ことになるから。

（C　ハー　ハー）　ソエガ　イチバン　シタンヤク。
（C　はあ　はあ）　それが　一番　　下の役。

86C：ンー　デ　オッケ　　ッチノワ　　アニ　　ヤッデスカ。
んー　で　「オッケ」　というのは　何［を］　やるんですか。

87A：エー　オッケ　　ッチノワサー　（C　エー）　ネ？
えー　「オッケ」　というのはさ　（C　えー）　ね？

オッケ　　ッチノワ　　キョー　　アジットカナ
「オッケ」　というのは、　今日［は］　どうかな

コノヘンガ　　イッペヤ
このあたりが　いいだろう。

ア　ン　アー　（C　ン）　オキカラ　ク　ク　クガカラ
あ　ん　あー　（C　ん）　沖から　　×　×　陸から

クガ　ミテサー。　ネ？
陸　　見てさ。　　ね？

88C：アー　クガ　　ッチノワ。
あー　「クガ」　っていうのは。

89B：リク　（A　＊＊＊　リク）
陸　　（A　＊＊＊　陸）

90C：アー　リクンコト。　（A　アー　リク）
あー　陸のこと。　　（A　あー　陸）

アー　クガ　　ッテ　ユー。　（A・B　{笑}）
あー　「クガ」　って　いう。　（A・B　{笑}）

91A：リクエネ？　（C　ン　ン　ン）　リクントコオ
陸へね、　　（C　ん　ん　ん）　陸のところを

（C　ン）　ミテネ？　（C　ン）
（C　ん）　見てね、　（C　ん）

アー　オッケ　　コッデ　ユーボ〔7〕グレー　デヨカー　ッテ
あー「オッケ」　これで　何ぼぐらい　　出るのか　って

オッケガ　　ソイテ　（C　アー）　＊　ツナ
「オッケ」が　言って　（C　あー）　＊　綱

（C　アー　ユーボ）　＊　＊　（C　ン　ン　ン）
（C　あー　何ぼ）　＊　＊　（C　ん　ん　ん）

ツナ　ヒト　ヒトマキ　ヨンボダカエネー。
綱　××　1巻　　4ぼだからねえ。

92C：アッ　ヒトマキガ　ヨンボカ。
あっ　1巻が　　4ぼか。

93A：ヨンボダエ　（C　ンー　ンー）　ヨンボ　＊＊＊
4ぼだよ　（C　んー　んー）　4ぼ　＊＊＊

オッケガ
「オッケ」が

コッデ　ハー　＊＊＊　ニジューハチボグレ　デベヨー
「これで　もう　＊＊＊　28ぼぐらい　　出るよ」

ッテ　ソート
って　言うと、

ソーカー　ダー　ヒトツ　コッデ　ナグ　イベヤ
「そうか　では　ひとつ　これで　網を　入れようか」

ッテ　ソイテネ？　ソッデ　ハジマッダイ。　（C　ハー）
って　言ってね？　それで　始まるんだよ。　（C　はあ）

ソエタッケ　オッケガ　　ヤッダ　　ッテ　ソイタッケネー
そうすると　「オッケ」が　「やるんだ」　って　言ったらねえ

（C　ン）　フクロ　　オトス
（C　ん）　袋［を］　落とす。

ジビキン　　フクロ　　（C　ハー）
地曳［網］の　袋［に］　（C　はあ）

タルン　コンナノオ　クッツケテ　（C　ンー　ン）　ネ？
樽の　　こんなのを　くっつけて　（C　んー　ん）　ね？

（C　ンー　ンー）　スズマネヨンサー
（C　んー　んー）　沈まないようにさ。

（C　ンー　ンー）　デ　コッデ　リョーホン　アバー
（C　んー　んー）　で　これで　両方の　　漁網の縁［を］

（C　｛咳払い｝）　アバー　　クッツケテ
（C　｛咳払い｝）　漁網の縁［を］　くっつけて

（C　ンー　アバ）　　マーミ〔8〕　サカミ〔9〕デ
（C　んー　漁網の縁）　真網　　逆網で

コーフン　　ワッパ　　コセテ　　（C　ン　ン）
こういうふうに　輪［を］　こしらえて、　（C　ん　ん）

ソッデ　コエデ　サイゴンナッタッケ　ツナイデサー
それで　これで　最後になると、　つないでさ、

リク　アガッテ　ツナデ　ヒッパッテ。
陸［へ］　上がって　綱で　引っ張って。

（C　ンー　ンー）　アー。
（C　んー　んー）　あー。

94C：アー　コーラヘンデ　オロシタホーガ　イートカ
あー　このあたりで　おろしたほうが　いいとか、

（A　ン）　ナントカ　ッチノオ　（A　オッケガ　ユー）
（A　ん）　何とか　っていうのを　（A　「オッケ」が　いう）

オッケガ　ミナ　ネ　（A　オッケガ）
「オッケ」が　みんな　ね　（A　「オッケ」が）

95B：＊＊＊　オーキナ　フネダッバ　センチョー　ネ。
＊＊＊　大きな　船なら　船長　ね。

96A：センチョーダエ。　（C　アー　ナルホド。　センチョーン　ヤク）
船長だよ。　（C　あー　なるほど。　船長の　役）

アー　センチョン　ヤク。
あー　船長の　役。

97C：ドーノマ〔10〕　ッチノワ。
「どうの間」　というのは。

98A：エッ？
　　えっ？

99C：ドーノマ　　ッチノワ
　　「どうの間」　というのは

100A：ドーノマ　　ッチノワ
　　「どうの間」　というのは

　　ソラー　アグリ〔11〕ンホン　　ハナシダ。
　　それは　あぐり［網漁］のほうの　話だ。

101C：アー　ソーケ。　（A　エッ）　アー　ソーカ　ソーカ。
　　あー　そうか。　（A　えっ）　あー　そうか　そうか。

　　（B　オジーサンノ　ハナシ　ワケガ　ワカラ＊＊＊　{笑}
　　（B　おじいさんの　話　　わけが　わから＊＊＊　{笑}

　　ソンナ＊＊＊　{笑}）
　　そんな＊＊＊　{笑}）

102A：ドーノマ　　ッチノワネ　　（C　ン　ン）
　　「どうの間」　というのはね、　（C　ん　ん）

　　ドーノマ　　ッチノワ
　　「どうの間」　というのは、

　　アリャ　アグリノホー　　ハナシ
　　あれは　あぐり［網漁］のほうの　話。

（C　アー）　ジビキト　　チガウダエ。　（B　{笑}）
（C　あー）　地曳［網漁］と　違うんだよ。　（B　{笑}）

103C：アー　ソーケ　ソーケ。　（A　アー）　アー
あー　そうか　そうか。　（A　あー）　あー

ヤッパイ　イロンナ　　ヤクガ　アッダネー。
やっぱり　いろいろな　役が　　あるんだねえ。

104A：アー　アグリモ　　（C　ンー）　オモシレヨー。　ンー。
あー　あぐり［網漁］も　（C　んー）　おもしろいよ。　んー。

105C：アグリワ　　ヤッパシ　ドンナ　アレガ　アッデスカ。
あぐり［網漁］は　やっぱり　どんな　あれが　あるんですか。

106A：アグリケー　　（C　ハイ）　{鼻をすする音}
あぐり［網漁］かい　（C　はい）　{鼻をすする音}

アグリワ　ヤッパンネー　アグリワ　イチバン　マー
あぐりは　やっぱりねえ　あぐりは　一番　　まあ

アレガ　オモテサオハリダヨネー。
あれが　「表棹はり」だよね。

（C　サオハリ　＊＊＊）　ン　サオハリ　（C　ン）
（C　「棹はり」　＊＊＊）　ん　「棹はり」。　（C　ん）

ソレカエ　オモテマワリ　（C　オモテマワリ）
それから　「表まわり」。　（C　「表まわり」）

アー　オモテマワリ　ッチノワネ？　（C　ン）
あー　「表まわり」　というのはね？　（C　ん）

マー　アトデ　ハナシ　シッケンガ　（C　ン　ン）
まあ　あとで　話［を］　するけれど。　（C　ん　ん）

ソンツギワサ　（C　ン）　コンドワ　ド　マンナカン
その次はさ　（C　ん）　今度は　×　まん中の

ドーノマンヤク　（C　アー　ドーノマン　＊＊＊）
「どうの間の役」。（C　あー　「どうの間」の　＊＊＊」）

ドーノマンチョー　チノガ　（C　ハ）
「どうの間の長」　というのが　（C　は）

ソラ　ワケシュノ　オヤカタダエ。
それは　若い衆の　親分だよ。

107C：アー　ナールホド。
あー　なるほど。

108A：ドーノマンチョー　ッチノワ
「どうの間の長」　というのは。

ソレカエ　ソンツギワ　トモエ　イッテサー　（C　ン）
それから　その次は　船尾へ　行ってさ　（C　ん）

ン　{舌打ちの音}
ん　{舌打ちの音}

カサンマエ　ッチノガ　メシタキ　（C　ンー）
「かまの前」　というのが　ご飯たき。　（C　んー）

カマンメー　カマンメー　ッテネ？　（C　ン　ン）
「かまの前」　「かまの前」　といってね？　（C　ん　ん）

{笑}　マンマタイダエ。　（B　{笑}）　（C　へー）
{笑}　飯炊きだよ。　（B　{笑}）　（C　へー）

オキデ　マンマタイ。
沖で　飯炊き。

109C：オー　オキデ　アッ　ソーダヨネ　ケーッテ　キネーダカンネ。
××　沖で　あっ　そうだよね　帰って　来ないんだからね。

110A：＊＊＊　ケーッテ　キネダカエー　（C　ンー）
＊＊＊　帰って　来ないんだから、　（C　んー）

オキデ　マンマタイ。
沖で　飯炊き。

ソエカエ　トモオシ　（C　へー）　トモオシ　＊＊＊
それから　「トモ押し」　（C　へー）　「トモ押し」　＊＊＊

16↑17

トモオセ　ッチノワネ、　（C　ン　ン）
「トモおせ」　というのはね、　（C　ん　ん）

トモオシガ　モシ　ヤスンダトキンニヤ
「トモ押し」が　もし　休んだ時には、

トモオセガ　　ヤンネッキャ　オイネ。
「トモおせ」が　やらなくては　いけない。

111C：ハハー　　トモ　　ッチノワ　　ドコダッタケネ。
ははあ。　「トモ」　というのは　どこだったかね。

ウシロダッタケネ。　（A　ウシロ　ウシロダヨ）
後ろだったかね。　（A　後ろ　後ろだよ）

イチバン　ウシロケ　ウシロ。
一番　　後ろか、　後ろ。

112A：カジオ　オセルモン。　（C　アー）
舵を　　押さえる人。　（C　あー）

ウシロデ　カジオ　オセルモン。
後ろで　　舵を　　押さえる人。

サ　サオハリ　　ッチノワ　　イチバン　オモテデサ
×　「棹はり」　というのは、　一番　　表でさ

（C　ン　ン）　デルトッキャ　サオ　　ハッテサー
（C　ん　ん）　出るときには　棹［を］　はってさ

（C　ン　ン）　デルケンガヨー
（C　ん　ん）　出るけれども。

コンド　オキエ　イグト　ハ　シタノ　イワシオ　メッケンノ
今度　　沖へ　　行くと　×　下の　　イワシを　見つけるの。

千葉 17-3

マッデサ　（C　ハー）　シタデ　コーヤッテ
まるでさあ　（C　はあ）　下で　こうやって

ミヨセン　ソバデサー　（C　ン　ン）
船首の　そばでさ　（C　ん　ん）

ゴシャク〔12〕エ　カジツイテネ？　（C　ン）
「ゴシャク」へ　かじりついてね？　（C　ん）

コーヤッテ　シタ　ミテネ　＊＊
こうやって　下［を］　見てね、　＊＊

アワガ　クットカ　（C　ン）
泡が　来るとか、　（C　ん）

イワシガ　ハネットカ　（C　ン）
イワシが　跳ねるとか。　（C　ん）

マー　オッケワサ　（C　ン）　イチバン　ウエエ
まあ「オッケ」はさ　（C　ん）　一番　上へ

アガッテッダカンネー。　（C　アー　アー）
上がっているんだからねえ。　（C　あー　あー）

ナットバノ　イチバン　ウエエ　（C　ンー　ンー）
なっとばの　一番　上へ。　（C　んー　んー）

オラホワ　X4ドンダカエ　ダンナオッケダエ
俺のほうは　X4さんだから　「旦那オッケ」だから

（C　ン　ン）　ヤトイオッケダ　　ネーダエネー
（C　ん　ん）　「雇いオッケ」じゃ　ないんだからねえ。

（C　アー　アー　アー　アー　ソーケー）
（C　あー　あー　あー　あー　そうか）

ンー　（C　ダンナ　ン）　ン　ダンナオッケダカエ。
んー　（C　旦那　　ん）　ん　「旦那オッケ」だから。

（C　ン　ン）　＊＊＊　｛鼻をすする音｝　（C　ンー）
（C　ん　ん）　＊＊＊　｛鼻をすする音｝　（C　んー）

サオハリンコト
「棹ハリ」のこと

「オー　サオハリ　　ミエッカー」
「おー　「棹ハリ」　見えるか」

ッテ　ソエテ
と　　言って、

ミエーネーネ　（C　ン）　アンモ　ミエーネーネー」
「見えないね　（C　ん）　何も　　見えないね」

（C　｛笑｝）　デ　マタ　ハシッテ　イグダネー。
（C　｛笑｝）　で　また　走って　　行くんだよね。

（C　ン　ン）
（C　ん　ん）

千葉 17-5

「イチバン　ヤッテンベヤー」
「一番　　やってみようか」

ッテ　オッケガ　　ソーダヨネ。　（C　ハー）
って　「オッケ」が　言うんだよね。　（C　はあ）

ソッデ　「マーレー　マーレー」　ッテ　ソエテ
それで　「回れ　　回れ」　　って　言って、

グルート　マワッテサー　（C　ンー　ンー）　デ　オッケガ
ぐるっと　回ってさ、　（C　んー　んー）　で　「オッケ」が

「カメーテロー」　ソエガネー
「構えていろ」　［と］言ってねえ

オモテマワリガ　ワイヤオ　　コー　イマワネー？
「表マワリ」が　ワイヤーを　こう　今はね？

モトト　チガッテ　ワイヤー　アノー　ヤズナ　ッテ　ッテ
以前と　違って、　ワイヤー　あの　「や網」　って　いって、

ヤズナガ　ワイヤーデネ　（C　ハー）
「や網」が　ワイヤーでね。　（C　はあ）

デ　コッチデ　マウダカンネ　　（C　ン　ン）
で　こちらで　巻くんだからね。　（C　ん　ん）

アグリ　　ッチモノワサー　（C　ン　ン）　ネ？
あぐり［網漁］　というものはさ　（C　ん　ん）　ね？

リョウホン　アミオ　コッテ　　アワセテサー
両方の　　網を　　こうやって　合わせてさ

（C　ンー　ンー）　ネ？　ネ？　（C　ンー　ンー）　ニ。
（C　んー　んー）　ね？　ね？　（C　んー　んー）　×

113C：ニソーデ　イグダネ。
２艘で　　行くんだね。

114A：＊＊＊　ニソー　ニソー　（C　ン　ン）　マーミ　サカミ
＊＊＊　２艘　　２艘　　（C　ん　ん）　真網　　逆網

（C　マーミ　サカーミ）　エ　ソッデサ　ネ　（C　ン）
（C　真網　　逆網）　　×　それでさ　ね　（C　ん）

リョーホー　コーヤッテ　セバー　　ヌッテサー
両方　　こうやって　背端［を］　縫ってさ

（C　ハー）　コーフン　　ヤッテ　アワセテ
（C　はあ）　こういうふうに　やって　合わせて

（C　ン）　ヌッチャウダエネー。
（C　ん）　縫ってしまうんだねえ。

115C：オキデ　ヌーダネ。
沖で　　縫うんだね。

116A：オキデ　ヌー。　（C　アー）　コッテヤッテ　ヌーバナシダヨー。
沖で　　縫う。　（C　あー）　こうやって　　縫いっぱなしだよ。

千葉 17-7

（C　ン）　コンケグレン　アイダン　ヌッチャウダケンガネー。
（C　ん）　このくらいの　間に　　縫ってしまうのだがねえ。

（C　アー　アー）　コッテ　　コッテ　　ヤッテサ
（C　あー　あー）　こうして　こうして　やってさ。

（C　アー）　リョーホンガノ　コッテ　　ヌッチャウベ
（C　あー）　両方の［を］　　こうして　縫ってしまう。

（C　ン）　コッテ　　ヤッテ　ヌッチャウダカンネー
（C　ん）　こうして　やって　縫ってしまうんだからねえ。

（C　アー　アー）　コッテ　　ヤッタラ
（C　あー　あー）　こうして　やったら

ハー　ハガレッコ　ナシダカンエー。
もう　剥がれっこ　ないんだからね。

（C　ハー　アー　ナルホド）
（C　はあ　あー　なるほど）

ソッデー　ボッ　アレ　ボッコンジャウダカンエ
それで　　××　あれ　入れてしまうんだから、

ウミン　ナカエ　ボッコンジャウ　（C　ンー）
海の　　中へ　　入れてしまう。　（C　んー）

ソッデネ　　コナ　｛咳払い｝
それでね、　××　｛咳払い｝

千葉 17-8

カンツル　　ッテ　コンケグレン　＊＊＊ネ
「カンツル」　って　このくらいの　＊＊＊ね

（C　ン）　ツナガ　ツイテテサ　　（C　ハー）
（C　ん）　綱が　　ついていてさ、　（C　はあ）

カネン　ワッパン　コンナノガ　　ツーテー　　（C　ハー）
金の　　輪の　　このようなのが　ついていて、　（C　はあ）

ソエサエ　ワイヤガ　トーッテテサ　　（C　ハー）
それに　　ワイヤが　通っていてさ、　（C　はあ）

デー　ソヤツガ　　ソ　ソ　ソコ　　サラウダエ
で　　そのやつが　×　×　底［を］　さらうんだよ、

グーット　　（C　ハー）　ネ？　（C　ン　ン）
グーッと。　（C　はあ）　ね？　（C　ん　ん）

サラッテ　オモテンホーエト　コー　ワイヤマキデネ
さらって　表のほうへと。　　こう　ワイヤ巻きでね、

（C　ン）　マクダイネー。　（C　ハー）
（C　ん）　巻くんだよね。　（C　はあ）

マウノワ　コッチデ　　ウインチデ　ヤルダケンドネー
巻くのは　こっちで、　ウインチで　やるんだけどもね。

（C　ンー　ンー）
（C　んー　んー）

千葉 17-9

ソッデ　ク　カテッポーワ　コンドア　アソビダヨネ。
それで　×　片方は　　今度は　　遊びだよね。

アバー　　ッテ　ウキガ　アッテ。　（C　ハー）
漁網の縁　って　浮きが　あって。　（C　はあ）

ダカン　ドーワ　ヒレーワネー　（C　ハー）
だから　胴は　　広いわねえ。　（C　はあ）

イワオ　コッテ　　アゲッチャッテ　（C　ン）
岩を　　こうして　あげてしまって、（C　ん）

コッチャー　アバデ　　モッテ　ウキデ　モッテ
こちらは　　漁網の縁で　もって　浮きで　もって

アスバセテオイテ　（C　ハー）
遊ばせておいて、　（C　はあ）

ソッデ　コンドア　（C　｛咳｝）
それで　今度は　　（C　｛咳｝）

アガ　イワガ　アガッチャウト
××　岩が　　上がってしまうと、

コンダー　リョーカワ　リョーカワデ　アミアゲー　（C　ハー）
今度は　　両側　　両側で　　網上げ。　（C　はあ）

マーミ　サカミデ　リョーホーデ。　（C　ハー）
真網　　逆網で　　両方で。　　（C　はあ）

ダカン　イワシガ　ニゲランネー
だから　イワシが　逃げられない。

コー　アバガ　　コーデ　　アスンデッダカラ。
こう　漁網の縁が　こうやって　遊んでいるんだから。

（C　ンー　ンー　ンー）　ン　（C　アー）
（C　んー　んー　んー）　ん　（C　あー）

17↑18

アバガ　　コーヤッテ　ウキデ　ウイテッダカンネー。
漁網の縁が　こうやって　浮きで　浮いているんだからね。

（C　ンー　ンー　ンー）　アバガ　　コンケグレン
（C　んー　んー　んー）　漁網の縁が、　このくらいの

（C　ンー）　コンナ　オーキナ　アバガ　　（C　ン）
（C　んー）　こんな　大きな　漁網の縁が、（C　ん）

ズート　ウキガ　ツイテッダカンネ　　（C　ンー）
ずっと　浮きが　ついているんだからね　（C　んー）

アミサエ。　（C　ハー　ハー）　スズマネダエ
網へ。　　（C　はあ　はあ）　沈まないんだ。

（C　ンー　ンー　ンー）　アー。
（C　んー　んー　んー）　あー。

117C：アー　カテッポ　ズット　ウカシテ　アッダ。
あー　片方　　ずっと　浮かして　あるんだ。

118A：カテッポ　ウカシテ　アッダエ。　（C　アー）
片方　浮かして　あるんだよ。（C　あー）

デ　カテッポ　アゲチャウカエ　イワンホーオ。
で、　片方　上げてしまうから、　岩のほうを。

119C：アー　イワンホーネ。
あー　岩のほうね。

120A：アー。　ダカエ　ス　スクルヨーナ　モンダエ
あー。　だから　×　すくうような　ものだよ、

ハヤク　イエバ。（C　アー　ナルホド）　イッテン　アー
早く　いえば。（C　あー　なるほど）　////　あー

（C　ンー）　コーテッテ　スクルヨーナモン。
（C　んー）　こうやって　すくうようなもの。

121C：ンー　ソッデ　ムカシワ　ズイブン　シッカイ
んー　それで　昔は　ずいぶん　いっぱい

アッタコトモ　アッダッペネー。
あったことも　あるだろうねえ。

122A：アー　ジョーデキナノワ　サンゼン。
あー　上出来なのは　3,000［かご］。

123B：ンー　カヨワ　カヨワセ〔13〕デネー。
んー　×××　かよわせ［船］でねえ。

124A：アー　サンゼンゴヒャクイクラ〔14〕カ　　トッタヨー。
　　あー　3,500いくらか　　とったよ。

　　＊＊　（B　＊＊）　（C　サンゼン）　アー。
　　＊＊　（B　＊＊）　（C　3,000）　　あー。

125B：ンデ　　カヨワセ　オフネ　ッチノガネー。
　　それで　かよわせ　お船　　というのがねえ。

　　（C　ンー　ンー）　チンチャッケ　（C　ンー）　フネガ。
　　（C　んー　んー）　小さい　　（C　んー）　船が。

126A：アンガネー　（C　ン）　カヨワセ　　カヨワセダッテ
　　何にねえ　　（C　ん）　かよわせ［船］　かよわせ［船］だって

　　オラホン　　カヨワセ　　オメー　（C　ン）　イー
　　俺のほうの　かよわせ［船は］　おまえ　（C　ん）　××

　　デッ　デッキ　イッペ　　ツメタッケヨ　ニヒャクカゴ　デッダヨ
　　××　デッキ　いっぱい　つめるとよ　　200かご　　出るんだよ

　　（C　ハー）　＊　イッペー　イッソーデ。
　　（C　はあ）　＊　いっぱい　１艘で。

127C：ンー　イッソーデ。
　　んー　１艘で。

128A：アー　ニヒャクカゴ。
　　あー　200かご。

129C：ジャー　タイヘンナ　モンダネー。　＊＊＊
じゃあ　たいへんな　ものだねえ。　＊＊＊

130A：ソレオネ　カヨワセッダヨ。　オメ　（C　ンー）
それをね　かよわせるんだよ。　おまえ　（C　んー）

ソッデ　ホンセンデ　オメ　オセテッダッペー。
それで　本船で　おまえ　つかまえているだろう。

131C：ン　ン　アー　アミン　ナカエ　オセテッダネー。
ん　ん　あー　網の　中へ　つかまえているんだねえ。

132A：オセテッダエ。　アッデ　オメ　{鼻をすする音}
つかまえているんだよ。　あれで　おまえ　{鼻をすする音}

オラホ　シホンシカ　ネーダカンヨ
俺たちのほう［は］　４本しか　ないんだからよ

（C　ンー　ンー）　カヨワセガー。　（C　ンー　ンー　アー）
（C　んー　んー）　かよわせ［船］が。　（C　んー　んー　あー）

ニヘー　イッタッテ　ハッピャクシカネ
２杯　行ったって　800［かご］しかない

（C　ンー　ンー　ンー）　＊＊＊ネ？　（C　ンー　ンー）
（C　んー　んー　んー）　＊＊＊ね？　（C　んー　んー）

シホン　イッタッテ　ハッピャクダカエ
４本　行ったって　800［かご］だから、

マーダ　イクラ　アッダガン　ワケ　　ワカラネヤツガネー
まだ　いくら　あるんだか　わけ［が］　わからないやつがねえ

ハヤ　エッテコーヨー　ッテ　オッケガ　　ドナッダエ。
「早く　行って来いよ」　って　「オッケ」が　怒鳴るんだよ。

（C　ン）　アンマン　オエネトッキャネー
（C　ん）　あんまり　しかたがない時はねえ

ヨソン　フネン　ウッチャウ　　オキデ。
よその　船に　　売ってしまう、　沖で。

133C：オキデ　ウッチャウ。
沖で　　売ってしまう。

134A：ウン。　（C　ハー　へー）
うん。　（C　はあ　へえ）

ハヤ　　コー　　ッテ　マネクダエ。　（C　ンー　ンー）
「早く　来い」　って　招くんだよ。　（C　んー　んー）

カラッポナ　フネガ　（C　ン）　＊＊＊　オセランネーデ
空の　　船が。　（C　ん）　＊＊＊　つかまえられなくて

（C　ン）　ポカント　シテンノガ　　（C　ンー　ンー）
（C　ん）　ぽかんと　しているのが　（C　んー　んー）

エッダッペー。　（全員　{笑}）　＊＊＊
いるだろう。　（全員　{笑}）　＊＊＊

135B：イーヤンベンネー　カタマッテットコエ　　エゲバネー。
いいあんばいに　かたまっているところへ　行けばねえ。

136A：オラホミテン　　コー　アワセレバヨー　イワシ　アワセレバ
俺のほうみたいに　こう　合わせればよ　　イワシ　合わせれば

（C　ン）　オセラレルケンガ　　（C　ン）
（C　ん）　つかまえられるけれど　（C　ん）

カラッポナノガ　　ミテンノガ　　エッダカエー　（C　ハー）
空っぽなの［＝船］が　見ているのが　いるんだよ。　（C　はあ）

ネー　　イワシ　　ヤッカエ　コーヨー　ッテ　マネグダエ。
ねえ。「イワシ［を］　やるから　来いよ」　って　招くんだよ。

オッケガエー　（C　ンー　ンー）　コッテ　　キタッキャネー
「オッケ」が　（C　んー　んー）　こうして　来るとねえ

コンフネ　　イッペー　　イクラ　ヒャッダー
「この船［は］　いっぱい［で］　いくら　はいるんだ」

ヒャクゴジューダー　ッテ　ソーダヨネー
「150［かご］だ」　　って　言うんだよね、

ヤッドンガネー　（C　ンー）
野郎どもがね。　（C　んー）

ヒャクゴジューデ　アンガ　　キウダエ　　ッテ　ソート
「150［かご］で　　どうして　きくものか」　って　言うと

ミンナ　ソーダイネ
みんな　そうだね

「ヒャクゴジューダッバ　ヒャクゴジューデ　イーヨー
「150［かご］なら　150［かご］で　いいよ。

ワケシ　クンデヤレヨー」　デ　クンデヤッテサー。
若い衆　くんでやりなよ」　それで　くんでやってさ。

（C　ハー）　オキデ　ウンノモ　アッダエー
（C　はあ）　沖で　売るのも　あるんだよ。

（C　ナルホドネー）　ハコビキレネッキャ。　（C　ハー）
（C　なるほどねえ）　運び切れなければ。　（C　はあ）

アー
あー

137B：ソシタッケ　（C　ン）　アノ　カヨワセガ
そうすると　（C　ん）　あの　かよわせ［船］が

ツンデ　クッデショー。　（C　エー）
積んで　来るでしょう。　（C　えー）

トットットットット　（C　エー）　ソシタッケ　オカンホーワ
トットットットッと　（C　えー）　そうすると　おかのほうは

ホラ　オッペシ　ッテ　（C　ンー　ンー）
ほら「オッペシ」　という　（C　んー　んー）

オッカサンドンガ　（C　ン）　オンナドンガ　エテネー。
お母さんたちが　（C　ん）　女たちが　いてねえ。

{笑}　（A　オー）　ソッデ　ソレー
{笑}　（A　おー）　それで　それ

（C　アー　アー　アー　アー　カヨワセ
（C　あー　あー　あー　あー　かよわせ［船］

アゲタンナンダカ　＊＊＊）　ソー　ソー
上げたとかなんとか　＊＊＊）　そう　そう

（A　ソレデ　イワシ　ダシテ）
（A　それで　イワシ［を］　出して）

エイサー　エイサー　ッテネ。　（C　ハー）
「エイサー　エイサー」　ってね。　（C　はあ）

アノ　ハヤシコミデ　アゲッダネー。　（C　ダシテ　ンー）
あの　はやしこみで　上げるんだね。　（C　出して　んー）

138A：イワシ　ダシテサー　（B　{笑}）　ソッデ　コンダー
イワシ［を］　出してさ　（B　{笑}）　それで　今度は

マタ　アノ　＊＊　オキー　ダスダ　マタ。
また　あの　＊＊　沖［へ］　出すんだ　また。

（C　ンー　ンー）　カヨワセダカエ。
（C　んー　んー）　かよわせ［船］だから。

キテ　エー　オメー　（C　ンー）
来て　えー　お前　（C　んー）

イワシ　ダッシャッテワ　ダス。（C　ンー）
イワシ［を］　積み出してしまっては　出す。（C　んー）

マタ　キテ　ソンツギンガノガ　キテ　マッテッダカエー
また　来て　その次の［船］が　来て、　待っているんだから

ヒャンノ。（C　ハー）
入るの［を］。（C　はあ）

（B　＊＊＊）　＊＊＊　ソン　ジブンニャ　ミンナ　＊＊＊
（B　＊＊＊）　＊＊＊　その　頃には　みんな　＊＊＊

ハッチャッテッダカエー。（C　ンー）
張ってしまっているんだから。（C　んー）

X4ドンノガノ　ミンナ　カクバタデサー。
X4さんの家の［は］　みんな　角旗でさ。

139C：アー　ハダ　タテテ。
あー　旗［を］　立てて。

140A：ダッテ　オメー　（C　ンー　ンー）　（B　ダイリョバタ）
だって　おまえ　（C　んー　んー）　（B　大漁旗）

（C　ダイリョバタ　アッ　ソーカ　ソーカー
（C　大漁旗　あっ　そうか　そうか

ダイリョバタ　ン　ソーダネー)　ダイリョバタ。　ウーン
大漁旗　　ん　そうだね)　大漁旗。　　うーん

ダイリョバタ。　(C　ンー　ン)
大漁旗。　　(C　んー　ん)

141B：ダイリョバタ。
大漁旗。

18↑19

142A：ダカラ　オッラ　(C　ン)　マイウェ〔15〕　サンメ
だから　俺は　(C　ん)　万祝い　　３枚、

シメエ　キタヨー。
４枚　　着たよ。

143C：ア　マイワェ　ッチノワ　コー　タイリョゴトン
あ　万祝い　というのは　こう　大漁ごとに

クレルケ。
くれるの。

144A：ソーダエ。
そうだよ。

マイワェワ　ダイリョシネッキャ　クンネダカエー。
万祝いは　大漁［を］しないと　くれないんだからねえ。

145C：アー　ソッケー。
あー　そうか。

146A：アー　ダイリョーシレバ　オメ　　（C　ン）　エー
あー　大漁すれば、　　おまえ　（C　ん）　えー

リューグーサマカラ　コン　ウチガンサマ　（C　ン）
竜宮様から　　この　氏神様、　　（C　ん）

イチノミヤン　コンピラサマ　（C　ンー　ンー　ンー　ンー）
一宮の　　金比羅様、　　（C　んー　んー　んー　んー）

ソンマデ　トーヨーエー　　ヤッテイグダモン。
それまで　「トーヨーエー」［＝大漁の歌］　やっていくんだもの。

147C：アー　トーヨーエー　　チノ。　　ンー　＊＊＊
あー　「トーヨーエー」　というの［を］。　んー　＊＊＊

ハナシ　　キータコト　アッタナー。
話し［を］　聞いたこと　あったなあ。

148A：ソッデサー　ソメガタ　　キテヨ　（C　ン）　ソメガタ
それでさ　　染め型［を］　着てね、　（C　ん）　染め型［の］

（C　ン）　セナカエ　コー　アッガ　ツーテ　（C　ン）
（C　ん）　背中に　　こう　あれが　ついて、　（C　ん）

ツルガ　ツーテサー　（C　ン）　ネ？　（C　ン）
鶴が　　ついてさ、　（C　ん）　ね？　（C　ん）

シタワ　カメガ　ツーテ　（C　ン）
下は　　亀が　　ついて、　（C　ん）

カメニ　オワンガ　ツーテ　（C　ン）　デ
亀に　おわんが　ついて、（C　ん）　で

ナミガ　コー　シブキガ　ツーテ　（C　エー　エー　エー　エー）
波が　こう　しぶきが　ついて、（C　えー　えー　えー　えー）

スソッペタエー。（C　アー　アー　アー　アー）
裾のほうへ。（C　あー　あー　あー　あー）

ソレ　ソメガタ　ッテ　ツーダエー。
それ［を］　染め型　って　いうんだよ。

（C　ンー　ンー　ンー）　オラゲデ　センソー　ジブンニ
（C　んー　んー　んー）　俺の家で　戦争［の］　頃に

アジ　シタダガン。（C　ンー）
何に　したものだか。（C　んー）

アレ　フルシキン　シタンシテ。｛笑｝
あれ［を］　ふろしきに　したりして。｛笑｝

149C：｛笑｝　アー　デ　ウタ　ウタイナガラ
｛笑｝　あー　で　歌［を］　歌いながら

アッダネ？　アノ
何だね？　あの

150A：ンー　（B　ソー　ソー）　ソー　（B　ネ）
んー　（B　そう　そう）　そう　（B　ね）

トーヨーエー　ヤンナガイ。（C　ンー　ンー）　ン
「トーヨーエー」　やりながら。（C　んー　んー）　ん。

（C　トーヨーエー）　ンー。
（C　「トーヨーエー」）　んー。

151B：ソロイノ　タビデ　ソロイノ　（A　ン）　ゾーリデネー
そろいの　足袋で、　そろいの　（A　ん）　草履でねえ。

（C　アー　アー　アー）　（A　ゾーリデ）
（C　あー　あー　あー）　（A　草履で）

ムコーハチマイ〔16〕デ　{笑}　（C　ンー）
向こう鉢巻で。　{笑}　（C　んー）

152A：トキイロ〔17〕ン　テングイデ　（C　アー）　テングイデネ。
とき色の　手ぬぐいで　（C　あー）　手ぬぐいでね。

153C：ンー　ヨク　マイワェ　チノ　（B　ンー）
んー　よく　万祝い　というの［を］　（B　んー）

ムカシ　ミタコト　アッタヨネー。
昔　見たこと［が］　あったよねえ。

154A：ソラー。
それは。

155C：アン　イロイロ　アッタッペ。
あの　いろいろ　あっただろう。

アノー　ワタイ　ワタイレ　ミテーノガ　アッタリ。
あのう　×××　綿入れ　みたいのが　あったり。

156B：ソラ　アノネー。（C　ンー）
それは　あのねえ。（C　んー）

157A：ダカエ　ソデガネー。（C　ンー）
だから　袖がねえ。（C　んー）

158B：ヒラクチン　ソデ　ツクッテアッデスヨネ。
平口に　袖［が］　作ってあるんですよね。

159A：ヒラクチン　ソデ　（C　アー　アー）　ソエガネー
平口に　袖　（C　あー　あー）　袖がねえ

（C　ンー）　コー　コンナン　オーキダエ。
（C　んー）　こう　このように　大きいんだ。

ミンナー。（C　ンー　ンー　ンー）
みんな。（C　んー　んー　んー）

160B：ソデガ。
袖が。

161A：ソデガ　（C　ン）　ドテラン　ナッテッダエ
袖が　（C　ん）　どてら［のよう］に　なっているんだよ、

クチガ。（C　ア　ドテラニナッテ）　アー。
口が。（C　あ　どてらになって）　あー。

（C　アー　アー　アー）
（C　あー　あー　あー）

162B：ダケン　　（C　ン）　アノー　ワタワ　ネー
だけれども　（C　ん）　あのう　綿は　　ない。

（A　ワタワ　ネーダカエ）　（C　アトデ　イレル）
（A　綿は　　ないから）　　（C　後で　　入れる）

（A　アトデ）　ウエ　　キートキワ　ソンママ。
（A　後で）　　上［に］　着るときは　そのまま。

（C　＊＊＊）
（C　＊＊＊）

163A：キートキワ　ミンナ　ソンマンマ　（C　ンー　ンー）
着るときは　みんな　そのまま　　（C　んー　んー）

（B　ヒトッパリ）　ヒトッパリ　（C　アー　ソーケー　アー）
（B　／／／／／）　／／／／／　（C　あー　そうか　　んー）

アー。　ソッデ　オメー。
あー。　それで　おまえ。

164B：ダッテ　ジビキダッテネー　　（C　ン）　アノ　シ　シ
だって　地曳［網漁］だってねえ　（C　ん）　あの　×　×

シッカエト　（C　ン）　トッタ　＊　トキワネー、
たくさん　　（C　ん）　とった　＊　時はね、

（C　ン　ン）　カンメーリン　アガルッテサー
（C　ん　ん）　神参りに　　上がるんだよ。

（C　アッ　カンメーリ　ン）　ソッデ　コーネー
（C　あっ　神参り　　ん）　それで　こうね

タマ〔18〕エ　（A　＊＊）　イワシ　　イレタママ
たま網に　　（A　＊＊）　イワシ［を］　入れたまま

ヨイサー　（C　ン）　コラサー　　ッテ　ウチガンサママデ。
「ヨイサー　（C　ん）　コラサー」　って　氏神様まで。

165A：オレワ　＊＊＊ト　フタリデ　キタナー。
俺は　　＊＊＊と　二人で　　来たなあ。

166B：ウチガンサママデ。　（C　アーン）
氏神様まで。　　（C　あーん）

（A　ウチガンサママデ）　（C　ン）
（A　氏神様まで）　　（C　ん）

ソシタッケ　トチューデネー　（C　ン）
そうすると　途中でね、　　（C　ん）

「エイサー　エイサー」　ッテ
「エイサー　エイサー」　って

コエガ　スットネー　（C　ン）　オッカサンドンガ
声が　　するとねえ、（C　ん）　お母さんたちが

ザル　　モッテネー　コー　サカナ　　モラインネー。
ざる［を］　持ってね、　こう　魚［を］　もらいにね。

167A：ミンナ　モライン　デル。　（C　ハー　ハー）
みんな　もらいに　出る。　（C　はあ　はあ）

168B：ンー　ダカエ　（A　＊＊）　（C　ン）
んー　だから　（A　＊＊）　（C　ん）

ウチガンサマエ　イグマデンニャ。
氏神様へ　　行くまでには。

169A：ウチガンサマエ　イグマデンニャ　テンデ　ナクナッチャウヨ
氏神様へ　　行くまでには、　とても　なくなってしまうよ。

（B　{笑}）　（C　ンー）
（B　{笑}）　（C　んー）

タマ　　イッペ　　カッズイテキタッテ。
たま網　いっぱい　担いできたって。

（C　ンー　ンー　ンー）　アー。
（C　んー　んー　んー）　あー。

170C：ウチガンサマエ　アゲタッテ　　ミンナネー　（B　ソー）
氏神様へ　　あげてしまっても、　みんなね　（B　そー）

ヤッパ　　タベテモラッタホーガ　イーダッペカンネ。
やっぱり　食べてもらったほうが　いいだろうからね。

171A：アー　ホントダエ。　（C　ン）　ミンナン
あー　ほんとうだよ。　（C　ん）　みんなに

アレ　シタホーガ　イーダエ。　（C　ンー　ンー）　{笑}
あれ　したほうが　いいんだよ。　（C　んー　んー）　{笑}

172B：ソンジブンワネー　（C　ン）　ハマガ　ナ　ナンカイモ。
その頃はねえ　（C　ん）　浜が　×　何回も。

173A：オッラ　ジビキダッテ　アッダヨー　マイウェ
俺は　地曳［網漁］だって　あれだよ　万祝い［を］

ヨッポド　キタヨー。
よほど　着たよ。

174C：アー　ジビキデモ　ヤッパシー　（A　ン）
あー　地曳［網漁］でも　やっぱり　（A　ん）

アッデスネー。　（A　＊＊＊）　ハー。
あるんですねえ。　（A　＊＊＊）　あー。

175A：エー　ナッタ　トシンサー　（C　ン）
えー、　なった　年にさ　（C　ん）

ハー　マイウェ　キシャッタモン。　（C　へー）
もう　万祝い［を］　着てしまったもの。　（C　へー）

フナカタン　ナッタトシン。　（C　ハ）
漁師に　なった年に。　（C　は）

千葉 19-10

ソントキ　アッダヨ　テンノサマン　マチン　キタナー。
その時、　何だよ　　天王様の　　祭りに　着たなあ。

（C　ハー）　ダカン　ミ　ミヤダシシテサネー
（C　はー）　だから　×　宮出し［を］してね、

（C　ンー　ンー）　ミヤダシ　　シテ
（C　んー　んー）　宮出し［を］　して。

コンダー　ウチー　　キテヨー　　（C　ン）　コンダ　ホラ
今度は　　家［へ］　帰ってよ、　（C　ん）　今度は　ほら

ソンジブンニャ　ソメガタダネー　　ユカタダイネー
その頃には　　染め型ではなくてね、　浴衣だね

（C　ンー　ンー）　ユカタン　マイワェゾロイ。
（C　んー　んー）　浴衣の　　万祝いぞろい。

（C　ンー　ンー）　ソッデー　｛咳払い｝
（C　んー　んー）　それで　　｛咳払い｝

トーヨーエー　　ヤンナガイヨー　（C　ンー）　イッター。
「トーヨーエー」　やりながらよ、　（C　んー）　行った。

＊＊＊　ミコシガ　ウチガンサマ　イッタモンナ。
＊＊＊　御輿が　　氏神様［へ］　行ったもんな。

ウチガンサマ　イッタ　（C　ハー）　ウチガンサマエ　キテ
氏神様［へ］　行った　（C　はあ）　氏神様へ　　来て、

ヤスンデタ　（C　ンー　ンー）　ミコシガ。　（C　ハー）
休んでいた　（C　んー　んー）　御輿が。　（C　はあ）

19↑20

176C：ジャー　アノ　マチン　ヒン　ジビキ　ヤッタスカ。
じゃあ　あの　祭りの　日に　地曳［網漁を］　やる。

177A：＊＊　ジビキワ　ヤレン
＊＊　地曳［網漁］は　やれない、

（C　アッ　ジビキワ　ヤンネケン）
（C　あっ　地曳［網漁］は　やらないけれど）

ヤンネケンガ　ハー　マイワェワ
やらないけれど　もう　万祝いは

キマッテタ　キイ　チノ　キマッテタダエ。
決まっていた、　着る　というのは　決まっていたんだよ。

178B：キメテオイテー　（A　キメテオイテー）　デ　ハ
決めておいて　（A　決めておいて）　で　もう

ジュンビ　シッデショー。　（C　ン）　ヤッパエ
準備［を］　するでしょう。　（C　ん）　やっぱり

ドッカラエ　クバッテ　コセネッバ　オエネー。
いろいろなところへ　配って　こしらえなければ　いけない。

179A：コセネッバ　オエネー。
こしらえなければ　いけない。

180B：マチノ　ヒン　ソレ　　キル　ッチコトモ　アレバネ。
祭りの　日に　それ［を］　着る　ってことも　あればね。

181A：キメトイテー　（C　アー　ナルホド）　ンー
決めておいて　（C　あー　なるほど）　んー

ソッデ　マーネ　ミヤダシ　シテカッダカエ
それで　まあね　宮出し　してからだから

オーイソガシダヨ。　ミコシン　ミヤダシ　シテカラ
大忙しだよ。　御輿［の］　宮出し［を］　してから、

マタ　ウッチエ　キネッバ　オエネ。　コーラマデ
また　家へ　来ないと　いけないしね。　このあたりまで

オクッテ　クッダッペ　（C　エー）　ネ？
送って　くるだろう　（C　えー）　ね？

（C　エー）　キテ　ハー　＊＊＊　キテー　マイワェゾロエ
（C　えー）　来て　もう　＊＊＊　来て　万祝いぞろい

＊＊＊　（C　ンー　ンー）
＊＊＊　（C　んー　んー）

ダカン　アン　ジブンニャ　アッダネー
だから　あの　頃には　あれだねえ

ミコシ　カッズイガ　グスーッ　グスー　ッテ　ヘッタネー。
御輿［を］　かつぐ人が　グスーッ　グスー　って　減ったねえ。

（C　アー　アー　ア）　ダッテ
（C　あー　あー　あ）　それというのも

フナカタドンカラ　アンガ　ミンナ　イッチャウダッペー。
漁師たちから　何か　みんな　行ってしまうだろう。

（C　ンー）　マイワェゾロエン。
（C　んー）　万祝いぞろいに。

キモノ　キサエ　エッチャウダカエ。
着物［を］　着るために　行ってしまうのだから。

182C：アー　ウ　ウチハー　モラッテ　アッダネー。
あー　×　うちへは　もらって　あるんだね。

183A：アー　モラッテ　アル。　コセテ　アッダカエ
あー　もらって　ある。　こしらえて　あるんだからね。

（C　アー　アー　アー）　エー。
（C　あー　あー　あー）　えー。

184B：ホントワネー　アノ　ジビキー
ほんとうはねえ　あの　地曳［網漁に］

ワタシラ　イッタコトモ　アッタケンガ
私たちも　行ったこと［も］　あったけれど、

シッカイ　アッタッケネー　オーキナ　ゴハン　タ　アラ
いっぱい　あるとね、　大きな　ご飯　×　あれは

アンダッケネー　ゴハン　　タクモンワ　アンダッケネー。
何だったかな　　ご飯［を］　たくものは　何だったかね。

185A：カシ。　（B　カシ）　ン　（C　ンー）
「カシ」。　（B　「カシ」）　ん　（C　んー）

186B：カシ　ッテ　ユーノ。　（C　ンー　ンー）
「カシ」　って　いうの。　（C　んー　んー）

187A：カシ。
「カシ」。

188B：ソッデ　オーキナ　コンナ　オーキナ　{笑}
それで　大きな　こんな　大きな　{笑}

イレモンサエ。
入れ物に。

189A：サンヤサマン　チャワンダエー。　（C　ハー）
さんやさまに　茶碗だよ。　（C　はあ）

（B　＊＊＊）　サンヤサマン　オヤワンデ
（B　＊＊＊）　さんやさまの　親わんで

コンナ　エケモンガ　アッダエ。
こんな　大きなものが　あるんだよ。

190B：オヤワンノ　ネー。　（A　オヤワンノ）　＊＊＊　（C　ン）
親わんの　ねえ。　（A　親わんの）　＊＊＊　（C　ン）

191A：＊＊＊　オツケ　（C　＊＊＊）　オツケ　カケテ。
　　＊＊＊　みそ汁　（C　＊＊＊）　みそ汁　かけて。

192C：ソッデ　ミンナ　タベ　タベテ。（B　ソー　ソー）
　　それで　みんな　××　食べて。（B　そう　そう）

　　（A　タベ）　ハー。
　　（A　食べ）　はあ。

193B：マー　ズーブン　アノネー　（C　ンー　ン）
　　まあ　ずいぶん　あのねえ　（C　んー　ん）

　　ダカエ　アルイ　アルイ　タベンネー。
　　だから　歩き　歩き　食べるねえ。

　　コエ　オ　オハチガ　アッデショー。（C　{笑}）
　　ここへ　×　おはちが　あるでしょう。（C　{笑}）

　　コッチエ　オツケワンガ　アッデショー。
　　こっちのほうに　おみおつけ碗が　あるでしょう。

　　コッカンネー　デ　オツケワンサエ　エッテ
　　こっちのほうからね　で　みそ汁の碗のほうへ　行って、

　　コー　オツケン　コー　エレモンガ　アッテ　ソレー　コー
　　こう　みそ汁の　こう　入れ物が　あって、　それ［を］　こう

　　カケテ　（C　ン）　コー　タベ　タベ　アルッテッダヨネ。
　　かけて　（C　ん）　こう　食べ　食べ　歩いているんだよね。

ソッデ　トレタ　イワシノ　コノ　（C　ン）　イキノ　イーノオ
それで　とれた　イワシの　この　（C　ん）　生きの　いいのを

ニテ　キタンナンカ　シットネー、　（C　ン）　ウンマイノ
煮て　きたりなんか　するとね、　（C　ん）　おいしいの、

ウチデ　ニタヨリモ。　（C　ンー　ンー　ンー）
家で　煮たものよりも。（C　んー　んー　んー）

194A：ウンメーダエ。
おいしいんだよ。

195B：イキテンノダカンネー。　（C　ン）
生きているのだからねえ。（C　ん）

196A：ダケンガネー　ソンナモン　クッテッヨッカヨー
しかしねえ、　そんなもの［を］　食べているよりかよ、

（C　ン）　オツケ　カケテ、　ハヤ　ス
（C　ん）　おみおつけ［を］　かけて、　早く　×

ススラネッバ　ナーナッチャウト　オモッテヨー。
すすらないと　なくなってしまうと　思ってよ。

（B・C　{笑}）
（B・C　{笑}）

197B：ゴハン＊＊　タベクロダモンネー。（C　ンー　ンー）
ご飯＊＊　食べ比べだものね。（C　んー　んー）

198A：オツケネー　　（C　ンー）
おみおつけね、　（C　んー）

オツケン　　ソバエ　エッテサー　カエコンデネー
おみおつけの　そばへ　行ってさ、　すすりこんでね。

（C　{笑}）　ホッデ　（B　アルイ　アルイ　タベンノ）
（C　{笑}）　それで　（B　歩き　歩き　食べるの）

エッテクンマデン　マタ　モ　（B　{笑}）
行ってくるまでに　また　×　（B　{笑}）

モリン　エグダエ。　（C　ハ　ハー。　{笑}）
盛りに　行くんだよ。（C　は　はあ。　{笑}）

199B：ネー　アンナ　ジブンモ　アッタモンネー。
ねえ　あんな　頃も　あったものねえ。

200A：＊＊＊　アヒルミテン　ズボノミダ。　（C　ンー　{笑}）
＊＊＊　アヒルみたいに　丸飲みなんだ。（C　んー　{笑}）

イガ　ワルーナル　カンジョダト　オモッテネー。
胃が　悪くなる　計算だと　思ってね。

（B・C　{笑}）　X5ドンノ　ジーサンガ
（B・C　{笑}）　X5さんの　おじいさんが

ジッキン　ムネー　ツケテ　ハシ　ノーテンサエ
すぐに　胸に　つかえて、　箸［を］　脳天に

コッテ　　ヤッテ　（C　{笑}）　エ　＊＊
こういうふうに　やって　（C　{笑}）　×　＊＊

X5ドンノ　ジイガ　　アラ　マタ　ムネエ　ツケター、
X5さんの　おじいさんが　あら　また　胸に　つかえた、

アラ　{笑}　（C　{笑}）
あら　{笑}　（C　{笑}）

ハシオ　ノーテンサエ　オッツァシテー　{笑}　（C　{笑}）
箸を　脳天に　さして、　{笑}　（C　{笑}）

メー　ヘックルゲシテ　{笑}　（C　{笑}）　アー
目［を］　ひっくり返して。　{笑}　（C　{笑}）　あー

201B：ネー　アンナン　アノー　トレタモノネー。　（C　ンー）
ねえ　あんなに　あのう　とれたものねえ。　（C　んー）

（A　ンー　トレタ　＊＊＊）
（A　んー　とれた　＊＊＊）

ドエ　エッチャッタモンダガンネー。
どこへ　行ってしまったものだかねえ。

202A：ジビキ　ジビキ　ヤッテン　アンモ　カーラネー。
地曳［網漁］、　地曳［網漁］、　やっても　何も　かからない。

203B：ナンモ　ネーデスヨ。
何も　ないですよ。

204C：イマワ　デショーネ　　ハー　ミ　ミセモンミテン
今は　　でしょうね、　はあ　×　見せ物のように

（A　ン）　ナッチャッタモンネ。　　（A　ン）
（A　ん）　なってしまったものね。　（A　ん）

205B：ソー　＊＊　ハー　イマ　　アッデショー　ハマエ
そう　＊＊　はあ　今［は］　あれですよ、　浜へ

（A　ヤラネーワ）　マネンゲンワネー　（C　ン）
（A　やらないわ）　真人間はねえ　　（C　ん）

ホカエ　エッテ　カネモーケ　　シタホーガ　イー　ト　オモッテ
他へ　　行って　金儲け［を］　したほうが　いい　と　思って、

ダーモ　ハマエ　エグ　テガ　ネーデショー。　（A　ン）
誰も　　浜へ　　行く　人が　ないでしょう。　（A　ん）

ムカシワネ　アンモ　ホカン　ゼンモーケモ　ネーカンネー。
昔はね　　何も　　他に　　金儲けも　　ないからねえ。

アサ　オイタッケ　ホントー。　マー
朝　　起きると、　ほんとう。　まー

アタシラ　　（A　｛笑｝）　ソバエ　エッテ　ミネバ
私たち［は］　（A　｛笑｝）　近くに　行って　見なければ、

20↑21

ドッチガ　オモテデ　ドッチガ　ウラダガン　マックロデ
どちらが　表で　　どちらが　裏だか　　真っ黒で

（A　{笑}）　ワカンネ　　ッテ　ソーワレタモンダケン。
（A　{笑}）　わからない　って　言われたものだけど。

{笑}　マックロケン　ナッテ。　（A　イヤー）
{笑}　真っ黒けに　　なって。　（A　いやー）

206C：アッデ　ネ　＊　ソンナン　エッペ　　トレタトキンニャ
あれで　ね　＊　そんなに　いっぱい　とれたときには、

{鼻をすする音}　アッダッペ。
{鼻をすする音}　あれだろう。

サカナヤエ　ミンナ　ウルダケジャナクテ。　ヤッパネ
魚屋へ　　みんな　売るだけではなくて。　やっぱりね

207A：ウン。　ウン。　ヨケー　　トレタトキンニャ　（C　ン）
うん。　うん。　いっぱい　とれた時には　　（C　ん）

ミンナ　ホシカ〔19〕。
みんな　干鰯。

208C：ホシカ。　（A　アッ　＊＊＊）
干鰯。　　（A　あっ　＊＊＊）

209B：ハマエ　ホシテ。
浜へ　　干して。

210C：ハマエ　ミンナ　ホシチャウ。
浜へ　　みんな　干してしまう。

211A：ン　イナゴデ　ミンナ　ホシチャウ。
　　ん　砂浜で　　みんな　干してしまう。

212B：ソレ　　マタネ？　（C　ンー）
　　それ［を］　またね？　（C　んー）

213A：コアゲ〔20〕　ッテノガ　　イテネ。
　　「コアゲ」　　っていうのが　いてね。

214B：コアゲ　　ッテ　ソイテネー　　オンナドンガネー
　　「コアゲ」　って　いってねえ、　女たちがねえ、

　　（C　ンー　ンー　コアゲ）　　（A　ン　コアゲ）
　　（C　んー　んー　「コアゲ」）　（A　ん　「コアゲ」）

　　ソレ　マタネ　サシエンコン　　カッズーノ。
　　それ　またね　さし合いにして　かつぐの。

215A：エッペズツ　カッズテワサー。　（C　ン）　ネ？
　　１杯ずつ　　かついではさ。　　（C　ん）　ね？

216B：フター　ズ　フタッデ　コー　サシエン　　カッズッテ。
　　×××　×　二人で　　こう　さし合いにして　かついで。

217A：＊＊＊　ズート　エナゴデ　ミンナ　ホスダエネー？
　　＊＊＊　ずっと　砂浜に　　みんな　干すんだよね？

　　（C　アー）　（B　ソー　ソー）　（C　ナルホド　ン）
　　（C　あー）　（B　そう　そう）　（C　なるほど　ん）

ソッデ　＊　＊　カワウト　ミンナ　フナカタドンガ　ミンナ
それで　＊　＊　乾くと　みんな　漁師たちが　みんな

ケースダヨネ。　（C　ンー　ンー　ンー　ンー）
ひっくり返すんだよね。　（C　んー　んー　んー　んー）

ケーシテワ。　＊＊＊
ひっくり返しては。　＊＊＊

218B：コンドワ　アノー　カワイタッキャ　アノー
今度は　あの　乾くと　あの

タワラエ　ツメテネ。
俵へ　詰めてね。

219A：ターサエ　ターサエ　コヤシ　シテ。　（C　ンー　ンー）
田へ　田へ　肥やし［を］　やって。　（C　んー　んー）

220C：ソレ　ホシタンナンカ　スッノワ　オンナドンノ。
それ　干したりなんか　するのは　女たちの。

221B：ヤ　（A　アー）　アノ
×　（A　あー）　あの

カッズーノワ　オンナドンノ　ヤクダケンガネ？　（C　ン）
かつぐのは　女たちの　役だけれどもね？　（C　ん）

ソーユー　ケーシタンナンカ　マタ　オトドンガ。
そういう　ひっくり返したりなんか　また　男たちが。

（C　アー）　ヤッタ。
（C　あー）　した。

222A：オトドンガ　（C　タノマエテ）　タノマエテ　ヤッダエ。
男たちが　（C　頼まれて）　頼まれて　やるんだよ。

（C　アー）　イチノミヤン　ヨシノヤダン
（C　あー）　一宮の　吉野屋だの、

ミンナ　カイン　キタモンダデン。
みんな　買いに　来たもんだよ。

223C：アー　ホシカオ。
あー　干鰯を。

224A：アー　ホシカオ。　（C　ンー）
あー　干鰯を。　（C　んー）

ミンナ　オカンホーエ　ウリン　イッタダエ。
みんな　山の村のほうへ　売りに　行ったんだよ。

（C　ンー　ンー　ン）　アー。　アンジブンニャ　オメー
（C　んー　んー　ん）　あー。　あの頃には　おまえ

ヒリョー　ッチモンガヨー　ヨケン　ネーダッペ
肥料　というものがよ、　多く　なかっただろう。

（C　ン）　（B　＊＊＊）
（C　ん）　（B　＊＊＊）

マメイタ〔21〕ガ　キネッバ　アジンモ　　ショネダイ。
豆板が　　来ないと　どうしようも　なかったんだ。

（C　ンー）　マメイタガ　キタカエ
（C　んー）　豆板が　　来たから、

アッデ　イーヨーナ　モンダケン
あれで　いいような　ものだけど。

マメイタガ　キネッバ　オメー。
豆板が　　来ないと　おまえ。

225B：マタ　ソン　ホシカッチノネー　　（C　ンー）
また　その　干鰯というのはね、　（C　んー）

（A　＊＊＊）　キザムンネー　（C　ン）
（A　＊＊＊）　刻むのね、　　（C　ん）

オーキナ　オーウスン　マワリエ　（C　{笑}）
大きな　　大臼の　　まわりへ　（C　{笑}）

コー　モシローネー　（A　モシロー　シバッテ）
こう　むしろをねえ　（A　むしろを　しばって）

フタツン　オッタノオ　コーフン　　シバッテ
ふたつに　折ったのを　このように　しばって、

（A　＊＊＊　クワニサ）　（C　ン）　コーワ
（A　＊＊＊　くわにさ）　（C　ん）　×××

アノ　ソコワ　　コノグレ
あの　底［のほう］は　このぐらい

タカウ　シネッバ　　オエネワケネ。　（C　ンー　ンー）
高く　　しなければ　いけないわけね。（C　んー　んー）

ソッデ　ゴツゴツ　クワデ　（C　ン）　キッダカエ。
それで　ゴツゴツ　くわで　（C　ん）　切るんだから。

226C：クワデ　キル。
くわで　切る。

227A：クワデ　キンノ。
くわで　切るの。

228B：クワデ　キンノ。
くわで　切るの。

229C：ホシカオ。
干鰯を。

230B：イマミテント　キカイガ　ネーダモン。　ソン　トージワ。
今のように　　機械が　　なかったから。　その　当時は。

231C：アー　クワデ　キッタダネー。　（B　ウン　ソー）
あー　くわで　切ったんだね。　（B　うん　そう）

（A　ンー　キッター）　ウスン　ナカエ　イレテ。
（A　んー　切った）　　臼の　　中へ　　入れて。

232B：ウスンネー　ケツ。
　　臼のね　　尻。

233C：アー　ケツカー。　ンー　ンー。
　　あー　尻か。　　んー　んー。

234A：ケツワ　テーラダッペ　（C　ケツー　ンー）
　　尻は　　平らだろう　　（C　尻　　んー）

　　テーラダカエ　コッテ　　モシロデ　コーテ
　　平らだから　　こうやって　むしろで　こうやって

　　（B　モシロデ　マワリ　　カコッテ）
　　（B　むしろで　まわり［を］　囲って）

　　モシロデ　コーテ　　カコッテサー　（C　ンー　ンー）
　　むしろで　こうして　囲ってさ　　（C　んー　んー）

　　ナワデ　シバッテ　（C　ン）
　　縄で　　縛って　　（C　ん）

　　ホシカガ　コボレネヨン　　シテ　（C　ハー　ハー）
　　干鰯が　　こぼれないように　して　（C　はあ　はあ）

　　ネー？　（C　ンー　ンー）
　　ね？　　（C　んー　んー）

　　ソン　ナカエ　アルテード　ミデ　イレテサー　（C　ンー　ンー）
　　その　中へ　　ある程度　　簑で　入れてさ。　（C　んー　んー）

デ　オッカト　チャンガ　キテ。
で　おっかと　おやじが　来て。

235B：{笑}　コツコツ　コツコツ　ッテ。
{笑}　こつこつ　こつこつ　って。

236A：＊＊＊　（B　コーマッコ　シンノ）　コーマッコ　シンノ。
＊＊＊　（B　細かく　するの）　細かく　するの。

237B：ソッデ　（C　アー　ナルホドネー　＊＊＊）
それで　（C　あー　なるほどねえ　＊＊＊）

タヤ　ナンカエ　マクノ。
田や　なんかに　撒くの。

デネッバ　イッピンママジャ　オンネデショ。　（C　ンー）
でなければ　1匹のままでは　いけないでしょう。　（C　んー）

238A：イッピンママジャネー　（B　{笑}）
1匹のままじゃねえ、　（B　{笑}）

オーミズン　ナッタッキャ　オー　（B　＊＊＊）
大水に　なってしまうと、　××　（B　＊＊＊）

アタマ　アタマ　テンジョン　ナッテ　ウイテネー
頭［が］　頭［が］　上に　なって　浮いてねえ、

（B　ナガレテ）　ズート　ヨソン　タン　ナガレッチャウ。
（B　流れて）　ずっと　よその　田へ　流れてしまう。

（C　{笑}）　コナン　シタッケ　　スズンジャウダヨネー。
（C　{笑}）　粉に　　してしまえば　沈んでしまうんだよ。

239C：アー　ナールホドネ。
あー　なるほどね。

240A：ミズガ　シミーガ　　ハエーカエ。
水の　　しみるのは　早いから。

241B：ハエーカエネー。
早いからねえ。

242C：アー　イッピンマンマ　マイタカト　オモッタ。　（A　{笑}）
あー　１匹のまま　　まいたかと　思ってた。　（A　{笑}）

アー　ナルホドネー。
あー　なるほどねえ。

243A：イッピンマンマ　ダメ　　キカネーネ
１匹のままでは　だめ。　効かないね

ソイデネー　（C　アー　キカネー　ン）
それでねえ　（C　あー　効かない　ん）

ンー　アンデン　　キッタンニャ　カナワネー。
んー　どうしても　切ったのには　かなわない。

244C：ンー　ヤ　コーラヘンダッテ　ズーブン
んー　×　このあたりだって　ずいぶん

ソーユーノオ　ヤッタダッペネー。
そういうのを　やっただろうねえ。

245A：アー　ヤッタンマンモ。
あー　やったやった。

246B：アタシラ　　ヤッタネー。　（C　アー）
私たち［も］　やったね。　（C　あー）

（A　ヤタンマンモ）　（C　ソースカー）
（A　やったやった）　（C　そうですか）

247A：ダッテ　ダンナガ　オメー
だって　船主が　おまえ

コンダー　ゼネガ　ネーナッチャタッケヨー。　（C　ンー）
今度は　金が　なくなってしまうとね。　（C　んー）

（B　{笑}）
（B　{笑}）

コンダー　ホシカデ　ワケーコトン　ナッチャッター　（C　ハー）
今度は　干鰯で　分けることに　なってしまった。　（C　はあ）

フ　フナカタドンニサー　（C　ンー　ンー　ンー）
×　漁師たちにさ、　（C　んー　んー　んー）

ホシカデ　トッテクロエー。
干鰯で　とってくれって。

248C：ンー　ト　ソンナトキモ　アッタダネー。
　　んー　×　そんな時も　　あったんだねえ。

249B：ソッデ　アノ　（A　＊＊＊）　ノーカデ　ネー　モンワネー
　　それで　あの　（A　＊＊＊）　農家で　　ない　者はね、

　　ホシカ　　モラッタッテ　オエーデショー　　（C　ンー）
　　干鰯［を］　もらったって　いけないでしょう。（C　んー）

　　ナカゼンネー　　（C　ンー　ンー　ンー）　（A　ン　ダカン）
　　中瀬の人たちね。（C　んー　んー　んー）　（A　ん　だから）

　　ダカン　タカンホン　ヒャクショー　ヤッテン　　モンニ
　　だから　高のほうの　百姓［を］　　やっている　人に

　　（A　ヒャクショー　ヤッテン　　モンニ　カッテクレ　　ッテ）
　　（A　百姓［を］　　やっている　人に　「買ってくれ」　って）

　　カッテクレ　　ッテ　ソエテネ。（C　アー）
　　「買ってくれ」　って　言ってね。（C　あー）

　　デー　ヒトンブンマデ　（A　ヒトン　ブンマデ　カッテ）
　　で　　人のぶんまで　　（A　人の　　ぶんまで　買って）

　　カッテ。（C　アー）
　　買って。（C　あー）

21↑22

250B：＊＊＊　アン　ジブンニャネー　イマト　（C　ンー）　チガッテ
　　＊＊＊　あの　頃にはねえ　　今と　　（C　んー）　違って、

カガクヒリョージャ　ネーカエ　　コメモ　トレネッタネー。
化学肥料じゃ　　ないから、　米も　　とれなかったねえ。

（C　ンー）
（C　んー）

251A：アー　ユーキヒリョーダカエ
あー　有機肥料だから

トレソーナ　モンダッタガナー。　（C　ンー）
とれそうな　ものだったがなあ。　（C　んー）

252B：タンナッタダネ　　コヤシガネ。
足りなかったんだね　肥やしがね。

253C：イマ　マタ　ソーユーノオ　ツカエバ
今　　また　そういうのを　使えば

イーダガンモ　シレネーネ。
いいかも　　しれないね。

254B：イマネー。
今ねえ。

255A：イマ　ツカエバ　トレンネー。
今　　使えば　　とれるね。

256C：ンー　（B　{笑}）　（A　＊＊＊）　＊＊＊
んー　（B　{笑}）　（A　＊＊＊）　＊＊＊

カイガン　テンモンドンワ　ミンナ　ハー　ジビキヤ
海岸［に］　住んでいる者は　みんな　もう　地曳［網漁］や

アグリン　センモンダッタカネー。
あぐり［網漁］の　専門だったかねえ。

257A：ウン　センモンダッタ。　（C　アー）
うん　専門だった。　（C　あー）

ヒャクショー　シネッタッテ　クッテラレタダエー。
百姓［を］　しなくたって、　食べていけたんだよ。

（C　ンー）
（C　んー）

ダッテ　ジビキワ　ハー　エ　ズート　オメー　＊
だって　地曳［網漁］は　もう　×　ずっと　おまえ　＊

アサ　ヤッテ　マタ　ユーバマ　ヤッダッペ？　（C　ンー）
朝　やって　また　夕浜　やるだろう？　（C　んー）

ユーバマ　ヤッダカエー。　（C　ンー）
夕浜　やるんだからね。　（C　んー）

ネー？　（C　ンー）
ねえ？　（C　んー）

デ　ハー　オミキ　＊＊＊　ゴチソーン　ナッテキテ
それで　もう　お神酒［を］　＊＊＊　ごちそうに　なって来て

千葉 22-4

ハー　ウチ　　キテ　デ　　デンデ　ネテヤイデ
もう　うちへ　来て　それで　///　/////

(B　{笑})　{笑}　(C　{笑})
(B　{笑})　{笑}　(C　{笑})

アノ　フユニ　ナレバヨー　アグリガ　　ハジマルダッペ？
あの　冬に　　なればよ、　あぐり［網漁］が　始まるだろう？

(C　アー)　ジューガツ　ツイタチカラ
(C　あー)　10月　　1日から

(C　ン　ン　ン)　ネ？　(C　ン)
(C　ん　ん　ん)　ね？　(C　ん)

ジューガツジャネー　ジューイチカツ　ツイタチダ。
10月じゃない、　　11月　　1日だ。

ショク〔22〕　アレ　ッテ　　ショクガ　ハー　ハジマッダカラ
職　　××　って、　職が　　もう　始まるんだから

(C　ンー)　アグリン。　　ソッデー　オメー
(C　んー)　あぐり［網漁］の。　それで　　おまえ

ナンダモノ　アノ　アノ　メーキン　テ　ソエテヨー
何だもの　　あの　あの　「前金」　と　いってよ、

(C　ンー)　カネガ　ミンナ　　ワタッダカエ。
(C　んー)　金が　　みんな［に］　渡るんだから。

（C　アー）　ンー　オレーキン　テ　ソエテ　（C　へー）
（C　あー）　んー「お礼金」　と　いって、（C　へー）

ショクノネ　（C　ン）　ショクン　オリルト　ハー
職のね　（C　ん）　職に　おりると　もう

オメー　コトシ　キラレッカー」　ッテ
「おまえ　今年　来られるか」　って、

マワッテクルモンガ　アッダヨネー？　（C　ン　ン）
［聞いて］まわって来る者が　あるんだよね？　（C　ん　ん）

「エガレルヨー」　ッタッケ
「行けるよ」　って言うと、

「ダ　テキン　イクラ　イクラ」　ッテ　ソエテヨー
「では　手金　いくら　いくら」　って　言ってよ。

（C　ハー）
（C　はあ）

258A：ミンナ　マワッテクッダエ。　（C　ン）
みんな　まわって来るんだよ。（C　ん）

259B：ダケン　コンムラデンネ　（C　ン）
だけど　この村ではね　（C　ん）

アグリン　フネン　（A　{笑}）
あぐり［網漁］の　船に　（A　{笑}）

ナノリン　イッタ　モンワ　ンニンモ　イネノ。
乗りに　行った　者は　何人も　いないの。

（C　ンー）　イネー。
（C　んー）　いない。

260A：イネーヤ。
いないや。

261B：デ　アタシラゲモ　テガ　ネーテアンデン
で、　私の家も　［働き］手が　なくても

ノリン　（C　ン）　イッテネー　（C　ン　ン）
乗りに　（C　ん）　行ってねえ、　（C　ん　ん）

ヨルワ　オソシ　アサワネ　ハ　ゴージ　ゴジ　ッチタッケ
夜は　遅いし、　朝はね　×　5時　5時　というと

フユ　ジブンネー　（C　ンー）　マックラダネー。
冬［の］　頃はねえ　（C　んー）　真っ暗だねえ。

（C　マックラダ）
（C　真っ暗だ）

262A：X5ドンノ　イマン　ジイガ　ジイガ
X5さんの　今の　おじいさんが　おじいさんが

ニネン　イッタカー。　（B　ンー）
2年　行ったか。　（B　んー）

263C：アー　（A　ニネン　イッタ）
あー　（A　2年　行った）

X5ドンノ　オジーサンモ　イッタデスカ。
X5さんの　おじいさんも　行ったんですか。

264A：{鼻をすする音}　ニネン　イッター。　（C　ンー）
{鼻をすする音}　2年　行った。　（C　んー）

265B：ソッデ　ヨルワネー　オソーシ。
それで　夜はねえ　遅いし。

266A：オラ　ゴネン　エッタナー。　（C　ゴネンカ　ハー）
俺は　5年　行ったなあ。　（C　5年か　はあ）

267B：チョットネー　（A　ゴネン　{咳払い}）
ちょっとね、　（A　5年　{咳払い}）

アノ　リョーガ　オーイトネー？　（C　ン）
あの　漁が　多いとね？　（C　ん）

ヨル　トンデンネージブンニ　モドッテクッデスヨー
夜　とんでもない時間に　戻って来るんですよ。

ソッデ　フロ　タテテサー　（A　ホッデネー）
それで　お風呂［を］　たててさ、　（A　それでねえ）

（C　ンー）　ソンジブンニャ　モスデショー。
（C　んー）　その頃には　燃やすでしょう。

（C　ンー　ンー）　イマミテントネー。
（C　んー　んー）　今のようにねえ。

268A：エッテキ　エッテキテ　メシ　　クッタッケ
××××　行ってきて　飯［を］　食べてしまうと

ハー　ヒガシガ　シランジャウダエー。
もう　東が　　明るくなってしまうんだよ。

ネー　　メシ　　クッタッケー。　（C　ンー）
ねえ、　飯［を］　食べてしまうと。（C　んー）

ダカエ　ドーシタッテ　　ダカー　アサガ　エグノガ
だから　どうしたって、　だから　朝が　　行くのが

オソー　ナッチャウダエネー。　（C　ンー）
遅く　　なってしまうんだよね。（C　んー）

269B：アントキワネー。
あの時はねえ。

270A：エッタッケネー　ハー　トッショリドンバッダエー　（B　ン）
行くとね、　　もう　年寄りたちばかりだよ。　（B　ん）

ワケモンドンワ　ハー　クタブレテッダカエヨー　（C　ン）
若い人たちは　　もう　疲れているからよ、　　（C　ん）

エガレヤシネダカン　　（C　ン）
来られやしないんだから。（C　ん）

271B：イマミテント　デンキコタツガ　アルワケジャナシネー
今のように　電気こたつが　あるわけじゃないしねえ。

（C　ン）　コンナ　ヒバチエ　ヒオ　オコシテ
（C　ん）　こんな　火鉢へ　火を　おこして、

（C　ン）　ネー　ヨル　ヨナカン
（C　ん）　ねえ。　夜　夜中に

マッテンノ　ヨーイナモンジャネー
待っているの［は］　楽なものではない。

ウチエ　イルモンモ　タイヘンダヨー？
家に　いる者も　たいへんだよ。

272C：ソラ　ソーダヨネー。（B　ンー）
それは　そうだよねえ。（B　んー）

273A：アー　コタツガ　ネーカラネー。
あー　こたつが　ないからねえ。

274C：ンー　ミンナ　マキヤ　スミダモンネー。
んー　みんな　薪や　炭だものねえ。

（A　ソー　ソー　マキヤ　スミダカエ）
（A　そう　そう。　薪や　炭だから）

275B：ソッデ　フロモサー　キテ　スグ　ヘーランネットネー
それで　風呂もさ、［帰って］来て　すぐ　入れないとね、

（C　ンー）　コマエ　ト　オモッテ　マ　モシタリ
（C　んー）　困る　　と　思って、　ま　燃したり

（A　{笑}）　ケシタリ　モシタリ　ケシタリ。
（A　{笑}）　消したり　燃したり　消したり。

276A：X5ドンノ　オバーサンノ　ヨメゴトガナー
X5さんの　おばあさんの　愚痴がなあ。

277B：デン　アン　トージワネー
でも　あの　当時はねえ、

ナガグツデ　シタナエン　ウシロンホン　モドッテ　クット
長靴で　　下の家の　　後ろのほうに　戻って　　来ると

シモゴネリデ　アッタラシーネー。
霜だらけで　　あったらしいねえ。

スタスタト　モドッテクット　シーント　シテッカンネ
すたすたと　戻ってくると　　シーンと　しているからね。

ハー　キタナー　ト　オモッテネ。
はあ　来たな　　と　思ってね。

ソーフン　　キンチョーシテ　マッテタダガン
そういうふうに　緊張して　　待っていたんだから、

アンダガン　ウチー　　イル　モンモ
何だか　　家［に］　いる　者も

ヨーイナモンジャ　ナッタネー。
楽なものじゃ　　なかったねえ。

278B：ナガグツン　オトガ　シッダエ。
長靴の　　音が　　するんだよ。

22↑

―― 中　略 ――

279A：フナカタ　イッポンデ　ヤルモンモ　アル　　（B　ソーネー）
漁師　　一本で　　やる者も　　いる。（B　そうねえ）

↑23

ン　ダカエ　フナカタデ　ヤル　モンワネー　（C　ン）
ん　だから　漁師で　　やる　者はねえ、　（C　ん）

アー　ジブンノ　フッチャ　ムコーエ　アッダカエー
あー　自分の　　食糧は　　向こうへ　あるんだから、

（C　ンー　ンー　ンー　ンー）　アサ　エッテ　クーダッペー
（C　んー　んー　んー　んー）　朝　　行って　食べるだろう。

（C　ン）　アー　オイヌケン　エッテ。
（C　ん）　あー　起き抜けに　行って。

280C：ア　ゼンブー　ムコーデ　クッチャウダネー。
あ　全部　　向こうで　食べてしまうんだね。

281A：ンー　（B　ソー　ソー）　デーサー　　（C　ハー）
んー　（B　そー　そー）　それでね。　（C　はあ）

ヨルノ　ブンワ　ニゴーハンワ　モラッテ　クッダカエ。
夜の　分は　２合半は　もらって　来るんだから。

（C　ハー）
（C　はあ）

282B：イッショクガ　（A　＊＊＊）　ニゴーゴセキ　ッテ
１食が　（A　＊＊＊）　２合５斥　って

（A　ニゴーゴセキ）　キマッテルラシー。　{笑}
（A　２合５斥）　決まっているらしい。　{笑}

（C　アー）　（A　ニゴーゴセキ）　（C　ニゴーゴセキ）
（C　あー）　（A　２合５斥）　（C　２合５斥）

283A：アー　ニゴーゴセキ　トーカメ　（C　ン）　トーカメ。
あー　２合５斥　10日目　（C　ん）　10日目。

（C　モラウ）
（C　もらう）

284A：＊＊　クレッダカエー。　（C　ハー）　ネー？
＊＊　くれるんだからね。　（C　はあ）　ねえ？

（C　アー　ナールホドネ）　ダカエ　（C　ンー）
（C　あー　なるほどね）　だから　（C　んー）

ジブンノ　ブンヤ　ハーネー　（C　ンー）　オキ
自分の　分は　もうね　（C　んー）　沖

ヒルマワ　ハー　オキデ　クーシサー　ネー？　（C　ンー）
昼間は　もう　沖で　食べるし、　ねえ？　（C　んー）

ダカエ　デネートキワ　コッチデサー
だから　出ないときは　こっちで

ナ　ナ　ナヤデ　クーケンガ。　ンー。
×　×　納屋で　食べるけれど。　んー。

285C：アー　ジャー　ジブンノ　クイブチト　キューリョーミテナノワ
あー　じゃあ　自分の　食べる分と　給料みたいなのは

（A　アー）　モラッチャウ　ワケダ。
（A　あー）　もらってしまう　わけだ。

（A　モラッチャウ）　アー　アー。
（A　もらってしまう）　あー　あー。

286B：ソンナン　シテン　ヨーイナモンジャ　ネーヨネー。
そのように　しても　楽なものでは　ないよね。

287A：ンー　＊＊　ヨーイジャネーヨー。
んー　＊＊　楽じゃないよ。

（C　ソーダヨネー　アサ　ハエーカエネー）
（C　そうでよねえ　朝　早いからね）

288B：ナマコイ〔23〕ダッテ　ヨーイジャネーデスヨ。
魚の行商だって　楽じゃないですよ。

ナマコイダッテ　（A　{咳}）
魚の行商だって　（A　{咳}）

ワタシラ　コン　ジーサンラワ　（C　ン　ン）
私たち、　この　じいさんたちは　（C　ん　ん）

トンデンネー　トークエ　イッタデショー。　（C　ンー）
とんでもなく　遠くへ　行ったでしょう。　（C　んー）

289A：エッター。
行った。

290B：＊＊＊　ワタシラネー　アンデ　ニジ　サンジン　オキタネー。
＊＊＊　私たちね　何で　2時　3時に　起きたねえ。

デ　ゴハン　タイテ
で　ご飯　炊いて

291A：オット　X6ドンダエー　トークエ　エッタノワ。
俺と　X6さんだよ、　遠くへ　行ったのは。

292B：アー　（C　アー）　ダカラ　オタクン　ホラ。
あー　（C　あー）　だから　お宅の　ほら。

293C：ン　ア　コマゴメ？
ん　あ　駒込？

294A：ソー　コマゴメ。
そう　駒込。

295C：アンダガン　ソンナ　ハナシ　　キータコトガ　アッタネ。
何だか　　そんな　話［を］　聞いたことが　あったね。

（A　＊＊＊　＊＊＊　コマゴメ）
（A　＊＊＊　＊＊＊　駒込）

296B：アッチノホンニャ　ネンジュ　（C　アラ　＊＊）
あっちのほうには　年中　　（C　××　＊＊）

エッテタ。
行っていた。

297C：ジテンシャデ？
自転車で？

298A：アー　ジテンシャデ。
あー　自転車で。

299B：アー　ジテンシャデ。
あー　自転車で。

300C：アッデ　ジテンシャデー
あれで　自転車で

ワタシラ　　チーセトキン　イッタトキャ
私たち［が］　小さい時に　　行った時には

ヤッパ　　サンジカン　カカッタサ。
やっぱり　3時間　　かかったさ。

301A：{笑}　（B　ネー）　オッラモ　（C　ン）
　　{笑}　（B　ねー）　俺たちも　（C　ん）

　　アン　ツルマイノ　サカー　　オメー
　　あの　鶴舞の　　坂［を］　おまえ

　　ヨイサー　（C　ソー）　コラサ　ト　アガッタダエ。
　　ヨイサー　（C　そう）　コラサ　と　上がったんだよ。

　　（C　ア　ツルマイノ　サカ）　（B　{笑}）
　　（C　あ　鶴舞の　　坂）　　（B　{笑}）

　　フドンメン　　サカーネー　（C　ソー　ソー　ソー　ンー）
　　不動堂の前の　坂をね　　（C　そう　そう　そう　んー）

　　サクラナミキン　ソバマデ　オッペシテ　アガッテサー。
　　桜並木の　　そばまで　押して　　上がってさ。

　　（C　ンー）　オーアセ　　ケーテヨー。　（C　＊＊＊）
　　（C　んー）　大汗［を］　かいてよ。　　（C　＊＊＊）

　　ソレカエ　コンド　オメー　クダッダッペー。　（C　ンー）
　　それから　今度　　おまえ　下るだろう。　　（C　んー）

　　クダッタッケ　コンド　アセ　　ケータノガ　ヒヤーコ
　　下った　　今度　　汗［を］　かいたのが　冷たく

　　（C　ンー　ンー）　ナッチマッテネー。
　　（C　んー　んー）　なってしまってねえ。

ウシクマデワ　ヒトアシモ　フマネーデ
牛久までは　＊＊足も　踏まない［＝こがない］で、

オートバイト　オンナジダッペ
オートバイと　同じだろう。

（C　ンー　アンモ　フマネーネー　ウシクマデ）
（C　んー　何も　踏まない［＝こがない］ね、　牛久まで）

アシ　フミコネーケンガ　（C　{笑}）
足［を］　踏み込まない［＝こがない］けれども　（C　{笑}）

セナカガ　ヒャーコナッチャッテ　{笑}
背中が　冷たくなってしまって　{笑}

（C　ソーダヨネ　アセ　カケバ）
（C　そうだよね　汗［を］　かけば）

302A：アセ　ケータノガ。
汗［を］　かいたのが。

303C：ダッテ　カナリナ　ミチノリガ　アルモンネー。
だって　かなりの　道のりが　あるものねえ。

（A　アー　ミチノリダヨ）
（A　あー　道のりだよ）

304B：デン　（C　ン）　ナマコエ　ッテ　ソエテワ　（C　ン）
でも　（C　ん）　魚の行商　って　いっては　（C　ん）

エゲバネー。　（C　ン）
行けばねえ。　（C　ん）

アノネ　イワシ　　カッタ　モトオ　　ヒーテ
あのね　イワシ［を］　買った　元［値］を　引いて、

イクラカ　モーケガ　（C　ン）　ヒゼニガ　ヒヤッケンガ
いくらか　儲けが　　（C　ん）　日銭が　　入るけれども、

アントージワ　ホラ　カマスムシロ〔24〕
あの当時は　　ほら　かますむしろ、

コーラジャ　　ミンナ　（C　アー）　オッタデショー。
このあたりでは　みんな　（C　あー）　織ったでしょう。

（C　ンー　ンー　ンー）　アレガ　ヨーイナモンジャネー
（C　んー　んー　んー）　あれが　楽なものではなかった。

ヨナベ　　シタンナンカ　シテネー。（C　ンー　ンー）
夜なべ［を］　したりなんか　してねえ。（C　んー　んー）

（A　アー　アー）　ウチンヨッテワサー
（A　あー　あー）　うちによってはさ

（A　｛鼻をすする音｝）　アノ　ワラオ　コー
（A　｛鼻をすする音｝）　あの　わらを　こう

ワラツブシキカイ　ッチノガ　　アッタケンガネ
わら潰し機械　　というのが　あったけれどね。

（C　ンー　ンー　ンー　ンー）
（C　んー　んー　んー　んー）

アタシラン　マワッジャネー
私たちの　　まわりではねえ、

アノー　ウスオ　コー　サカサンシテー
あの　　臼を　　こう　逆さにして、

ウスノ　ケッツエ　（C　ンー　ンー）　ヤッテネー
臼の　　尻へ　　（C　んー　んー）　やってねえ、

キネデ　トントン　ヤッコナルマデサ　　（C　アー）
杵で　　トントン　柔らかくなるまでさ、（C　あー）

ヒビ　アカギレガ　キレテネー　ソッデ
ひび　あかぎれが　切れてねえ　それで

（C　アー　ウチノ　バーサンナンカモ　ヤッタ　コレ　ンー）
（C　あー　うちの　ばあさんなんかも　やった　これ　んー）

ソッデ　ホラ　コンシゴトデショー。（C　ンー）
それで　ほら　根気仕事でしょう。　（C　んー）

305A：コンシゴトダエ。
根気仕事だよ。

306B：ダカエ　アサ　ヨルカンネー　（A　アー　＊　＊）
だから　朝　　夜からねえ、　（A　あー　＊　＊）

マー　ハタライモンワ　＊＊　ヨル　クジゴロマデ。
まあ　働き者は　＊＊　夜　9時頃まで。

（A　{鼻をすする音}）　（C　ンー）　＊＊＊
（A　{鼻をすする音}）　（C　んー）　＊＊＊

307A：イマ　アーチャンガヨ　オメラガ　アーチャンガヨー
今　お母さんがよ、　おまえの家の　お母さんがよ、

アーチャンガ　ガエ　＊＊
お母さんが　××　＊＊

コドモ　ブッテ　キターカラ　（C　ンー）
子ども［を］　おぶって　来たんだから。　（C　んー）

ウーン　＊＊　X7ネーチャンカシラナー　（C　ンー）
うーん　＊＊　X7姉ちゃんかしらなあ　（C　んー）

イチバン　ウエダッタカシラ　（C　ンー）
一番　上だったかしら　（C　んー）

オメラ　オトッツアント　フタッガネ
おまえの　お父さんと　二人がね

オット　X6ドンガ　モドッテ　キタダヨネー
俺と　X6さんが　戻って　来たんだよね、

（C　ン）　アキネカエヨー　（C　ン）
（C　ん）　商いからよ。　（C　ん）

ツルマイン　サカー　　クダッテ　キター　（C　アー）
鶴舞の　　坂［を］　下って　　きた　　（C　あー）

23↑24

「アッカ　アソエ　　カイグンガ　クッワエ」　ト
「あれ　　あそこへ　海軍が　　来るわ」　　と

X6ドンガ　ソエタダヨネー。　（C　ンー　ンー）
X6さんが　言ったんだよね。　（C　んー　んー）

アー　　アラ　　X8ドンダワエー　アラー
「あー　　あれは　X8さんだわ　　あれは。

アレ　バスン　ノレネッタダナー　　（C　アー）　モバラデヨー
あれ　バスに　乗れなかったんだな　（C　あー）　茂原でよ」

（C　ンー　ンー　ンー）　ソエテ　　イキアッター。
（C　んー　んー　んー）　［と］言って、　出会った。

（C　ンー）　イキアッタラバ
（C　んー）　出会ったら、

バスン　　ノリオクレチャッター　（C　ンー）
「バスに　　乗り遅れてしまった　（C　んー）

モバラカエ　アルッタダヨー　アスコマデー　（C　ハー）
茂原から　　歩いたんだよ、　あそこまで。」　（C　はあ）

（B　{笑}）　{笑}　（C　モバラカラネ　ンー　アー）
（B　{笑}）　{笑}　（C　茂原からね　　んー　あー）

308A：エー　オメラ　　オトッツアントヨ
　　えー　おまえの　お父さんとよ

　　エマン　アーチャンガ　（C　ンー）　アーチャンガエー
　　今の　　お母さんが　　（C　んー）　お母さんがよ

　　（C　ンー）　コドモ　　ブッテー
　　（C　んー）　子ども［を］　おぶって

　　（C　ハー）　エー　アン　チョーナンノ　クラモチン
　　（C　はあ）　えー　あの　長南の　　蔵持ちの

　　アン　ソバマデヨー。　（C　ンー）
　　あの　そばまでよ。　　（C　んー）

　　パッタリ　デッカシタ。
　　ばったり　出くわした。

309C：クラモチン　アタリデネー。
　　蔵持ちの　　あたりでね。

310A：ンー　デッカシタダッチバ。　　ソエタッバ
　　んー　出くわしたんだってば。　そしたら

　　アジシタダ　　ッチバ
　　「どうしたんだ」　って言ったら、

　　X6ドンワ　ホラ　トシガ　ヨケーダカンネー　（C　ンー）
　　X6さんは　ほら　年齢が　上だからねえ。　　（C　んー）

アジシタダー　　ッテ　ソエタッバ
「どうしたんだ」　って　言ったら、

エー　　バスン　ノリ　ノリオクレッチャッタカエ
「えー　　バスに　乗り　乗り遅れてしまったから、

アルッテ　キチマッタ
歩いて　　来てしまった。

メンドクセーカエ　アルッテ　キチマッタ　　ッテ
面倒くさいから　　歩いて　　来てしまった」　って。

（C　ンー　ンー　ンー）
（C　んー　んー　んー）

アーチャンガ　タイヘンダッタッペ
お母さんが　　たいへんだったろう、

アン　ジブンニ　（C　アー）
あの　頃に　　（C　あー）

コドモ　　ブッテッダカエ。
子ども［を］　おぶっているんだから。

311C：コドモ　　ブッテー　（A　ンー）
「子ども［を］　おぶって　（A　んー）

アンダガン　ヨク　アルッテ　エッタコトガ　アル
何だか　　よく　歩いて　　行ったことが　ある」

トカナンテ　ヨー　ソイマシタヨー。
とかなんて　よく　言ってましたよ。

312A：コドモ　　ブッテー。　（C　ンー）　ンー
子ども［を］　おぶって　（C　んー）　んー

313C：＊＊　センソチューネ　アスコカラ　アッデスヨ
＊＊　戦争中ね　　あそこから　あれですよ、

コッチマデ　コメ　　ハコンデ　クレルッテ　ソエテ
こちらまで　米［を］　運んで　　くれるって　いって、

イッション　（A　{笑}）　ギューシャ　（A　ンー）
一緒に　　（A　{笑}）　牛車［に］　（A　んー）

ギューシャン　（B　＊＊＊）　ノッテネー？
牛車に　　（B　＊＊＊）　乗ってね？

（A　ンー）　キマシタケンガネー　イチニチ　カカッタヨ。
（A　んー）　来ましたけどねえ、　1日　　かかったよ。

314A：{笑}
{笑}

315C：ウー　アッデ　（B　{笑}）　アノー　ヤマホーノ　ウシワサー
うー　あれで　（B　{笑}）　あの　　山のほうの　牛はさ、

（A　ハハ）　ジドーシャト　イキアウト　（A　ン）
（A　ハハ）　自動車と　　出会うと　　（A　ん）

ビックリシテ　トマッチャウノサ。　{笑}
びっくりして　止まってしまうのさ。　{笑}

ダカエ　ハー　モバラホーエ　イクト
だから　もう　茂原へ　行くと、

チョイ　チョイ　トマッテバエ　イテ　{笑}　(A　{笑})
ちょい　ちょい　止まってばかり　いて　{笑}　(A　{笑})

イチニチ　カカッチャッタネー。
1日　かかってしまったんだね。

(A　{笑})　(B　ンー)　ンー　(A　アー)
(A　{笑})　(B　んー)　んー　(A　あー)

アンナホーマデ　ナガク　イッタダモンネー
あんなほうまで　長く　行ったんだもんねえ。

316A：{息を吸う音}　オメラ　コマゴメワ　アラ
{息を吸う音}　おまえの［家の］　駒込は　あれは

ハヤコトシタダモンネー　＊＊＊
早いことした［＝早く亡くなった］ものだものね　＊＊＊

317C：アー　ゴジューニダッタモン。
あー　52［歳］だったもの。

318A：ゴジューニダッタテネー。
52［歳］だったってね。

319C：ンー　マー　コレカッダッチノンネー。
　　んー　まあ　これからだっていうのにねえ。

320A：オラー　（C　{咳}）　イキアッタノガ
　　俺が　（C　{咳}）　出会ったのが、

　　オメラ　オトッツアンガ　ソンソン　トキカナ？　（C　アー）
　　おまえの　お父さんが　村葬の　時かな？　（C　あー）

　　ソントキン　オメラゲデ　イキアッテ　（C　アー）
　　その時に　おまえの家で　出会って、　（C　あー）

　　ハナシ　シタケンガ　ソレカラ　ハー　イキアイコ　ナシダー
　　話［を］　したけど、　それから　もう　会ったこと　なしなんだ。

　　オラ　ハー　アキネン　イッコ　ナシダカラ　ハー。
　　俺は　もう　商いに　行くこと　なしだから　もう。

321C：ンー　アノ　オバーサンガ　シンデシマッテ
　　んー　あの　おばあさんが　死んでしまって、

　　ヨクトシダッタモン。　（A　ホー）
　　翌年だったもの。　（A　ほう）

　　イチネン　オッカ　オッカケテ　イッチャッタ
　　1年　×××　追っかけて　逝ってしまった、

　　（A　オバー　＊＊）　オヤコデ。
　　（A　×××　＊＊）　親子で。

322A：オヤコデ。
親子で。

323C：ンー　ンー　オンナジ　ノーイッケツ　（B　アー）
んー　んー　同じ　脳溢血。　（B　あー）

ア　フシギナ　モンダヨネー。
あ　不思議な　ものだよねえ。

324A：オバーサンモ　オトナシー　ニンゲンダッタナー。
おばあさんも　おとなしい　人間だったなあ。

325C：アー　ソ　マーズ　オトナシー　（A　ネー）　ニンゲンデネー。
あー　そ　まず　おとなしい　（A　ねえ）　人間でねえ。

ヤッパシ　カタッポノ　メガ　ワルクテサー。
やっぱり　片方の　目が　悪くてさ。

326A：アッデ　オメラゲン　コマゴメデ　ソン　オラ
あれで　おまえの家の　駒込で　その　××

ヤマグチン　ムコンホーエ　（C　エ）　アメ　アー
山口の　向こうのほうへ　（C　え）　××　あー

シタダ　ッチ　ミセヤガ　アッテ
下田　という　店屋が　あって、

（C　アー　ヨ　ヨク　シッテラー　｛笑｝）　｛笑｝
（C　あー　×　よく　知っているねえ　｛笑｝）　｛笑｝

＊＊＊　（C　ホント　ン　シタダ）
＊＊＊　（C　ほんと　ん　下田）

327A：シタダン　　（C　ソ　ソ）　ミセヤガ　アッテ
下田［という］　（C　そ　そ）　店屋が　　あって、

（C　ン）　アソラエ　　シンルイガ　アルケー。
（C　ん）　あそこのあたりに　親類が　　あるの。

328C：アッダエ　　（A　エー）　ン　シタダン　スグネー　（A　ン）
あるんだよ　（A　えー）　ん　下田の　　すぐねえ　（A　ん）

アノー　ソーダナー　アノー　ヒ　ヒダリテンホー
あのう　そうだなあ　あの　　×　左手［の］ほう、

アノ　シタダノ　ミギテガ　ア　アノジンジャダヨネー
あの　下田の　　右手が　　あ　あの神社だよねえ

（A　ン）　＊＊＊　テンノサマガ。
（A　ん）　＊＊＊　天王様が。

（A　ソー）　ソン　ハンタイガワンネー？
（A　そう）　その　反対側にね？

（A　ハンタイガワエ）　{鼻をすする音}　ンー
（A　反対側へ）　　{鼻をすする音}　んー

カンノ　ミセ　　ッテ　ソイタカナ　（C　ン）
「上の　　店」　って　いったかな　（C　ん）

カンノ　ミセ　ッテ　ソエテネー　（C　ン）
「上の　店」　って　いってねえ　（C　ん）

ソーガ　オバーサンノ　デタトコロ。
そこが　おばあさんの　生まれたところ。

329A：アー　ソーケー　（C　ンー）　{鼻をすする音}
あー　そうか。　（C　んー）　{鼻をすする音}

オラ　ヒトツマツン　C　C　ッテ　ツーカラヨ
俺［は］　一松の　C　C　って　いうからよ、

コラ　マー　C　ッチバ　X8ドンダナー　ト
これは　まあ　C　といえば、　X8さんだな　と

＊＊＊　（C　アー）
＊＊＊　（C　あー）

ジャー　コマゴメカエ　オ　オクサンガ　エッタダッペ
「じゃあ　駒込から　×　奥さんが　行ったんだろう」

ッテ　オガ　ソエタッバ　（C　ン）
って　俺が　言ったら、　（C　ん）

「ソーダエ」　ッテ　ソエテ　（C　＊＊＊）
「そうだよ」　って　言って、　（C　＊＊＊）

アー　ソエカエ　コンダー　ハナシガ　ツージテ
あー　それから　今度は　話が　通じて

イワシ　カッテモラッタナ。　{笑}
イワシ　買ってもらったな。　{笑}

（C　アー　ソースカ　　{笑}　ンー）　＊＊＊
（C　あー　そうですか　{笑}　んー）　＊＊＊

330C：アノヘンノ　　ウチマデ　ヨー　シッテンダ。
あのあたりの　家まで　　よく　知っているんだ。

331A：アー　アソラワネー　　（C　ソーサー）　＊＊＊
あー　あそこのあたりはねえ　（C　そうさあ）　＊＊＊

（C　アー）　アレカン　オメー　コンダ　{息を吸う音}
（C　あー）　あれから　おまえ　今度は　{息を吸う音}

（C　ンー）　アレ　シタダン　ミセ　（C　ン）　カエ
（C　んー）　あれ　下田の　　店　　（C　ん）　から

（C　ン）　ウエー　（C　ソーダ　＊＊＊）
（C　ん）　上へ　　（C　そうだ　＊＊＊）

ヤツエ　アガッダエ。　（C　ンー　ンー　ンー）
谷津へ　上がるんだよ。（C　んー　んー　んー）

ダカンネー　（C　ン）　ジテンシャオ　メッテンシタエ　オイテ
だからね　　（C　ん）　自転車を　　手前に　　置いて

（C　ハー）　ハコダケ　イツッパコグレー
（C　はあ）　箱だけ　　5箱ぐらい

コッテ　フッチャゲテヨー　（C　ハー）
こうして　持ち上げてよ。　（C　はあ）

デ　ウチ　ウチ　コッテ　ノタウッテ　アルイテ。
で　家　家　こうして　めぐって　歩いて。

（C　ンー）　ワケネーネ　ソンノホー　ジテンシャ
（C　んー）　わけないね　そのほうが　自転車［を］

（C　ン）　オッペシテ　エッテ　シバッタリ　フッテタリ
（C　ん）　押して　行って　しばったり　といたり

シッヨッカ　（C　ンー）　（B　{笑}）　{笑}
するよりも。（C　んー）　（B　{笑}）　{笑}

（C　＊＊＊）
（C　＊＊＊）

ダカエ　トナリカエ　トナリエ　マキベ　クグッテ
だから　隣から　隣へ　まきべいを　くぐって、

＊＊＊　（C　ンー　ンー）　イッチャウカンネー
＊＊＊　（C　んー　んー）　行ってしまうからねえ。

（C　ンー）
（C　んー）

ジテンシャジャ　ソンナ　ゲイト　デキネー。
自転車じゃ　そんな　芸当は　できない。

332C：アーランマシワ　ウチガ　チョット　（A　ン）
あのあたりは　家が　少し　（A　ん）

カタマッテッカンネー。
かたまっているからね。

（A　アー　カタマッテッカンネー）
（A　あー　かたまっているからね）

ソエカラ　ミンナ　サカミチダッタンナカダカラ。
それから　みんな　坂道だったりなんかだから。

（A　ソー）　アー　ジテンシャデ　イグヨリモネー
（A　そう）　あー　自転車で　行くよりもねえ

（A　アー）　＊＊＊　イーガンモ　シンネー。
（A　あー）　＊＊＊　いいかも　しれない。

24↑

千葉県長生郡長生村1977注記

〔1〕センドッキョ

現・千葉県長生郡一宮町船頭給。もとは，千葉県長生郡長生村一松の一部。

〔2〕ケンカグモ

けんか蜘蛛遊びというのは，この地方独特の子ども達の冬の遊びで，お茶の葉などに巣をつくっている蜘蛛2匹を，小箱の上でけんかをさせ，勝負を争わせて楽しむものである。

〔3〕ジビキ

地曳網漁。引網。網船で沖合いに網を張りまわし，引綱によって陸上に引き上げて魚を捕獲するもの。

〔4〕バン

板。砂浜の上で，地曳船をすべらせるための敷き板。敷き板は，かた木を井桁に組んであり，その上に重油などをぬってすべりやすくして使う。

〔5〕シロ

ひとり分の配当。漁獲代金の分け前。

〔6〕フナバンジョン

船番匠。船大工。

〔7〕ボ

地曳網の綱の長さの単位。地曳綱の綱の１巻の長さは「４ボ」である。

〔8〕マーミ

2艘の船で漁をする時，右側の船に積む網。左側を受け持つ船に対して親船となる。

〔9〕サカミ

2艘の船で漁をする時，左側の船に積む網。

〔10〕ドーノマ

和船で，船の中央の部分。

〔11〕アグリ

揚繰網漁。巻網。長方形の網で魚群を取り囲み，網裾を繰り上げて，魚が下方へ逃げないようにして捕獲するもの。

〔12〕ゴシャク

船首から両舷に接する部分についている三角形の板のことと思われる。

〔13〕カヨワセ

通わせ船。漁船と浜の間を魚を運んで往復する船。

〔14〕サンゼンゴヒャクイクラ

魚の獲れ高を表している。竹製のかごにいっぱい入った量が「1パイ」，「1カゴ」であり，これは3,500パイ，3,500カゴくらいの魚がとれたということである。

〔15〕マイウェ

マイワイ。万祝。大漁を祝って，網主が漁師にくれるお祝いの着物。波頭に鶴や亀が染めぬかれたおめでたい柄の着物である。

〔16〕ムコーハチマイ

向こう鉢巻。前頭部で結んだ鉢巻。

〔17〕トキイロ

トキ色。トキの羽のような色。淡紅色。

〔18〕タマ

タモアミ。玉網。魚をすくいあげるのに用いる柄のついた丸い網。

〔19〕ホシカ

干し鰯。イワシを乾燥させて作った肥料。

〔20〕コアゲ

船荷を河岸へ運び上げること。

〔21〕マメイタ

豆板。大豆油をしぼり取った後の，残りの豆かすを丸く板状に固めたもの。田の肥料に使われていた。

〔22〕ショク

職。「職が始まる」というのは，網主と漁師が雇用契約をして，漁師の仕事につくことをいう。

〔23〕ナマコイ

生魚を売りに歩く行商のことをいう。当時，一松地方の「ナマコイ」は，荷を自転車に乗せたり，肩にかついだりして，30km程度離れた千葉県市原市の山地まで出かけた。ナマコイは，「生乞い」から来ていることばのようである。

〔24〕カマスムシロ

わらむしろを二つ折りにし，縁を縫いとじた袋。

作成・公開の経緯

「各地方言収集緊急調査」について

昭和52(1977)年度から昭和60(1985)年度にかけて，文化庁によって「各地方言収集緊急調査」が実施された。これは，「全国的に急速に変化し，失われつつある各地の方言を各都道府県において，緊急に調査し，これを記録・保存する」目的で行われた，全国規模での方言談話の収録事業である。国立国語研究所は，文化庁の要請により，この調査の計画段階から，指導・助言などにかかわっていた。

文化庁は，全国の都道府県教育委員会に各地方言の収集を指示した。47都道府県は，実施時期ごとに，第1次（昭和52(1977)～54(1979)年度）から第7次（昭和58(1983)～60(1985)年度）に分けられ，それぞれ3年計画で，収録を行った。

各都道府県教育委員会は，言語学，国語学，方言学の専門家から調査員として，主任調査員2名と調査員若干名を選出し，さらに，専門家や学識経験者を交えて，調査地点，具体的な調査方法，全国共通の場面設定会話項目などについて検討し，その結果をもとに調査を進めた。

その実施の概要は次のようなものである。

(1) 調査目的

全国的に急速に変化し，失われつつある各地の方言を各都道府県において，緊急に調査し，記録・保存する。自然な方言会話を良質な録音で採録し，後世に残す。

(2) 調査方法

(3)の調査内容にしたがって，1地点につき1年度あたり10時間程度の方言会話を良質な録音で採録する。そのうち，自然な方言会話の部分を3時間程度選んで，文字化を行い，共通語訳をつけて，記録として残す。

(3) 調査内容

①老年層の男女各1人による対話，または，男女を含む3人の会話（2時間）

②老年層の男性1人の対話，または，老年層の男性3人の会話（1時間）

③老年層の女性２人の対話，または，老年層の女性３人の会話（１時間）
④老年層と若年層との対話，または，両者を含む３人の会話（１時間）
⑤老年層の男性２人の，目上の者と目下の者の対話（２時間）
⑥場面設定の対話（１時間，各場面につき１～３分程度）
場面に応じて，老年層の男性２人の対話，または，老年層の男女各１人による対話
⑦当該地域に伝わる民話（１時間）
民話の語り手が存在する地点で収録を行う。収録不可能な場合は，
⑧老年層の女性２人の，目上の者と目下の者の会話（１時間）
または，
⑨目上の老年層の男性と目下の老年層の女性の，２人の対話（１時間）
を収録する。

①～⑤，⑧，⑨については，話題は自由。一般的には，「調査地の現況・変遷」「気候」「天災などの思い出」「こどもの頃の遊び」「仕事」「土地の生業」「出稼ぎ」「家事」「こどもの養育」「生活の変遷」「生活の中の楽しみ」「自慢話」「衣」「食」「住」「婚礼などの風俗」「信仰」「年中行事」「村の将来」「若者観」など。

⑥は，自然談話では得にくい各種の表現を得ることを目的として，特定場面を設定し，話者に「演技的対話」をさせる。「訪問」「辞去」「道でのあいさつ」「出産」「婚礼」「葬式」などの各種のあいさつ，「依頼」「指示」「助言」「買物」「勧誘」などの各種場面を設定する。具体的には，文化庁と各都道府県教育委員会が協議して，全国共通の数場面を設定する。

(4) 調査地点

調査地点は，各都道府県について５地点程度を選定する。文化庁および地元方言研究者の意見を聞いて，各都道府県教育委員会が決定する。

方言区画上，複数の区域に分かれる場合は，方言の状況が概観できるように，それぞれの区域から収録地点を選ぶ。特に，離島など，特色の認められる方言は可能な限り収録する。

(5) 話者

その土地で生まれ育ち，よその土地に住んだことのない，あるいは，よそ

の土地に住んだことがあっても，その期間が短い人とする。在外期間は3年以内が望ましい。

年齢は，原則として，老年層の場合は，収録時において60歳以上とし，若年層の場合は，20～30歳代とする。

話者相互の立場はほぼ対等であることを原則とする。

(6) 録音

自然な会話を良質な録音で残すため，使用する録音機の性能，マイクの種類・配置，テープの長さ，収録場所の音環境などに注意する。

録音テープ記録票には，採録地点，採録年月日，話題，時間，話者，採録機種などを記入する。

録音テープは，収録したオリジナルのテープ（正）を1本，正テープより文字化部分を編集したテープ（副）を2本作成する。

(7) 文字化

方言音声の文字化の際の表記は，原則として，カタカナ書きとし，方言の音声的特徴をある程度表し得るよう工夫する。文字化に対応する共通語訳をつける。文字化内容について，場面・文脈・特徴的音声・方言形の語義・用法などについての注記，表記法についての説明などを行う。各地点ごとに，収録地点の方言の特色について解説する。収録地点の位置・交通・地勢・行政区画の変動・戸数・人口・産業など，収録地点の概観について記述する。録音内容記録票には，話者の氏名・性・生年・経歴，録音内容などを記入する。

文字化原稿は，手書きのオリジナル原稿（正）を1部，正の複製（副）を2部作成する。

調査は，各都道府県教育委員会と連携のうえ，全国各地の方言研究者が全面的に協力して行われた。その結果，地域的密度，収録量，方言的内容のいずれの面からも，他に類を見ない高レベルのデータを得たのである。

調査終了後，これらの方言談話の録音テープとその文字化原稿は，各教育委員会から，「各地方言収集緊急調査」報告として，文化庁に提出され，永久保存されることとなった。

なお，調査実施からかなりの時間が経過しているため，当時の関係文書の入手は困難であったが，文化庁，各都道府県教育委員会の協力により，部分的には手に入れることができた。得られたものを，資料として，この章の末尾に掲げたので，ご参照いただきたい。

「各地方言収集緊急調査」地点一覧

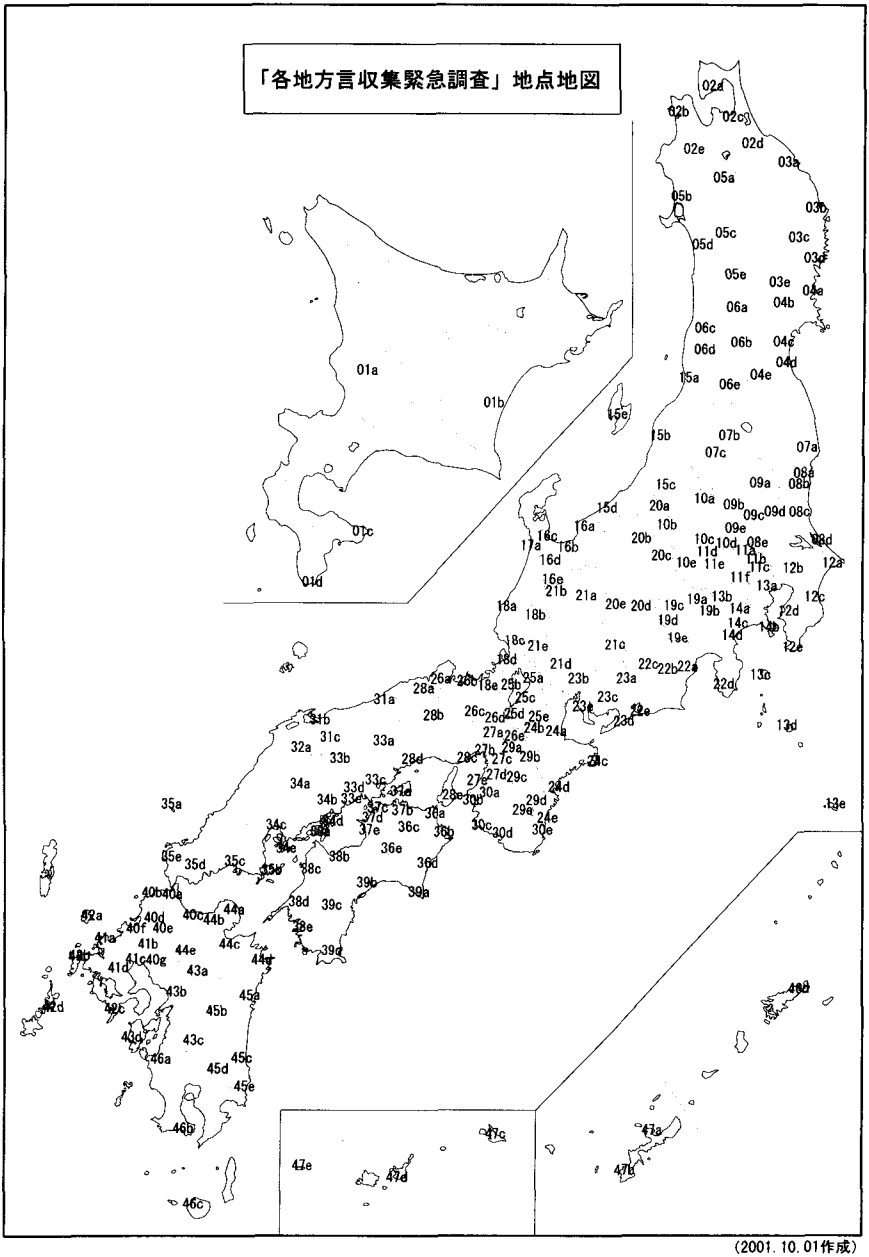
北海道
01a 空知支庁樺戸郡新十津川町
01b 十勝支庁中川郡豊頃町
01c 渡島支庁亀田郡椴法華村
01d 渡島支庁松前郡松前町
青森県
02a 下北郡川内町
02b 北津軽郡市浦村
02c 上北郡野辺地町
02d 三戸郡五戸町
02e 弘前市
岩手県
03a 久慈市
03b 宮古市
03c 遠野市
03d 大船渡市
03e 一関市
宮城県
04a 本吉郡本吉町・歌津町
04b 栗原郡築館町
04c 仙台市
04d 亘理郡亘理町
04e 刈田郡七ケ宿町
秋田県
05a 鹿角市
05b 能代市
05c 仙北郡西木村
05d 河辺郡雄和町
05e 湯沢市
山形県
06a 新庄市
06b 寒河江市
06c 東田川郡櫛引町
06d 東田川郡朝日村
06e 西置賜郡飯豊町・東置賜郡川西町
福島県
07a いわき市
07b 大沼郡会津高田町
07c 大沼郡昭和村
茨城県
08a 高萩市
08b 久慈郡里美村
08c 水戸市
08d 鹿島郡大野村（→鹿嶋市）
08e 古河市
栃木県
09a 大田原市
09b 日光市
09c 宇都宮市
09d 芳賀郡益子町
09e 安蘇郡田沼町
群馬県
10a 利根郡片品村
10b 吾妻郡六合村
10c 前橋市
10d 邑楽郡大泉町
10e 甘楽郡下仁田町

埼玉県
11a 加須市
11b 南埼玉郡宮代町
11c 春日部市
11d 児玉郡上里町
11e 秩父郡長瀞町
11f 入間郡大井町
千葉県
12a 海上郡飯岡町
12b 印旛郡印西町（→印西市）
12c 長生郡長生村
12d 木更津市
12e 館山市
東京都
13a 台東区
13b 西多摩郡檜原村
13c 大島町
13d 三宅村
13e 八丈町
神奈川県
14a 愛甲郡愛川町
14b 横須賀市
14c 秦野市
14d 小田原市
新潟県
15a 村上市
15b 西蒲原郡分水町
15c 十日町市
15d 糸魚川市
15e 佐渡郡佐和田町
富山県
16a 黒部市
16b 富山市
16c 氷見市
16d 砺波市
16e 東礪波郡上平村
石川県
17a 羽咋郡押水町
福井県
18a 坂井郡芦原町
18b 勝山市
18c 南条郡南条町
18d 敦賀市
18e 遠敷郡名田庄村
山梨県
19a 塩山市
19b 大月市
19c 韮崎市
19d 南巨摩郡早川町［奈良田］
19e 南巨摩郡身延町
長野県
20a 下水内郡栄村
20b 長野市
20c 小諸市
20d 伊那市
20e 木曽郡開田村

岐阜県
21a 高山市
21b 大野郡白川村
21c 中津川市
21d 岐阜市
21e 揖斐郡徳山村
静岡県
22a 静岡市
22b 榛原郡本川根町
22c 磐田郡水窪町
22d 賀茂郡松崎町
22e 浜名郡新居町
愛知県
23a 北設楽郡設楽町
23b 西春日井郡師勝町
23c 岡崎市
23d 豊橋市
23e 常滑市
三重県
24a 安芸郡美里村
24b 阿山郡阿山町
24c 志摩郡阿児町
24d 北牟婁郡海山町
24e 南牟婁郡御浜町
滋賀県
25a 長浜市
25b 高島郡安曇川町
25c 神崎郡能登川町
25d 大津市
25e 甲賀郡甲賀町
京都府
26a 中郡峰山町
26b 舞鶴市
26c 船井郡丹波町
26d 京都市
26e 相楽郡山城町
大阪府
27a 高槻市
27b 大阪市
27c 八尾市
27d 河内長野市
27e 泉佐野市
兵庫県
28a 豊岡市
28b 朝来郡生野町
28c 神戸市
28d 相生市
28e 洲本市
奈良県
29a 大和郡山市
29b 宇陀郡榛原町
29c 五條市
29d 吉野郡下北山村
29e 吉野郡十津川村
和歌山県
30a 那賀郡岩出町・打田町・桃山町
30b 和歌山市
30c 御坊市
30d 田辺市
30e 新宮市

鳥取県
31a 鳥取市
31b 米子市
31c 日野郡日野町
島根県
32a 仁多郡仁多町
岡山県
33a 勝田郡勝央町
33b 新見市
33c 岡山市
33d 小田郡矢掛町
33e 笠岡市
広島県
34a 三次市
34b 府中市
34c 広島市
34d 因島市
34e 安芸郡倉橋町
山口県
35a 萩市
35b 大島郡大島町
35c 徳山市
35d 美祢市
35e 豊浦郡豊北町
徳島県
36a 鳴門市
36b 阿南市
36c 美馬郡脇町
36d 海部郡海南町
36e 三好郡東祖谷山村
香川県
37a 小豆郡土庄町
37b 木田郡三木町
37c 丸亀市
37d 仲多度郡多度津町
37e 観音寺市
愛媛県
38a 越智郡大三島町
38b 西条市
38c 松山市
38d 大洲市
38e 宇和島市
高知県
39a 室戸市
39b 高知市
39c 高岡郡檮原町
39d 幡多郡三原村
福岡県
40a 北九州市
40b 遠賀郡芦屋町
40c 築上郡新吉富村
40d 飯塚市
40e 嘉穂郡稲築町
40f 福岡市
40g 八女市
佐賀県
41a 東松浦郡鎮西町
41b 鳥栖市
41c 佐賀市
41d 武雄市

長崎県
42a 壱岐郡芦辺町
42b 平戸市
42c 長崎市
42d 南松浦郡奈良尾町
熊本県
43a 阿蘇郡阿蘇町
43b 熊本市
43c 球磨郡錦町
43d 天草郡天草町
大分県
44a 東国東郡国東町
44b 宇佐市
44c 大分郡挾間町
44d 佐伯市
44e 日田郡前津江村
宮崎県
45a 延岡市
45b 東臼杵郡椎葉村
45c 宮崎市
45d 北諸県郡山田町
45e 日南市
鹿児島県
46a 出水市
46b 揖宿郡頴娃町
46c 熊毛郡上屋久町
46d 大島郡龍郷町
沖縄県
47a 国頭郡今帰仁村
47b 那覇市
47c 平良市
47d 石垣市
47e 八重山郡与那国町



(2001. 10. 01作成)

各地方言収集緊急調査補助全体計画

56.7.29.

1．年次計画

年度 計画	52	53	54	55	56	57	58	59	60	備考
第1次	8	8	8							
第2次		8	8	8						
第3次			6	6	6					
第4次				8	8	8				
第5次					10	10	10			
第6次						3	3	3		
第7次							4	4	4	
実施県数	8	16	22	22	24	21	17	7	4	
(千円) 予算額	6,000	12,210	18,150	18,150	18,000	15,750	12,750	5,250	3,000	

2．調査県一覧

第1次 (S.52～54)	第2次 (S.53～55)	第3次 (S.54～56)	第4次 (S.55～57)	第5次 (S.56～58)	第6次 (S.57～59)	第7次 (S.58～60)
宮城	北海道	青森	岩手	福島	茨城	群馬
秋田	山梨	栃木	山形	埼玉	福井	神奈川
千葉	長野	東京	新潟	富山	鳥取	京都
石川	山口	岐阜	奈良	愛知		兵庫
大阪	香川	静岡	島根	三重		
広島	佐賀	岡山	福岡	滋賀		
高知	大分		長崎	和歌山		
鹿児島	沖縄		熊本	徳島		
				愛媛		
				宮崎		
8県	8県	6県	8県	10県	3県	4県

各地方言収集緊急調査費国庫補助要項

昭和54年５月１日
文化庁長官裁定
（昭和62年６月１日廃止）

１．趣旨
全国的に急速に変化し，失われつつある各地の方言を各都道府県において，緊急に調査し，これを記録・保存するために要する経費について国が行う補助に関し，必要な事項を定めるものとする。

２．補助事業者
補助事業者は，都道府県とする。

３．補助対象事業
補助対象となる事業は，当該都道府県内における各地の方言を調査（録音採集・文字化）する事業とする。

４．補助対象経費
補助対象となる経費は，次に掲げる経費とし，その明細は別紙のとおりとする。
主たる事業費
調査経費

５．補助金の額
補助金の額は，補助対象経費の２分の１以内の定額とし，750千円を最高限度額とする。ただし，沖縄県については，別途協議して定めるものとする。

（別紙）

名称	対象経費の区分		項	目	目の細分	説　明
各地方言収集緊急調査事業	主たる事業費	調査経費	各地方言収集調査	報償費	○○謝金	調査員，調査補助員等謝金
					○○文字化謝金	
					○○協力謝金	資料
				旅費	普通旅費	
					費用弁償	
					特別旅費	
				需用費	消耗品費	野帳等文具，録音用テープ
					印刷製本費	調査報告用紙
					会議費	企画委員会打合会
				役務費	通信運搬費	郵便，電信電話料等
				使用料及び賃借料	会場借上料	
					器具借上料	
				委託料	○○委託費	事業の一部を委託して実施する場合（特に認められた場合に限る）

各地方言収集緊急調査実施要領

昭和52年７月28日
文化庁次長決裁

「各地方言収集緊急調査補助金」の運用に当たっては，文化庁文化財補助金交付規則及び各地方言収集緊急調査補助要項に定めるもののほか，この実施要領によるものとする。

１．地点の選定

文化庁及び地元方言研究者の意見を聴いて各都道府県（以下「県」という。）教育委員会が選定するものとする。

方言区画的にいくつかの区域に分かれる県においては，県下の方言の状況が概観できるように，それぞれの区域から収録地点を公平に選ばなければならない。また，離島など，特色の認められる方言は，可能な限り収録するよう努めなければならない。

２．録音内容・話者

ア　老年層話者による会話

収録内容――次の３種類の対話又は会話を収録する。

(1)　老年層の男女各１人による対話，又は，男女を含む３人の会話

(2)　老年層の男性２人の対話，又は，老年層の男性３人の会話

(3)　老年層の女性２人の対話，又は，老年層の女性３人の会話

話者の年齢など――原則として，収録時において60歳以上とし，やむを得ないときは55歳以上でもよい。発音その他の障害がなければ高齢者でも差し支えないが話者相互の年齢が離れすぎてはいけない。また，話者相互の立場等もほぼ対等であることを原則とする。

話者の居住歴――その土地で生まれ育ち，よその土地に住んだことのない，あるいは，その期間が短い（在外期間は３年以内が望ましい。）人とする。よその土地から嫁入り，婿入りした人は採らない。ただし，女性については，他に適当な人が求められないときは，近隣地域から嫁入りした人でも，収録地点との間に大きな方言のちがいが認められない場合は差し支えない。

司会者――主たる話者のほかに，話の引き出し役としての司会者が必要である。司会者は，あらかじめ地域・話者に見合った適切な話題を用意し，会話の円滑な進行に努める。司会者の性・年齢は問わない。

話題――自由。一般的には，「調査地の現況・変遷」「気候」「天災などの思い出」「こどものころの遊び」「仕事（土地の生業・出かせぎなど。）」「家事」「こどもの養育」「生活の変遷」「生活の中の楽しみ」「自慢話」「衣」「食」「住」「婚礼などの風俗」「信仰」「年中行事」「村の将来」「若者観」などが考えられる。

イ　老年層と若年層との会話

収録内容――老年層の男性と若年層の男性との対話，又は，両者を含む３人の話者の会話を収録する。

話者の年齢など――老年層については前項アに準ずる。若年層については，原則として

20～30歳代とする。話者相互の立場などはほぼ対等であることが望ましい。

話者の居住歴――老若ともアに準ずる。

ウ　目上の者と目下の者の会話

収録内容――目上，目下の関係にある老年層の男性２人による対話を収録する。対話の具体的な人物像として，たとえば，僧侶対その檀家に当たる人物，その土地出身の教員又は元教員（校長又は元校長等）対教え子又はその土地の一般的職業（農業，漁業等）に従事している人物（父兄）等が考えられる。

話者の年齢――目上，目下とも60歳以上を原則とする。

話者の居住歴――原則として前項アに準ずる。ただし，目上に当たる者については，在外期間の比較的長い人物を登場させなくてはならない場合もあるので，アの条件（在外歴３年以内）から若干逸脱してもやむを得ない。

エ　場面設定の会話

目的と方法――自然会話では得にくい各種の表現を得ることを目的として，特定場面を設定し，話者に「演技的対話」をさせる。

場面の内容――各種のあいさつ（訪問・辞去・道でのあいさつ・出産・婚礼・葬式）や依頼・指示・助言・買物・勧誘等の各種場面を設定する。具体的には，文化庁と各県教育委員会が協議して全国共通の数場面を設定し，各場面の録音量は，１～３分程度とする。

話者――場面に応じて老年層の男性どうしの対話，老年層の男性対同女性の対話等を行う。

オ　民話

民話の語り手が存在する地点で収録を行う。

3．録音機・録音技術

必ず，ステレオで録音することとし，テープは，オープン，カセットのいずれでもよい。この調査は，自然な方言会話を良い録音で収録し，それを後世に残すことが主要な目的であるからその点について十分配慮しなければならない。

録音機の操作は，録音技術に習熟した者が行い，会話の進行中は収録に専念しなければならない。なお，良質の録音を得るための基本的な留意点は次のとおりである。

①　雑音の少ない静かな部屋で録音する。足音，とびらの開閉音，机などへの衝撃音（湯飲みを置く音など），紙をめくる音などは意外に大きな雑音として録音されるので注意すること。

②　内蔵マイクを使用すると良質の録音が得られないので，必ず外部マイクを接続すること。外部マイクは録音機本体から30cm以上離して配置すること。

③　マイクはなるべく話者の近くに配置し，どの話者の音声も十分な音量で録音できるよう配慮する。話者によって声の大きさにかなりの差があることが多いので，この点に注意してマイクを配置すべきである。

録音の際には，音量メーターの針が十分に振れるよう注意すること。

④　テープを入れ替える際の無録音状態を避けるため録音機は２台使用すること。

⑤　カセットテープは短いもの（往復90分もの又は60分もの）を使用すること。

4．文字化原稿の作成・表記

文字化用紙は文化庁が定めた様式のものを使用すること。

表記は原則としてカタカナ書きとし，方言の音声的特徴をある程度表しうるよう工夫する。ただし，文字化担当者が国際音声符号又は音素符号を用いた方が便利であると判断した場合はその表記でもよい。文字化の際には，共通語訳を付けるとともに場面，文脈，特徴的音声，方言形の語義・用法などについての注釈をも付ける。

5．収録地点の概観，話者の経歴・録音内容の記録

収録地点の位置・交通，地勢・行政区画（旧藩領を含む）の変動・戸数・人口・主な産業などを記録する。

また，話者の経歴，録音内容などについては，「録音内容記録票」に録音のつど記入する。

各地方言収集緊急調査の実施について

54.5.10.

1．調査（方言収録）の年次計画（（　）は実施要領・文字化の時間数）

○　第１年次

①　老年層の男女各１人による対話，又は，男女を含む３人の会話（アの(1)・２時間）

②　老年層の男性２人の対話，又は，老年層の男性３人の会話　（アの(2)・１時間）

○　第２年次

①　目上の者と目下の者の会話（ウ・２時間）

②　老年層の女性２人の対話，又は，老年層の女性３人の会話　（アの(3)・１時間）

○　第３年次

①　老年層と若年層との会話（イ・１時間）

②　場面設定の会話（エ・１時間）

③　民話（オ・１時間）

(注)　３年次の「③　民話」の収録不能のときは，２年次の「目上の者と目下の者の会話」の女性２人の会話を収録

2．調査報告書の提出部数

(1)　録音テープ

・正……収録した生のテープ　１部

・副……文字化部分のテープ（正テープより文字化部分を複製したもの。）　２部

(2)　文字化原稿

・正……手書き原稿　１部

・副……正のコピー　２部

3．調査報告書の様式等

(1)　録音テープの記録票

NO.正

○　○　県　　－○

(副)

各地方言収集緊急調査録音記録票

補助要項の記号

1　採録地点＿＿＿＿＿＿＿＿

2　採録年月日＿＿＿＿＿＿＿＿

3　話題・時間　A面　（　　）分

B面　（　　）分

4　話者＿＿＿＿＿＿＿＿

5　採録機種＿＿＿＿＿＿＿＿

テープのケース箱に張り付けるようにしてください。

(2) 文字化原稿の表紙

文字化原稿は，各調査地点ごとに，(1) 録音内容記録票，(2) 収録地点とその方言の特色等解説（初年次のみ），(3) 録音文字化原稿の順で表紙（B４板目紙）を付けて綴ってください。

○　　○

○○県（昭和　　年度）

各地方言収集緊急調査
文字化原稿

（正）
又
は
副

調査地点　○○○○

(3) 文字化原稿の用紙

① 録音内容記録票
② 方言資料割付用紙
③ 方言調査解説用紙

（別紙のとおり）

調査実施上の留意事項について

1　調査（方言収録）の年次計画

年次	調査の内容（記号は実施要領による）	採録時間	解説・文字化時間
1年次	①　老年層の男女各1人による対話，又は，男女を含む3人の会話（アー（1）） ②　老年層の男性2人の対話，又は，老年層の男性3人の会話（アー（2））	10	2 1
2年次	①　目上の者と目下の者の会話（男性2人）（ウ） ②　老年層の女性2人の対話，又は，老年層の女性3人の会話（アー（3））	10	2 1
3年次	①　老年層と若年層との会話（イ） ②　場面設定の会話（エ） ③　民話（オ） （民話が収録できないときは，（注）参照。））	10	1 1 1
計		30	9

（注）

民話の適当な語り手が存在しない場合などのため，収録が不可能な地点は，老年層の男性（目上）と老年層の女性（目下）の2人の対話を収録する。その際の話題は自由であるが，長上者に対する女性の丁寧な表現が収録できるよう配慮していただきたい。

2　調査報告書の提出部数

(1)　録音テープ

正……収録した生のテープ　1部

副……文字化部分のテープ（正テープより文字化部分を複製したもの。）　2部

(2)　文字化原稿

正……手書き原稿　1部

副……正のコピー　2部

3　調査報告書の様式等

(1)　録音テープの記録票

NO.正

○　○　県　　－○

（副）

各地方言収集緊急調査録音記録票

補助要項の記号

1　採録地点

2　採録年月日

3　話題・時間　A面　　（　　）分

B面　　（　　）分

4　話者

5　採録機種

テープのケース箱に張り付けるようにしてください。

(2)　文字化原稿の表紙

文字化原稿は，各調査地点ごとに，(1) 録音内容記録票，(2) 収録地点とその方言の特色等解説（初年次のみ），(3) 録音文字化原稿の順で表紙（B４板目紙）を付けて綴ってください。

○　　○

○○県（昭和　　年度）

各地方言収集緊急調査
文字化原稿

（正）
又
は
副

調査地点　○○○○

(3) 文字化原稿の用紙

① 録音内容記録票
② 方言資料割付用紙
③ 方言調査解説用紙

} 別紙のとおり

(用紙の印刷発注については，国語課でまとめて行いますので必要部数を御連絡ください。)

4 文字化原稿の記入について（国語研・言語変化研究部でまとめたもの）

(1) 原稿用紙には，「方言資料割付用紙」と「方言資料解説用紙」の2種類があり，「割付用紙」には録音内容の文字化と標準語訳を，「解説用紙」には収録地点の概観，収録方言の特色，表記法についての説明，文字化内容についての注記などを記入する。

(2) 原稿用紙への記入は黒インキを用いる。（青インキは不可。）

割付用紙への記入

① 割付用紙の第1ページには，タイトル（録音内容を代表するようなもの），話し手の略号・氏名・性・生年を記入し，一段あけて，録音内容の文字化・標準語訳を記入する。（記入例参照）

② 割付用紙の左端の[ ]には話し手の略号を記入する。

③ カウンターつきの録音機を使用した場合は，その番号を要所要所に鉛筆で薄く記入しておいていただきたい。

④ 文字化の表記について

ア 文字化は文節単位の分かち書きとし，各センテンスの末尾に句点「。」「，」を打つ。読点は文字化部分には原則として付けない。なお，談話文における文の認定は方法論的に多くの問題があるが，あくまで便宜的なものとしておく。

イ 改行は話し手が交替した部分で行う。

ウ 文字化は原則として表音的カタカナ表記による。これは，利用者の便宜，文字化作業の能率などを考慮してのことである。ただし，対象とする方言の性格によって，カナ表記では特殊な字母を多数必要とし，かえって煩雑になると判断される場合は，国際音声字母による表記を用いてもよい。徹底した音韻（音素）表記は採らない。これは，音韻レベルの表記では捨象されることのある特徴的な方言音声や，自然会話にしばしば現われる無造作な発音，また，標準語的な発音の混入などを，解釈を加えずに，音声学的に記述しようとする意図による。なお，カナはあくまでも簡略音声表記として使用するわけであるから，それぞれのカナで表わす具体的音声の範囲については，解説（表記法の項）で説明しておいていただきたい。

エ 長音，鼻音，あるいは特徴的な方言音声をカタカナによって表わす場合，原則として次の方式によってほしい。

(ア) 長音には「ー」の印を用いる。

例 オハヨー

(イ) ガ行鼻音は，カ゜ キ゜ ク゜ …のように表わす。

例 カカ゜ミ [kaŋami]（鏡）

（ウ） 鼻音化には「ˣ」（上つき小字のン）を用いる。

例　マˣド［ma˜do］（窓）

カˣゴ［ka˜go］（籠）　　－高知方言など－

（エ） 合拗音の［kwa］［gwa］はクヮ，グヮのように表わす。

例　クヮジ［kwaʒi］（火事）　　－九州方言など－

（オ） ［ʃe］［dʒe］はシェ，ジェのように表わす。

例　シェナカ［ʃenaka］（背中）　　－九州方言など－

（カ） ［ti］［di］はティ，ディ，［tu］［du］はトゥ，ドゥのように表わす。

例　トゥキ［tuki］（月）　　－高知方言など－

（キ） ［Φa］［Φi］［Φe］…はファ，フィ，フェのように表わす。

例　フェンビ［Φe˜bi］（蛇）　　－奥羽方言など－

（ク） ［je］の音はイェで表わす。

例　イェダ［jeda］（枝）　　－九州方言など－

（ケ） ［æ］［kæ］［sæ］…はアェ，カェ，サェのように表す。

例　アカェー［akæ：］（赤い）　　－岡山方言など－

（コ） ［ɛ］［kɛ］［sɛ］…はエァ，ケァ，セァのように表わす。

例　アゲァ［agɛ］（赤い）　　－奥羽方言など－

上に示した以外の特殊な音声の表記は報告者が適宜くふうするか，あるいは，一般的な字母を使用しておき，そのつど注記欄で説明する。

例　キモノ(注)→注［kçïmono］

オ　アクセント，文末イントネーションの記述の有無は，その表記法を含め，担当者にまかせる。

カ　発音や録音が不明瞭なため聴き取りが困難な箇所には〰線を付けておく。

例　カステクレァー

キ　幾様にも聞こえる場合には仮にそのうちのひとつを〰線付きで記述し，他の「聞こえ」を記述欄に記す。

例　カステクレァー(注)→注「カステケロエ」または

「カステケロヤ」とも聞こえる。

ク　聴き取りが困難な箇所はなるべく話者や現地協力者にあたって確かめる。ただし，最終的には文字化担当者がそのように聞こえると判定した結果を記述する。話者などが主張する（意識する）発言内容と録音された音声の「聞こえ」とが一致しない，すなわち，話者が主張するようにはどうしても聴き取れない場合もありうるが，このような場合には，文字化担当者に「聞こえる音声」を〰線付きで記述し，話者などが主張する内容は注記欄に記す。

例　ボカー(注)→注 話者は「ボクワ」と言っていると主張。

ケ　最終的に聴き取り不能の箇所には，〰線のみを記しておく。

⑤　言いよどみ，言いかさなり，言いなおし，笑い声など。

ア　言いよどみは，その末尾に…線を付ける。

例　オフロ　サキカ。　タベルノ　サキ…。

イ　発言の途中で他の者が口をはさんだ場合には，次のように（　）を利用し，発言

が重複する部分に___線を付ける。

例　A　ヒルママデ　マズ　スコ゜トモ　オエッカラッテ

（B　ンダケンド　オレァー）　アト　スク゜イ　モッテクッカラ

ウ　重複部分が長い場合や，一人の発言が終わらないうちに他の者が話しはじめたような場合には，改行して，重複部分に___線を付ける。

例　A　アー　バサマ　オチャ　ダシェ　マズ。　チョイット

ナカ゜ス　キター。

B　イヤ　イソカ゜スィンダテ　キョーノー。

エ　言いかけて，それを言いなおした場合には，言いかけた部分に×××××を付ける。

例　アノー　ワズカナ　ゴ　ゴジュー

××　××××××

ゴジューエングラェージャッタカナー。

オ　笑い声などは文字化本文中に（　）に入れて記す。

例　ウレシーナー　（笑）

⑥　標準語訳は漢字平がなまじりの表記とし，それぞれの文節に対応する逐語訳を心がける。逐語訳であるために全体の文脈がつかみがたいと判断される場合には，注記欄でさらに説明する。文末詞や待遇表現などは訳のつけかたがむずかしいが，標準語訳はあくまでも内容理解の手がかりと考え，訳しかたが問題となるような箇所については，なるべく詳しい注記を付けるよう心がける。

⑦　注記について

ア　「割付用紙」には注記番号のみを（　）に入れて記し，注記内容は「解説用紙」に記入する。

イ　注記は，音声的特徴，基本的な語形（無造作な発音により語形が崩れている場合など），方言形の意味・用法・語源，民俗的事象（話題にのぼった民具・行事など），文脈のねじれ，標準語訳についての補足，話し手の動作（うなずき・手ぶりなど）などについて行う。とくに，方言形の意味・用法については，できるだけ多くの箇所に注を付けてほしい。

解説用紙への記入

解説用紙には次の事項を記入する。

A　収録地点とその方言について

1　地点名

2　収録地点の概観（位置・交通・地勢・行政区画の変動・戸数・人口・主な産業など）

3　収録した方言の特色

①　方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

②　音韻上の特色（モーラ表・音声的特徴）

③　文法上の特色（要点のみ。箇条書き）

4　その他（地点選定の理由，協力者の氏名，協力内容など）

B　表記について

それぞれの符号（カナ・音声符号）で表わす具体音声の範囲，特殊な表記についての

説明，判断に迷った微妙な音声の処理原則など。

C　収録内容の概説，注記など

1　タイトル（「割付用紙」の冒頭に記したもの）

2　録音年月日

3　録音場所

4　話し手の氏名・性・生年・職歴・役職歴・居住歴・言語的特徴（方言保有度・話し好きかどうか・早口か等）など。　　（話し手の性・生年は割付用紙にも記入）

5　録音環境（同席者・話の進行状況・場の雰囲気など）

なお，A，B，Cはそれぞれページを改めて記入する。Cはタイトルが変わる際に改ページを行う。

「全国方言談話データベース」について

「各地方言収集緊急調査」報告資料は，方言の使用実態を解明する貴重なデータであるとともに，急速に失われつつある各地の伝統的方言を，文化財として記録・保存するという意味においても意義のあるものである。

いくつかの教育委員会が，この資料の一部を用いて，独自に報告書を刊行している。ただし，市販されているわけではないので，一般には入手しにくい。また，その形態は印刷物であり，電子化された文字化テキストを備えたものはない。録音テープを添付しているものも少数である。その他の資料については，未公開であった。

その後，「各地方言収集緊急調査」報告資料は，文化庁から国立国語研究所に移管された。国立国語研究所では，受け継いだ録音テープ・文字化原稿を有効に利用するために，膨大な報告資料を整備して，方言談話の大規模なデータベースを作成し，公開するという計画を開始した。

平成8(1996)～12(2000)年度には，一般研究課題「方言録音文字化資料に関する研究」において，報告資料の一部を用いたケーススタディ的研究を行った。担当研究室は，情報資料研究部第二研究室（当時），担当者は，井上文子であった。所外研究委員として，真田信治氏（大阪大学大学院文学研究科，元国立国語研究所）に委嘱を行った。

平成13(2001)年度からは，「日本語情報資源の形成と共有のための基盤研究」というプロジェクトの一環として，全国方言談話データベースの作成と公開に取り組んでいる。担当部門・領域は，情報資料部門第二領域，担当者は，井上文子（情報資料部門第一領域）である。所外研究委員として，佐藤亮一氏（東京女子大学現代文化学部，元国立国語研究所），江川清氏（広島国際大学人間環境学部，元国立国語研究所），田原広史氏（大阪樟蔭女子大学学芸学部），真田信治氏（大阪大学大学院文学研究科，元国立国語研究所）に委嘱を行っている。

その一方で，平成9(1997)～13(2001)年度には，作成データベース名「全国方言談話資料データベース」，作成委員会名「全国方言談話資料データベース」作成委員会として，また，平成14(2002)年度には，作成データベース名「全国方言談話データベース」，作成委員会名「全国方言談話データベース」作成委員

会として，科学研究費補助金研究成果公開促進費（データベース）の交付を受けて，音声資料，文字化資料を電子化する作業を進めてきた。作成委員長は，佐藤亮一氏（東京女子大学現代文化学部，元国立国語研究所）であり，「各地方言収集緊急調査」当時，国立国語研究所言語変化研究部第一研究室長として，調査の計画段階から指導・助言にあたり，調査および報告資料の全体像を把握している。作成委員としては，江川清氏（広島国際大学人間環境学部，元国立国語研究所），田原広史氏（大阪樟蔭女子大学学芸学部），井上文子（国立国語研究所情報資料部門第一領域）が担当している。平成13(2001)年度には，「全国方言談話データベース」の公開を開始した。

なお，このデータベースの作成事業で受けた，科学研究費研究成果公開促進費（データベース）は下記のとおりである。

年度	課題番号	補助金交付額
平成９年度	57	1,800,000円
平成10年度	64	1,800,000円
平成11年度	501027	1,800,000円
平成12年度	128032	2,800,000円
平成13年度	138031	4,600,000円
平成14年度	148034	5,200,000円

「各地方言収集緊急調査」報告資料については，日本全国の47都道府県でそれぞれ５地点程度，計200地点あまりにおける，約4000時間にも及ぶ方言談話の録音テープと，その一部を文字化した原稿が残されている。昭和52(1977)～60(1985)年度当時の老年層話者の自然談話が中心であるので，現在においては急速に失われつつある伝統的方言が比較的よく残されているものであると考えられる。

これらの報告資料をすべてデータベース化するのが理想ではあるが，膨大な資料を一気にデータベース化するのは困難であるので，段階的に公開を行うことにする。

今回刊行する『全国方言談話データベース』では，まず，第一段階として，各都道府県につき１地点，計47地点の老年層男女の自然会話を選び，その地の

伝統的方言がもっともよく現れていると思われる部分を30～50分程度データベース化した。

データベース化のためには，次のような作業が必要であった。

①録音テープには，正が１本，副が２本ある。正は収録したオリジナルのテープ，副は正より文字化部分のみを編集したもので，いずれも60分または90分のカセットテープである。正をデジタル化し，複製を作成する。

②文字化原稿には，正が１部，副が２部ある。正は，文化庁指定のＢ４判の用紙を使用した手書き，副は正のコピーである。正の文字化，共通語訳をパソコンにテキストデータとして入力する。この時点では，できる限り正の文字化原稿に忠実に行う。

③文字化原稿の収録地点，話者，収録内容，状況記録などの確認をし，その文字化原稿に対応する録音テープの録音状態などの確認を行う。

④今回刊行するものでは，老年層男女の自然談話のうち，各都道府県につき１地点30～50分をめやすとして，データベース化部分に選定する。

⑤データベース化する部分の文字化テキストと，それに対応するデジタル録音音声を抽出する。

⑥音声データをもとに，文字データの明らかな誤りなどを修正する。原則としては，原資料の文字化原稿に従って行うが，見やすさを優先させたり，全体の統一を図ったりするため，必要に応じて変更を加える。この作業は，その地域の方言を専門とする研究者に依頼する。

⑦記号の種類と使い方，句読点，分かち書きなどについて，凡例を作成する。『全国方言談話データベース』における表記・形式は，見やすさや全体の統一のため，必要に応じて変更を加えているので，「各地方言収集緊急調査」当時のマニュアルに記載されているものとは部分的に違いが生じている。

⑧文字化データに沿う形で，注記を整える。原則としては原資料に従って行うが，場合に応じて最低限の変更を加える。

⑨収録地点の概観，方言の特色などの解説については，原則としては原資料に従って行うが，全体の統一を図るため，表記・章立てなどについて，最低限の変更を加える。

⑩調査の概要，収録した談話内容・地点・場所・日時などの情報，話者の性別・

年齢・職業などの情報をまとめる。

⑪校正を行った文字データをもとに，文字化と共通語訳を2段組に対照させたファイルを作成する。さらに，それをpdfファイルにする。

⑫文字化と共通語訳を2段組に対照させたファイルを用いて，文字化のtextファイル，共通語訳のtextファイルを作成する。

⑬音声データは，デジタル化した後，サンプリングレート，音声ファイル形式などの調整を行い，音声waveファイルを作成する。そして，それを文字化と共通語訳を2段組に対照させたページに従って，ページ単位に切り，文字化・共通語訳のpdfファイルにリンクさせる。

⑭CD-ROMは，データベースソフトを利用して，文字化・共通語訳の文字列による検索，話者による検索などができるようにする。

⑮CDには，トラックに区切った談話全体の音声を収録する。

⑯録音テープ・文字化原稿が所在不明の地点については，必要に応じて，現地に赴き，収録担当者・教育委員会・図書館・関係者の協力を仰ぎながら，入手に努める。

⑰「各地方言収集緊急調査」の話者・収録担当者・文字化担当者・解説担当者などには，可能な限り，文書でデータ公開の通知と確認を行う。

⑱作成過程において，ある程度のデータが蓄積された段階で，CD-ROM，または，音声はカセットテープ・MD，文字はFDを媒体とした試作版を作成し，モニターに依頼して意見・要望を求め，データベースに反映させる。

⑲検索情報の整備，検索マニュアル，利用規程などの作成を行う。

『全国方言談話データベース』全20巻の各巻は，冊子，CD-ROM，CDから成り，方言談話の音声（waveファイル），文字化（カタカナ表記，textファイル），共通語訳（漢字かなまじり表記，textファイル），文字化・共通語訳を2段組に対照させたもの（冊子，pdf）などを収録している。従来にはあまりなかった，音声，文字化，共通語訳の電子化データを備えているので，研究や教育のために加工して，自由に検索することができるという特徴がある。

刊行にあたっては，国立国語研究所における『全国方言談話データベース』刊行物検討委員会で最終的なチェックを行った。委員長として，熊谷康雄（情

報資料部門)，委員として，熊谷智子（研究開発部門第二領域)，三井はるみ（研究開発部門第二領域)，井上優（日本語教育部門第一領域)，井上文子（情報資料部門第一領域）が担当した。

なお，刊行計画は下記のとおりとなっている。

書名：『国立国語研究所資料集 13-1～20 全国方言談話データベース 日本のふるさとことば集成』全20巻

各巻：冊子 1冊 A5判 約200ページ，CD-ROM 1枚，CD 1枚

巻数	巻名	ISBN	刊行順
第1巻	北海道・青森	4-336-04361-2	15
第2巻	岩手・秋田	4-336-04362-0	16
第3巻	宮城・山形・福島	4-336-04363-9	17
第4巻	茨城・栃木	4-336-04364-7	4
第5巻	埼玉・千葉	4-336-04365-5	5
第6巻	東京・神奈川	4-336-04366-3	6
第7巻	群馬・新潟	4-336-04367-1	7
第8巻	長野・山梨・静岡	4-336-04368-X	12
第9巻	岐阜・愛知・三重	4-336-04369-8	13
第10巻	富山・石川・福井	4-336-04370-1	14
第11巻	京都・滋賀	4-336-04371-X	1
第12巻	奈良・和歌山	4-336-04372-8	2
第13巻	大阪・兵庫	4-336-04373-6	3
第14巻	鳥取・島根・岡山	4-336-04374-4	8
第15巻	広島・山口	4-336-04375-2	9
第16巻	香川・徳島	4-336-04376-0	10
第17巻	愛媛・高知	4-336-04377-9	11
第18巻	福岡・佐賀・大分	4-336-04378-7	18
第19巻	長崎・熊本・宮崎	4-336-04379-5	19
第20巻	鹿児島・沖縄	4-336-04380-9	20

国立国語研究所資料集13-5

全国方言談話データベース
日本のふるさとことば集成
第5巻 埼玉・千葉

2002年9月30日 発行

編集：国立国語研究所
〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14
TEL：03-3900-3111（代表）
FAX：03-3906-3530（代表）
URL：http://www.kokken.go.jp

本書の市販品発行所

発行：国書刊行会
〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15
TEL：03-5970-7421（代表）
FAX：03-5970-7427（営業）
URL：http://www.kokusho.co.jp

（平14-05）